

1420-OO (第97図)

G24NXに位置する。溝状のもので、長軸約1.5m、短軸40~60cm、深さ約20cmである。埋土は灰色粘質シルト層である。

出土遺物 (第104図、図版49)

出土遺物は石鎌1点(581)がある。(581)は円基式直刃石鎌である。先端部を折損しており、ローリングをうけている。縄紋時代のものと思われる。

1313-OS (第97・101図)

G24FQ付近に位置し、第1次調査区にまたがる。第1次調査区においてはその上層部分のみを検出した。(第III章第3節参照)

溝は南北方向のもので、検出長は第1次調査区検出分を含め約23m、幅は約1m、深さは約75cmである。埋土の上層部分は橙色シルト層、灰黄褐色シルト層、褐灰色粘土層、黒褐色粘土層等で、下層部分は褐灰色粘土層を主体として、側壁部分に緑灰色粘質シルト層、オリーブ灰色粘土層、最下層に褐灰色砂層が堆積する。溝の南端部は877-ORの河床へと伸びており、また溝の埋土と877-ORの埋土の堆積状況からこの溝が埋没した後に877-ORが埋没していることが窺われることなどにより、877-ORが存在していた時期にこの溝も機能していたものと考えられる。

出土遺物 (第99図、図版48)

本調査区における出土遺物は弥生土器壺1点(573)が認められる。(573)は体部の最大径16.0cm、底径3.8cmのものである。外面には縦方向あるいは横方向のヘラミガキが、内面にはヨコナデが認められる。色調は外面灰白色、内面明褐色を呈する。胎上は3mmの大白色疎及び黑色疎を含んでいる。弥生時代後期のものと思われる。

1421-OS (第97図)

G24IR・JRに位置する。北東から南西方向のもので、南西端は調査区外に伸びる。検出長は約4m、幅約1m、深さは約20cmである。埋土はにぶい黄橙色粘土層である。

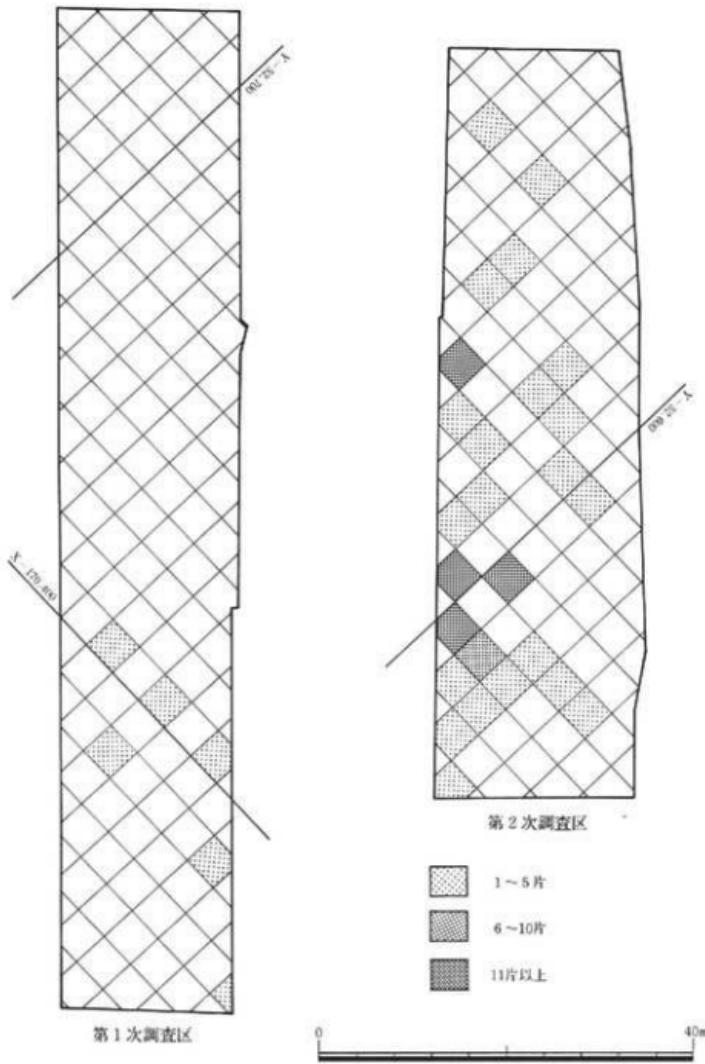
出土遺物は認められない。

877-OR (第97図)

G24GP付近で検出した。概ね南北方向のもので第1次調査区にまたがって位置する。本調査区においてはその右岸の一部を検出したにすぎず、詳細は前節に委ねる。

出土遺物 (第99図、図版48)

本調査区において出土した遺物は弥生土器壺12片、甕37片(571・572)、高杯10片(570)、



第98図 繩紋土器出土地点図 (1/600)

縄紋土器深鉢 1 片 (569)、不明 1 片等がある。(571・572) はいずれも底部片である。(571) は底径 4.9 cm で、外面にタタキメ、内面には僅かに板状工具によるナデが認められる。色調は内外面とも灰黄褐色を呈する。胎土は 7 mm 大の白色礫及び白色砂粒を多く含む。(570) は中空の脚柱部で、径は 3.4 cm である。杯部はその接合箇所より欠損しており、杯部底部が円盤充填によるものであることを窺わせる。調整は外面縦方向のヘラミガキが僅かに認められる。内面上半部はヨコナデが認められるが、下半部は摩耗のため不明である。なお、下半部には直径 1.1 cm の透孔が認められるが、脚裾部が欠損しているため数は不明である。色調は内外面とも灰白色を呈する。胎土は白色砂粒を含む。これら弥生土器はいずれも弥生時代後期のものと思われる。(569) は底径は 12.7 cm の底部片である。調整は摩耗が著しく不明である。色調は外面灰白色、内面橙色を呈する。胎土は 5 mm 大の白色礫、透白色礫及び白色砂粒を多く含み、粗い。時期は後期前葉のものと思われる。

包含層 (第96・98図)

第 3 層下、第 4 層上面において縄紋土器を包含する土層を確認した。その範囲は G24K W付近を北限として本調査区南半部のほぼ全域に広がる。土層はにぶい黄褐色粘質シルト層、にぶい黄色粘土層、灰黄褐色粘土層等で、厚さは 10~30 cm である。第 4 層上面の若干くばんだ所に堆積したタマリ状のものと思われる。

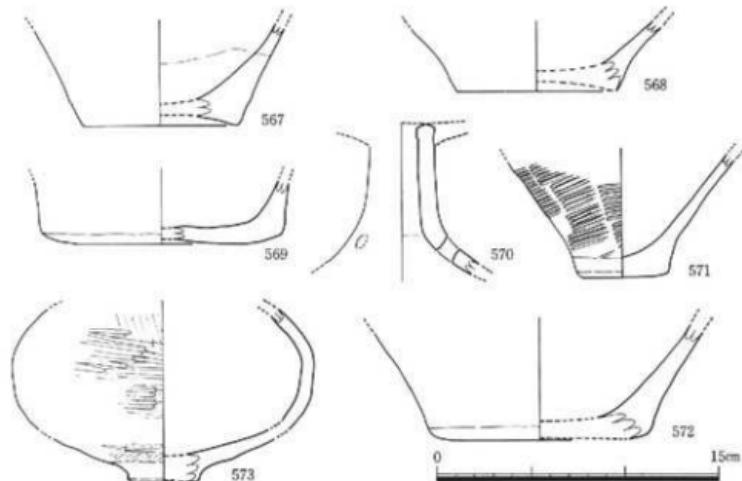
出土遺物 (第99・104・105・106図 図版49・50)

出土遺物は縄紋土器 108 片 (567・568)、石鏸 10 点 (574・576~580・582・583・588・589)、尖頭器 1 点 (592)、石匙 1 点 (593)、スクレイパー 3 点 (596~598) がある。(567・568) は、いずれも深鉢の底部である。(567) は外面にナナメ方向の貝殻条痕が認められ、底部は上げ底に仕上げる。胎土には片岩等の砂粒を多く含む。(568) は摩耗が著しく調整等は不明である。時期はいずれも後期後葉に属すると考えられる。他の破片はすべて体部片であり、摩耗も著しくほとんどのものは調整等が不明であるが、若干外面に貝殻条痕の認められるものもある。

(574) は凹基式石鏸である。基部を折損している。主要剝離面はほとんど調整を施していない。(576) は凹基式内弯刃石鏸である。細かい剝離を行い丁寧に仕上げている。

(577) は凹基式直刃石鏸である。主要剝離面に加工は認められない。(578) は凹基式石鏸である。先端部及び基部を折損している。(579) は凹基式直刃石鏸である。細部は丁寧に剝離を行い仕上げている。基部の一部を折損している。(580) は凹基式外弯刃石鏸である。(582) は凹基式外弯刃石鏸である。基部の一部を折損している。(583) は下半

部を折損しているが、凹基式石鎌と思われる。主要剝離面は片面のみ剝離調整を施している。(588) は平基式直刃石鎌である。先端部を損失している。(589) は平基式外弯刃石鎌である。刃部はあまり鋭くない。(592) は木葉型尖頭器で、基部の一部を折損している。厚手のもので、先端部及び側辺部は細かな剝離調整を施している。基部は粗い剝離調整を施している。弥生時代のものである可能性を有する。(593) は片刃の石匙である。(596) は石核として使用された後、スクレイパーに転用されたものである。(597) は縦長剝片の側部に刃部を付けたものである。



第99図 繩紋時代～弥生時代出土土器 (1/3)

第3節 古墳時代以降

第1項 概 要

当時期の遺構としては溝4条、自然流路3条の他、水田跡及びそれに伴う大畦畔、暗渠がある。

第2項 遺構各説

1404-OS (第100図)

G24FQ付近に位置する。北東から南西方向のもので、後述する畦畔1402-0Aに伴うものである。

検出長は約7m、幅は約30cm、深さは約3cmで、埋土はにぶい黄褐色粘質シルト層である。

出土遺物は認められない。

1406・1408-OS (第100・101図)

G24HS付近に位置する。概ね北東から南西方向のもので本調査区を横断する。1406-OSは1408-OSの上層部分で、その南西端部が1408-OSより若干南に振っている。検出長はともに約18m、幅は1406-OSは50~70cm、1408-OSは0.3~1.2m、深さは1406-OSは約10cm、1408-OSは約55cmである。埋土は1406-OSは黄褐色粘質シルト層、灰黄褐色粘質シルト層、1408-OSはにぶい黄色シルト層、灰黄色シルト層、褐色粘土層等である。

出土遺物

出土遺物は1406-OSでは弥生土器不明5片、須恵器甕1片、杯1片、サヌカイト剝片1点、1408-OSでは弥生土器不明1片、土師器甕把手1片がある。

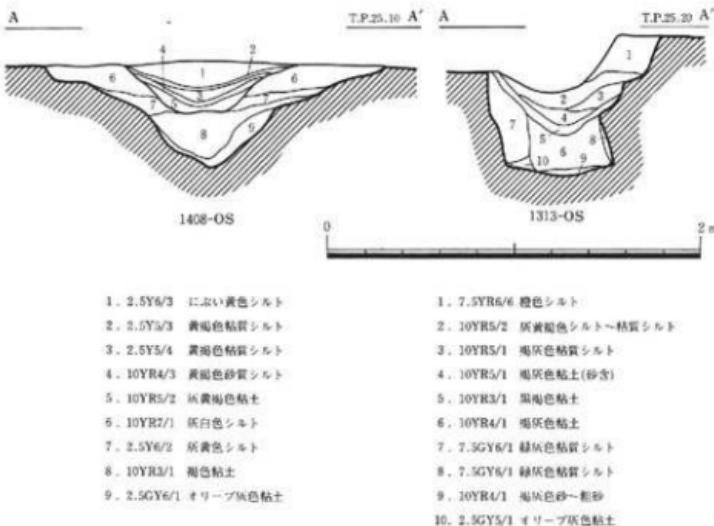
1409-OS (第100図)

G24JU付近に位置する。北東から南西方向のもので、検出長は約6.5m、幅は約30cm、深さは約5cmである。

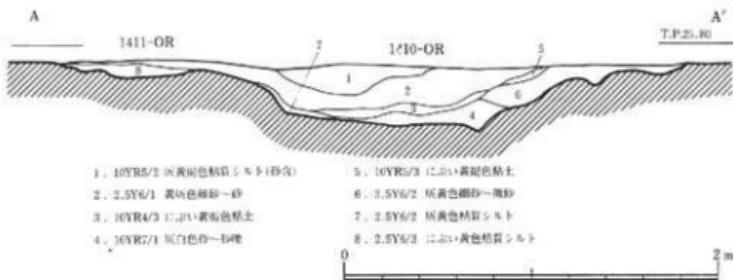
埋土は灰黄色粘質シルト層である。



第100図 古墳時代以降遺構平面図 (1/500)



第101図 1313・1408-OS断面図 (1/30)



第102図 1410・1411-OS断面図 (1/30)

出土遺物は認められないが、後述する水田跡に伴うものと思われる。

1407-OR (第100図)

調査区中央部の西側に位置し、G24MVで「く」の字状に西方向に、G24NYで南西方向にはほぼ直角に屈曲する。第3層の下層で縹紋土器包含層の上面をベース面としている。検出長30m、幅0.6~1.4m、深さ10~20cmである。埋土は上層がにぶい黄褐色粘質シルト層、

下層が粗砂混じりの黄灰色細砂層である。

出土遺物 (第104図、図版49)

出土遺物はいずれも小片で縄紋土器6片、弥生土器50片、土師器13片、須恵器1片、瓦器皿1片、石鎌1点(585)、サヌカイト剝片27片がある。(585)は凹基式直刃石鎌である。基部の一部を折損している。

1410-OR (第100・102図)

調査区の南東部に位置し、ほぼ南北方向に走る。G25PAで1411-OSと合流する。第3層の下層で縄紋土器包含層の上面をベース面としている。検出長42m、幅1.2~3.2m、深さ10~30cmで、底面は凹凸が著しい。埋土は砂と粘質土がレンズ状に堆積している。

出土遺物 (第104図、図版49)

出土遺物はいずれも小片で弥生土器27片、土師器1片、須恵器5片、石鎌1点(586・590)、サヌカイト剝片17片がある。(586)は凹基式外彎刃石鎌である。(590)は平基式外彎刃石鎌である。刃部は両面とも不明瞭である。

1411-OR (第100・102図)

調査区の南東部に位置する。流路は、第3層の下層で縄紋土器包含層の上面をベース面としている。検出長14m、幅0.6~1.2m、深さ7~15cmである。

出土遺物はいずれも小片でサヌカイト剝片2片、弥生土器3片、須恵器2片がある。

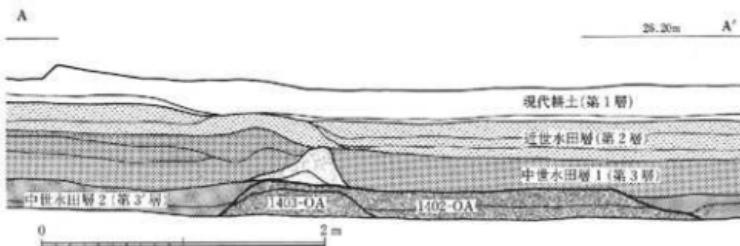
この3条の自然流路の時期については、層位的には縄紋時代から弥生時代までの遺構と同一であるが、出土遺物から見ると、1410-OSから上層の中世水田層の混入と考えられる瓦器皿1片が出土していることを除いて、いずれの自然流路からも古墳時代後期に属する土師器や須恵器が出土しているため、ここでは古墳時代後期のものと考えておきたい。

1402・1403-0A (第100・103図、図版18b)

調査区の北西端で検出した。方向は南北方向より東へ約30度振れており現在の地割とはほぼ一致する。また土層観察によっても数回の作り替えが認められ、現代の水田地割も基本的には中世段階の大畦畔を踏襲していることが窺える。

最古段階のものは、基本的には弥生時代の遺構面の黄褐色系の粘質土(第4層)を幅1~1.5m、高さ約10cmに削りだすことによって構築しているが、G24HP付近は弥生時代の河川(877-OR)の砂礫堆積層の上面に当り、褐色系の粘土で盛土を施すことによって大畦畔を構築している。

最古段階以降のものはその都度、前段階のものを踏襲し、盛土を施すことによって構築



第103図 鮎畔断面図 (1/40)

を繰り返している。

1400・1401-OZ (第103図、第2表)

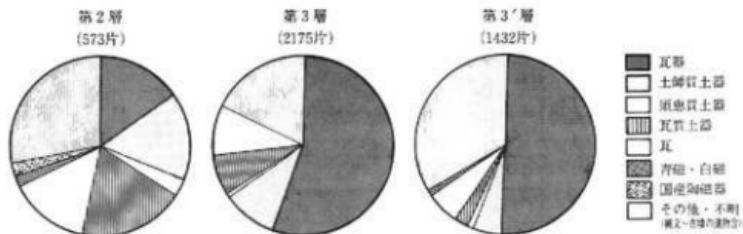
水田跡は、中世を中心とした時期のものと近世を中心とした時期のものがある。中世のものは第3層から第3'層に相当する。第3'層に相当するものは調査区ほぼ中央から北西部で検出され、最古段階の大畦畔に伴うものである。一部、G24IQ付近で厚さ5cmほど の灰褐色の粘質土が認められるが、この付近は前述した弥生時代の河川の上面に当たり、整地を施した後、耕地化したことが窺える。整地は大畦畔構築後に行われている。第3層に相当するものは調査区全体に認められた。

第3'層の出土遺物は瓦器類712片、土師質土器類77片、須恵質土器類11片、瓦質土器類34片、青・白磁9片、瓦類87片等があり、瓦器が全体の約50%を占める。また縄紋時代や弥生時代の遺物も多い。第3層の出土遺物は瓦器類1070片、土師質土器類188片、須恵質土器類17片、瓦質土器類132片、瓦類151片、青・白磁類8片、国産陶磁器14点等がある。土師質土器の羽釜は口縁部を玉縁状に肥大させるもので、瓦質土器の羽釜は口縁部に段を有するものである。国産陶磁器のなかには、備前焼製品や肥前系の製品は見られず、常滑焼製品が多く見られる。全体的には第3'層同様に瓦器類の占める割合は高いが、第3'層に比べて瓦質土器類の占める割合が増加する傾向が見られる。

近世のものは、第2層に相当する。調査区全体に認められ、北東部で3面、中央部で2面、北西部で3面の耕作土層と床土層が確認できる。また調査区北東部では調査区にはほぼ直交する方向で竹筒を利用した暗渠が検出された。

出土遺物は瓦器類82片、土師質土器類84片、須恵質土器類15片、瓦質土器類103片、瓦類75点、青・白磁類10片、国産陶磁器類13片等がある。この内国産陶磁器類の中には備前焼の鉢や、備前系製品、土師質土器類の中には口縁部が直立あるいは外反する釜や、口縁

第2表 水田層出土遺物比率表



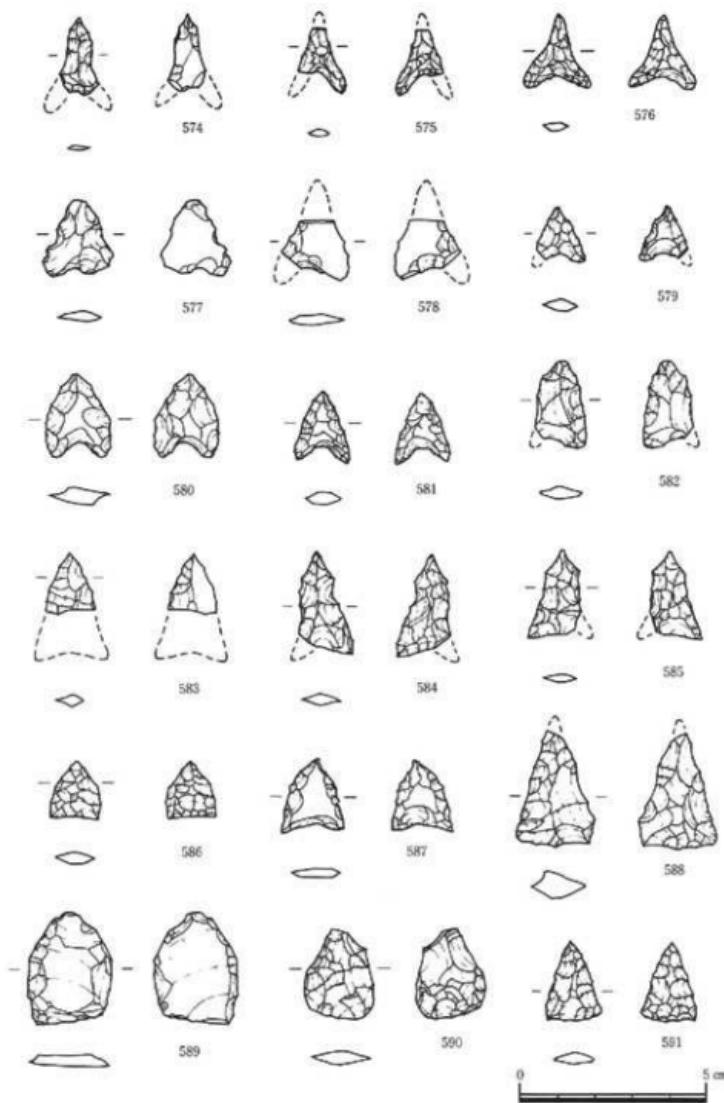
部が肥厚し直立する壺等の近世土器が認められる。全体的には第3層に比べ瓦器類の占める割合は急減し、近世のものを含む土師質土器類や瓦質土器類、国産陶磁器の占める割合が増加する。

その他の出土遺物 (第104~107図、図版49~51)

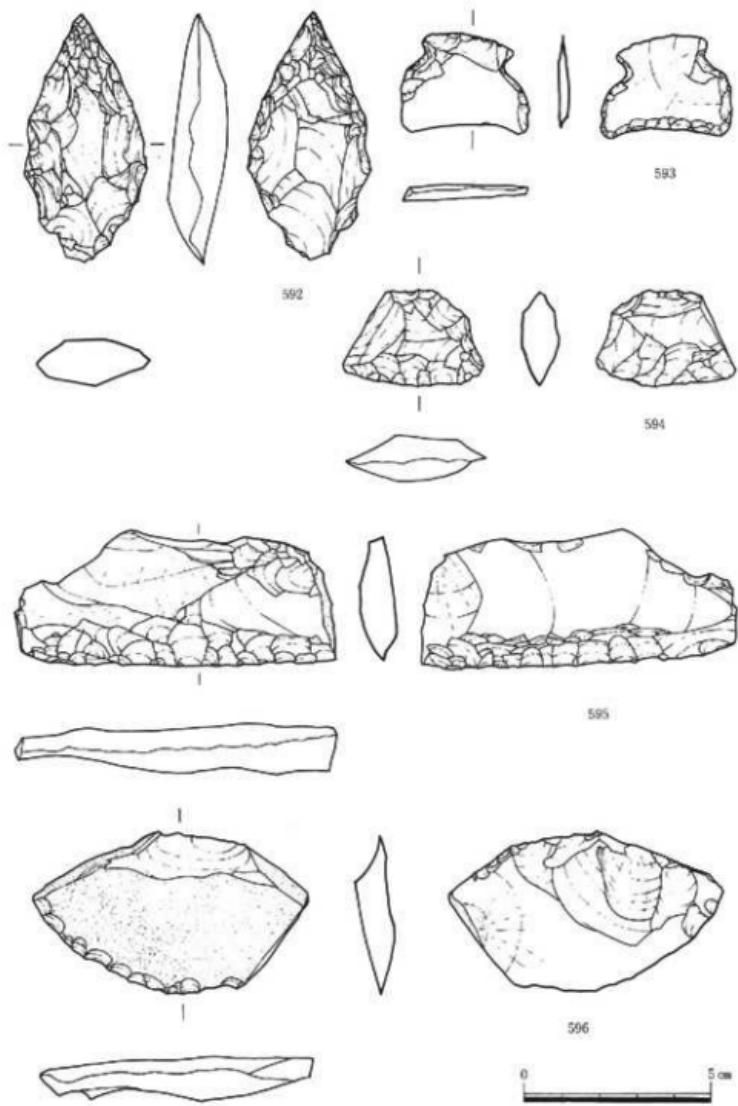
前述したように、中世の水田層である第3層内においても、縄文時代や弥生時代のものと考えられるものが多数出土している。そのうち石鏃1点(575)、スクレイバー2点(594・600)、石庖丁1点(603)を図示した。(575)は凹基式内彎刃石鏃である。(594)はスクレイバーとしたが、木葉型尖頭器である可能性を有するものである。上半部を折損している。弥生時代のものと思われる。(600)は片刃で直刃のものである。すべての加工は主要剥離面側に施している。

以下の出土遺物は、縄文土器包含層の上面で樹木根の付近にタマリ状に堆積していた暗灰色粘土層から出土したものである。石鏃3点(584・591・602)、スクレイバー2点(595・599)、石槍1点(604)を図示した。(584)は凹基式内彎刃石鏃で、基部の一部を折損している。(591)は平基式直刃石鏃である。これらはいずれも縄文時代のものである。(602)は有茎石鏃で、先端部を折損している。弥生時代のものである可能性を有する。(595)は両刃のもので、側面に一部自然面を残している。(599)は両側に刃部を付けたものである。石器の剥離痕から見ると、一度製作した石器を再加工したものである可能性を有する。(604)は石槍である。基部に自然面を残している。中央部で折損している。両側刃はともに刃つぶしを行っている。

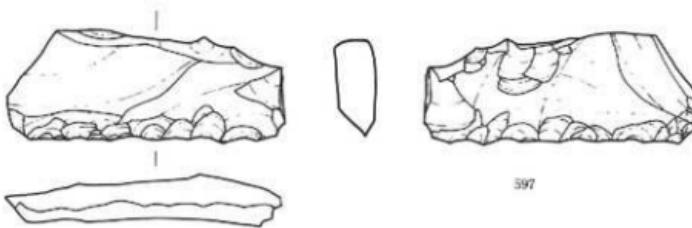
その他に以下の遺物を採集した。(587)は凹基式外彎刃石鏃である。背面に自然面を残しており、側面は細かな剥離調整を施している。南西壁際の側溝掘削中に採集した。(601)は表面採集したもので磨石である。破面は未調整である。



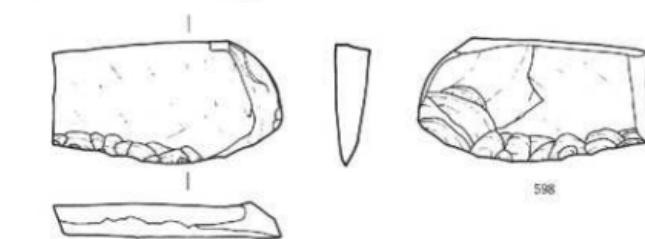
第104図 出土石器 (2/3)



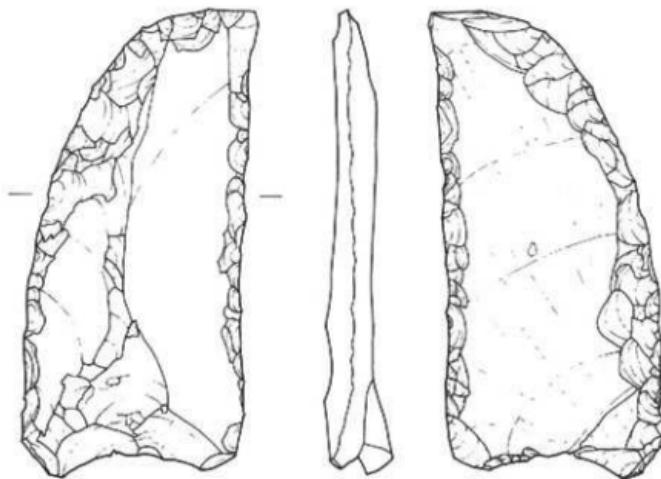
第105図 出土石器 (2/3)



597



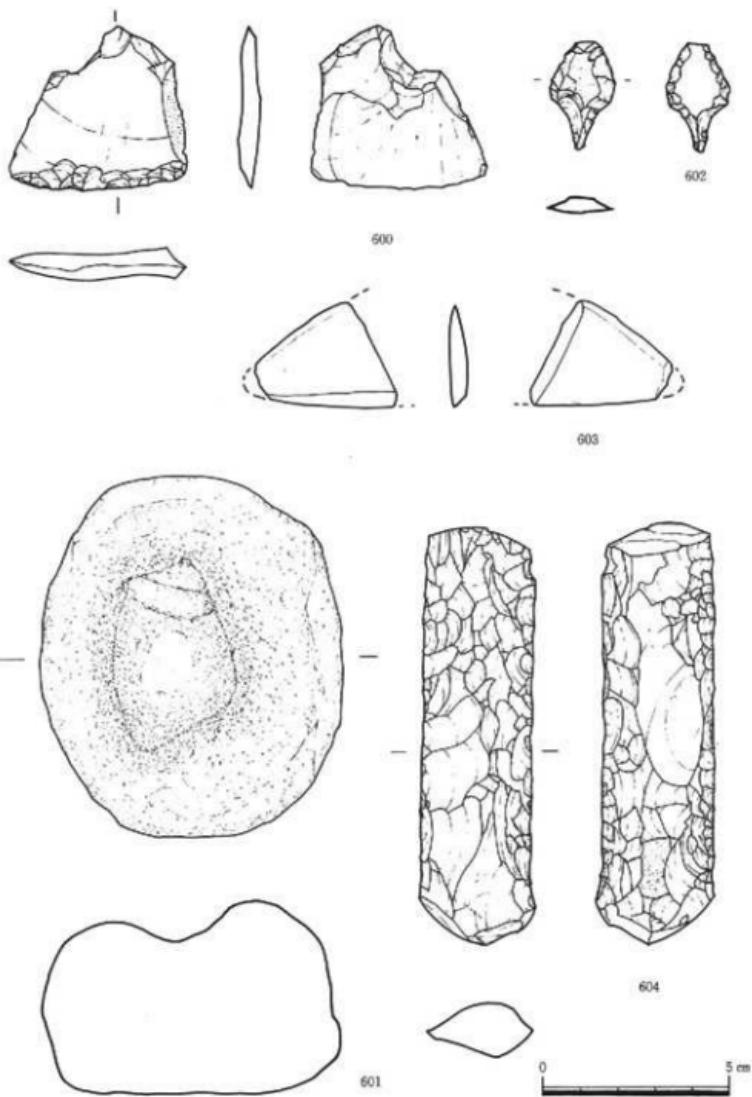
598



599



第106図 出土石器 (2/3)



第107圖 出土石器 (2/3)

第4節 小 結

今回の調査は第1次調査区の成果や本調査区の南東に位置する山ノ内遺跡B地区の成果を踏まえ、弥生時代の集落や縄文時代の集落の広がりを確認できることを期待し、一応の成果をあげることができた。以下、その成果を時代順に簡単にまとめておく。

縄文時代の明確な遺構は本調査区では検出されなかったが、一部に包含層は確認された。この包含層は縄文土器の分布範囲も示す通り、調査区の南東部に多く認められ、自然の落ち込みに堆積した状況を示す。山ノ内遺跡B地区からつづくこの時代の集落（遺構群）の広がりについては、現況の地形より考えると調査区の南西約20m付近までと考えられる。

弥生時代中期の遺構は、山ノ内遺跡B地区の北西端でいわゆる「ベット」状の高台部を有した堅穴住居跡が1棟検出され、第1次調査区では1300-ORの下層で中期の遺物を含む良好な堆積層が確認されている。しかし本調査区の877-ORより南東部では中期の遺構は確認できず、B地区で堅穴住居跡が検出された付近がこの時期の集落の縁辺に当り、本調査区東側の小丘陵上に向かってのびる可能性が指摘される。弥生時代後期の遺構としては、本調査区においては溝が1条検出されたのみで、住居跡等の集落部の中心的な遺構は検出されなかった。これにより第1次調査区において確認された集落は、小規模なものであったことが確認された。また1313-OSは本調査においては水利施設や水田跡等は検出されなかったが、877-ORから集落または水田に導水する水路である可能性が高く、集落構造や生産地の関係を考える上で良好な資料と言えよう。このように山ノ内遺跡では後期後半の集落の立地や構造を明らかにすることができたが、周辺地域ではこの時期の集落は少なく、今後は資料の増加とともに中期末から後期前半にかけての丘陵部の集落や、後期から古墳時代前期の平地部の集落との関係や変遷及び構造等も明らかにしなくてはならない。

弥生時代の集落は廃絶して以降、人為的な開発が再び行われるのは、遺物からみて中世14世紀後半から15世紀にかけての水田開発によるものである。条里については検出した畦畔の方向が現在残存している条里の方向と一致し、坪界に相当することより、この時期まで遡ることは確実であるが、本調査区の北西に位置する輕部池は「法隆寺流記資財帳」にみられるように同寺の所有地とされるもので、条里制施行の時期は遡る可能性があり、中世以前の遺構は削平された可能性もある。また水田を形成する包含層の中には古墳時代後期の須恵器片や中世の瓦類を多量に含み、周辺地域に古墳時代の遺構や寺院の存在した可能性もある。集落については、今後の調査に期待するところが大きい。

第V章 自然科学分析

第1節 樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

第1項 試料

試料には炭化材と非炭化材がある。炭化材は、866-ODのNo.1~19と867-ODのNo.1~4・8~152の168点が送付された。このうち866-OD試料5点と867-OD試料49点の計54点は、下記の方法では必要量の材片が得られず同定できなかった。遺構はともに弥生時代後期のものとされる焼失住居跡で、866-OD試料の用途は不明であるが、867-OD試料のほとんどは垂木材と考えられている。

非炭化材は787-ORのNo.1~4、1300-ORのNo.5、787-OR4層試料の6点である。787-ORのNo.1~4、1300-ORのNo.5は立木の根部で、住居より古い時代から生育していたものと考えられている。787-OR4層試料は杭材とされるが、所属年代は不明である。

第2項 方法

炭化材は、試料が多量の粘土や砂と混じっていたため、水を加えて放置したのち4mm目の籠上で水洗し残渣を室内で自然乾燥させたのち、可能な限り木口・柾目・板目の三断面を作成、双眼実体鏡ならびに走査型電子顕微鏡で観察・同定した。非炭化材は、剃刀の刃を用いて三面の徒手切片を作成、ガム・クローラル(Gum Chloral)で封入、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に、顕微鏡写真図版も作成した。

第3項 結果

炭化材試料の保存状態はきわめて悪く、確実な同定ができないものもあった。同定結果を一覧表で示す(第3~5表)。なお、同定不能の試料は表から除外した。

第3表 866-OD出土炭化材の同定結果

試料番号	種名	試料番号	種名
2	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	12	広葉樹（散孔材）
3	カキノキ属の一種	13	タブノキ類似種
6	広葉樹（散孔材）	14	タブノキ類似種
7	マンサク類似種	15	タブノキ
8	広葉樹（散孔材）	16	広葉樹（散孔材）
9	広葉樹（散孔材）	17	マンサク
11	ハイノキ属の一種	18	カエデ属の一種

第4表 867-OD出土炭化材の同定結果（1）

試料番号	種名	試料番号	種名
1	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	35	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
2	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	38	エゴノキ属の一種
3	サクラ属の一種	39	エゴノキ属の一種
4	広葉樹（散孔材）	41	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
8	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	47	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
10	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	48	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
11	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	49	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
12	サクラ属の一種	50	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
16	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	54	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
18	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	57	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
19	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	58	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
20	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	59	ハイノキ属類似種
21	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	61	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
23	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	62	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
24	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	63	ハイノキ属の一種
25	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	64	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
26	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	65	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
27	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	68	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
28	ハイノキ属の一種	69	ハイノキ属類似種
29	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	70	広葉樹（散孔材）
30	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	72	ハイノキ属類似種
31	ハイノキ属の一種	75	マンサク類似種
32	広葉樹（散孔材）	76	サクラ属の一種
33	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	78	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
34	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	79	コナラ属（アカガシ亜属）の一種

第5表 867-OD出土炭化材の同定結果（2）

試料番号	種名	試料番号	種名
80	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	112	マンサク類似種
82	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	113	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
83	マンサク	117	サクラ属類似種
84	ハイノキ属の一種	118	広葉樹（散孔材）
85	ハイノキ属類似種	120	サクラ属類似種
86	ハイノキ属類似種	121	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
87	ハイノキ属類似種	122	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
88	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	123	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
89	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	126	マンサク
90	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	131	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
91	広葉樹（環孔材？）	132	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
92	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	136	ハイノキ属類似種
93	広葉樹（環孔材？）	137	ハイノキ属の一種
94	マンサク類似種	138	マンサク
95	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	140	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
96	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	141	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
97	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	143	マンサク
98	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	144	サクラ属の一種
102	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	145	サクラ属類似種
103	広葉樹（散孔材）	146	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
104	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	147	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
106	サクラ属の一種	148	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
107	広葉樹（散孔材）	150	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
108	広葉樹（散孔材）	151	コナラ属（アカガシ亜属）の一種
109	広葉樹（散孔材）	152	コナラ属（アカガシ亜属）の一種

第6表 非炭化材の同定結果

試料番号	種名	試料番号	種名
1	クスノキ	4	クスノキ
2	コナラ属（アカガシ亜属）の一種	5	クスノキ
3	クスノキ	杭材	マンサク

つぎに、各試料の主な一般的性質を種類ごとに述べる。

コナラ属（アカガシ亜属）の一種 [*Quercus (Cyclobalanopsis) spp.*]

アカガシ亜属（カシ類）には、アカガシ (*Quercus acuta*)、イチイガシ (*Q.gilva*)、アラカシ (*Q.giauca*) など7種があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ (*Q.phyllyraeoides*) も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林（いわゆる照葉樹林）の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。材は重硬・強韌で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

クスノキ (*Cinnamomum camphora*) クスノキ科

クスノキは本州（関東地方以西）・四国・九州に分布し、また植栽される常緑高木である。クスノキ属にはクスノキのほかに、コウチニッケイ (*C.daphnoides*)、ヤブニッケイ (*C.japonicum*) がある。クスノキの材はやや軽軟～中程度で、加工は容易、耐久・耐虫性は高い。建築・内装・建具・家具・器具材や船舶材に用いられる。材や葉からは樟脑が採られ、また葉はテグス蚕の飼料となる。

タブノキ (*Persea thunbergii*) クスノキ科

タブノキは本州・四国・九州・琉球の、主として沿海地に成育する常緑高木である。タブノキ属にはタブノキのほかに、本州（近畿地方以西）・四国・九州・琉球に分布するホソバタブ (*P.japonica*) があり、ともに暖温帯常緑広葉樹である。材はやや軽軟～やや重硬で、加工は容易、器具・家具・建築などに用いられる。樹皮は染料となる。

マンサク (*Hamamelis japonica*) マンサク科

マンサクは本州（太平洋側）・四国・九州の山地に普通な落葉小高木～低木である。マンサク属はこのほかに、北海道南西部・本州（日本海側）に自生するマルバマンサク (*H.japonicasubsp.obtusata*) をはじめ多くの変・品種がある。マンサクの材はやや重硬・強韌で割れにくい。樹皮も強韌であるため、枝条は皮つきのまま結束材として用いられた。

サクラ属の一種 (*Prunus sp.*) バラ科

サクラ属には、ヤマザクラ (*Prunus jamasakura*) やウワミズザクラ (*P.grayana*) など15種が自生し、多くの変・品種がある。また、モモ (*P.persica*) やスマモ (*P.salicina*) など古い時代に伝えられ栽培されているものもある。多くは落葉性の高木～低木であるが、バクチノキ (*P.zippeliana*)、リンボク (*P.spinulosa*) の常緑樹も含まれる。材は一般に中程度～やや重硬・強韌で、加工は容易、保存性は高い。各種器具材をはじめ、機械・家

具・楽器・建築・薪炭材など様々な用途が知られている。また樹皮は棒皮細工に用いられている。

カエデ属の一種 (Acer sp.) カエデ科

カエデ属には、イタヤカエデ (*Acer mono*) やイロハモミジ (*A.palmatum*) など約25種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木～低木である。材は一般にやや重硬・強韌で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具・家具・建築・装飾・施作・薪炭材などに用いられる。

カキノキ属の一種 (*Diospyros sp.*) カキノキ科

カキノキ属には、トキワガキ (*Diospyros morrisiana*)、シナノガキ (*D.japonica*)、ヤマガキ (*D.kaki* var. *sylverstis*) の2種1変種が自生する。トキワガキは本州（静岡県以西）・四国・九州・南西諸島に、シナノガキは本州（関東地方南部以西）・四国・九州・南西諸島に、ヤマガキは本州・四国・九州に分布する。ヤマガキの母種カキノキは、中国・揚子江流域原産で平安時代ごろ日本に伝えられたものと考えられ、本州・四国・九州で広く栽培されている。カキノキの材はやや重硬・強韌で、建築装飾・器具・家具材などに用いられている。果実は食用となるほか、タンニン原料となる。

ハイノキ属の一種 (*Symplocos sp.*) ハイノキ科

ハイノキ属には、常緑性のハイノキ節〔ハイノキ (*Symplocos myrtacea*)・クロバイ (*S.prunifolia*) など〕と、落葉性のサワフタギ節〔サワフタギ (*S.chinensis formapilosa*)・タンナサワフタギ (*S.coreana*) など〕がある。西南日本の照葉樹林の下木として普通な小高木で、材は一般に重硬・強韌で割れにくく、各種工具の柄などの器具類、施作・薪炭材などに用いられる。木灰は媒染剤ともなる。

エゴノキ属の一種 (*Styrax sp.*) エゴノキ科

エゴノキ属には、エゴノキ (*Styrax japonica*)、ハクウンボク (*S.obassia*)、コハクウンボク (*S.shiraiana*) の3種がある。エゴノキは北海道（渡島）・本州・四国・九州・南西諸島に、ハクウンボクは北海道（北見・石狩以南）・本州・四国・九州に、コハクウンボクは本州（栃木県以南）・四国・九州に分布する落葉高木～低木である。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はやや容易、施作・器具・薪炭材などに用いられる。果皮にはエゴサボニンを含み、染剤や魚毒として用いられた。またハクウンボクの種子から搾られた油脂からはロウソクが作られた。

第4項 考察（867-OD試料について）

試料は垂木材とされているが、同定作業を行った100点中、カシ類が61点を占めた。出土状態から同一材が細片化したのではないかと疑わせるものもあるが、カシ材を主に用いていたことはまちがいないであろう。

大阪府内の同時代の住居跡で炭化材の同定された例としては、本遺跡から北東約28kmに位置する東大阪市若江北遺跡SB501（弥生時代中期）がある（鷲倉 1983）。ここでも同一樹種材が連続して出土していることから同一材の細片化したものが含まれている可能性が示唆されているが、重硬で耐久性もあるコナラ属の材が多い。ただ、カシ類よりもコナラ・クヌギの落葉樹の方が多く、スギ・ヒノキの針葉樹も認められている。また、炭化材ではないが、柱根材でもカシ類よりもコナラ・クヌギが多く認められている（松田 1983）。

焼失家屋の建築材や燃料材が炭化材として残存する確率は極めて小さく、また、同定された材は全建築材の一部にすぎないことから、同定不能の試料や検出されなかったものの中に落葉ナラ類の材が含まれていた可能性は否定できない。しかし、マンサクやハイノキ属の材が認められている一方で、炭材としても優れたコナラやクヌギが1点も認められないことから、本住居の建築にあたってはナラ材を用いていなかった可能性は高いものと考えている。

若江北遺跡のように、現在照葉樹林が発達するとされる地域の遺跡で、建築材などにカシ類よりナラ類が多く認められた場合、周囲の植生にはカシ類が少なかったとする見解が示されることが多い。有用材であるカシ類は農耕具などに優先的に使われ、いわゆる雑用材に回されるものは少なかったとする見解（松田 前出）などがその一例である。こうした解釈にしたがえば、当時の本遺跡の周囲にはナラ類よりもカシ類のほうが多く生育していた、さらには本遺跡が若江北遺跡に比べて人為的な影響の小さい環境に立地していたことになるが、類例も少なく今後の課題として留意しておきたい。

引用文献

- 松田高嗣 1983 「若江北遺跡より出土した木製遺物の樹種について」
『若江北・近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』
大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター
- 鷲倉巳三郎 1983 「東大阪市若江北遺跡SB501の炭化材と柱根」
『若江北・近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』
大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター

第2節 花粉化石等微化石分析

川崎地質株式会社

まえがき

当分析調査業務は、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が川崎地質株式会社に委託して実施したものである。

当分析調査は、発掘調査に伴って露出したA地区東壁ならびに787-OR遺構より採取された試料を対象として、花粉分析、珪藻分析を行い、これらの結果より、地質層序、ならびに植生や水域の古環境の推定を行ったものである。

第1項 調査概要

調査位置

岸和田市田治米町

分析試料の数量

花粉分析、珪藻分析を行った試料は、33試料である。ただし、両分析の抽出処理を行ったところ、化石の含有量がごく少ないか、ほとんど無いものが、珪藻分析で21試料あった。

分析試料の採取地点・土層

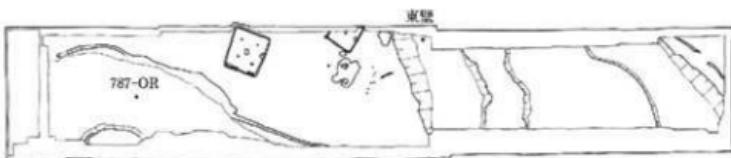
分析試料の採取地点は、以下の2地点である。（第108図）

① 山ノ内遺跡A地区東壁

試料 No. 1～25（第5図上段）

② 山ノ内遺跡A地区787-OR

試料 No. 1～8（第24図下段）



第108図 試料採取地点位置図

第2項 分析方法

花粉分析の方法

(1) 原理

粘土層などの堆積物や遺跡の土壤には、動物性もしくは植物性の微小な化石（=微化石）が含まれており、それらを物理・化学的処理によって抽出し、顕微鏡で化石の種類や数を検定し、種々の目的にそった調査を行う方法が微化石分析であって、花粉分析はそのひとつである。

堆積物に含まれる花粉化石は、その

堆積当時陸上に生育した樹木や草が生産した花粉が、水系や大気系を経由して堆積物粒子とともに埋積したものである。

陸上に生育する樹木や草、つまり“植生”は気候の変化や時代とともに変化し、その変化が堆積物中の花粉化石の構成や量の変化として反映する。

従って、花粉構成や消長データは、地層の識別や対比、古植生の復元に利用することができる。

(2) 分析処理法

① 分析試料

分析に供する試料は、シルト又は粘土で、その量は10~200 g（湿潤重量）である。試料は花粉化石の形状を保持するため湿潤状態のまま使用する。

分析に供する試料の採取間隔は、堆積層の状態と目的によって数センチメートルから数メートルと異なるが、遺跡調査の場合は、一般に遺物に基づく土層区分に対応した採取間隔をとること



第109図 花粉分析処理フロー

が多い。

②分析処理

分析処理の手順は第109図に示す分析フローの通りである。5ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって、粒径処理を確実にするとともに、処理過程の再現性を高めている。

分析処理に要する薬品・器具設備の概要は以下の通りである。

- 1) 処理薬品 : 水酸化カリウム、硫酸、フッ化水素、塩化亜鉛 他
- 2) 処理器具、設備 : 遠心分離機・振動マイクロフィルター、低速ホモジナイザー 他一般分析器具
- 3) 顕微鏡による検定・計数

抽出した花粉化石はグリセリンゼリーと混合してスライドグラス上に滴下し、カバーグラスをかけて封入してプレパラートとする。各試料につき2~3枚のプレパラートを作成する。プレパラートを顕微鏡（バノックスAHBLB1万能顕微鏡）により400~1000倍率で観察し、メカニカルステージにより帶分析で通常100個から250個の検定、計数を行う。

(3) 解析法

花粉分析結果の開析は、

- 1) 各花粉種類の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成
- 2) 各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帶分帯
- 3) 地層対比や古植生・古気候の復元

の手順で進める。

珪藻分析の方法

(1) 原理

珪藻は珪質の殻をもつ单細胞の植物プランクトンの一種で、主に河川や湖沼などの淡水域と河口、湾、大洋などの汽水もしくは海水域に生息する。珪藻分析は堆積物の中に含まれている珪藻化石を物理・化学的処理によって抽出し、堆積物生成当時の水域の環境を推定し、あるいは年代に関する検討をおこなう方法である。

珪藻は水域の水温、塩分濃度、酸性度などの環境要因に対応した種類が各々の環境許容範囲をもって生息する。抽出された珪藻化石が堆積物生成当時その水域に生息したものであれば、その種類構成や相対量とその変化から当時の水域の環境を復元することができる。

(2) 分析処理法

分析処理は下記の手順で行う。

- ① 試料の乾燥と粉碎
- ② 過酸化水素水処理：15%過酸化水素水で分散・泥化させる。
- ③ ピロリン酸ナトリウム処理
- ④ 酸処理：30%塩酸と硝酸の混酸で炭酸塩等の鉱物、破片を処理する。
- ⑤ コロイド物質の除去：振動フィルターで $5\text{ }\mu\text{m}$ 以下の細粒物質を除去する。
- ⑥ 水洗と濃縮：トケイ皿で搅拌、グラインドし珪藻化石を濃縮する。
- ⑦ 標本作成：ブルーツェダックスで封入したプレバラートを作る。

(3) 顕微鏡による検定

珪藻プレバラートを光学顕微鏡（400～1000倍）で観察し、帶分析して通常100個から250個の珪藻化石の検定、計数を行う。

(4) 解析方法

珪藻ダイアグラムを作成して、各珪藻種類の変遷傾向から、分帯と堆積環境変遷の推定を行う。堆積環境要素は以下のようである。

- ① 塩分濃度 海水域～汽水域～淡水域
- ② 生息域 外洋（大洋）性～沿岸性
- ③ 生活型 浮遊性～付着性～底性

第3項 分析結果

花粉分析結果

(1) 花粉化石の含有状況

前記のように、33試料の花粉分析を行った結果、すべての試料が花粉化石を含有していたが、東壁の分析試料のうち試料No. 4、20、23、24、25と、787-ORの分析試料のうち試料No. 7の合計6試料は、化石の含有量がやや少なかった。

(2) 検出された花粉化石の種類

検出された花粉化石は、第7表に示す48種類である。

これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は以下のようである。

① 卓越樹木花粉

アカガシ亜属、ニヨウマツ亜属、シイ属

② 卓越草本花粉

イネ科、イネ科(>40)、アブラナ科

③ 栽培種花粉

イネ科(>40)、ソバ属、ワタ属

このうちイネ科(>40)は、イネ科のうち花粉粒径が40 μ 以上のものを示しており、イネ属(Oryza)を含んでいると考えられるが、そのすべてがイネ属であるとは断定出来ない。

花粉分析の結果を、下記の花粉ダイヤグラムに示す。

(3) 花粉組成の変遷傾向と分帶

① 東壁の南側断面の花粉組成変遷と分帶

試料No. 1~21は第1層から第44層にわたるものであり、本遺跡の分析結果の中で最も詳しい花粉組成の変遷が本地点において得られた。そこで、本地点の分析結果にもとづいて標準となる花粉帶の分帶を行った。

試料No. 1~21において、花粉組成は明瞭な変化・変遷を示し、下位より、アカガシ亜属、シイ属のみが卓越(P2带)、シイ属の減少傾向とニヨウマツ亜属の増加傾向(P1带a亜帶)、アカガシ亜属の減少傾向とニヨウマツ亜属の増加傾向(P1带b亜帶)、ニヨウマツ亜属の卓越とイネ科(>40)増加傾向(P1带c亜帶)、ニヨウマツ亜属とイネ科(>40)の卓越とアブラナ科とスギ属の増加傾向(P1带d亜帶)の特徴が識別・分帶できる。

以下に各帶・亜帶の特徴を示す。

1) P 2 帯 (試料No.19~21)

アカガシ亜属、シイ属が卓越し、その他の種類の出現率はごく低い。また、草本タクサはほとんど出現しない。

2) P 1 帯 (試料No. 1~18)

上記のような組成の変遷を示す。

a 亜帯はP 2 帯に比べて、ニヨウマツ亜属の出現があること以外に、イネ科やヨモギ属など草本タクサも出現し始める。

b 亜帯はシイ属の出現率がごく低くなることに加えて、樹木タクサでは、スギ属、ヤマモモ属の出現が認められ、草本タクサでは、イネ科の高率出現が特徴的である。

c 亜帯はニヨウマツ亜属とイネ科の高率出現のほか、イネ科 (>40) の増加傾向とソバ属の出現が特徴である。

d 亜帯はニヨウマツ亜属以外の樹木タクサがごく低率となり、アブラナ科の高率出現が認められる。

② A区東壁の南端部の花粉組成変遷と分帶

試料No.22は第22層から第24層前後の層準にあたる。

花粉組成は、ニヨウマツ亜属とイネ科が高率出現するほか、アカガシ亜属が卓越する特徴を示し、これはP 1 帯 b 亜帯上部の特徴に対応する。

③ 東壁の北側断面の花粉組成変遷と分帶

試料No.23~25は第33層から第41層にわたる層準に当たる。

花粉組成は、試料No.24~25において、アカガシ亜属が卓越し、シイ属を伴う特徴を示し、これはP 1 帯 a 亜帯上部の特徴に対応する。また、No.23はアカガシ亜属が卓越するがやや減少の傾向を示し、コウヤマキ属、イネ科とヨモギ属が高出現率となる特徴を示しており、これはP 1 帯 b 亜帯上部の特徴に対応する。

④ 787-ORの東側断面の花粉組成変遷と分帶

試料No. 1 ~ 7 は787-OR遺構部の第1層から第10層にわたるものである。

本地点の花粉組成の変遷は、A区東壁の南側断面の分帶との対応関係より、下記のように分帶される。

1) P 2 帯 (試料No. 7)

アカガシ亜属、シイ属が卓越し、その他の種類の出現率はごく低い。また、草本タクサ

はほとんど出現しない。

2) P 1 帯 (試料No. 1 ~ 6)

a 亜帯は、アカガシ亜属が卓越し、シイ属とニヨウマツ亜属を伴い、イネ科やヨモギ属など草本タクサも出現する。

b 亜帯はシイ属の出現率が低くなることに加えて、樹木タクサでは、スギ属の出現が認められ、草本タクサでは、イネ科の高率出現とイネ科 (>40) の出現が特徴的である。

⑤ 787-ORの東側断面西端部の花粉組成変遷と分帶

試料No. 8は787-ORの西側の第40層のものである。

アカガシ亜属、シイ属が卓越し、その他の種類の出現率はごく低い。また、草本タクサはほとんど出現しない。これは、A区東壁の南側断面の分帶のうち、P 2 帯の特徴に対応する。

珪藻分析結果

(1) 硅藻化石の含有状況

前記のように、33試料の珪藻分析を行ったところ、そのうち12試料は珪藻化石を含有していたが、残りの21試料はほとんど化石が含まれていなかった。

珪藻化石が含まれていないことの理由としては、試料が粗粒であるため本来珪藻の含有率がごく低いことと、風化作用等によって消失したものではないかと考えられる。

(2) 検出された珪藻化石の種類

検出された珪藻化石の種類は、第8表に示す50種類である。

これらのうち、珪藻組成を特徴づける種類は以下のようである。

① 卓越種類

Melosira granulata

Pinnularia hemiptera

P. *microstauron*

Stephanodiscus niagarae

これらはいずれも淡水域の種類であり、ほとんどが底生種である。

② 淡水域以外の種類

汽水域もしくは淡水域の種類として以下のようなものが検出されたが、いずれも出現個体数は少ない。

Epithemia sirex

Rhopalodia gebberula

珪藻分析の結果を、下記の珪藻ダイヤグラムに示す。

〔珪藻ダイヤグラム〕

図3-7 東壁の南側断面の珪藻ダイヤグラム

図3-8 787-ORの西側断面の珪藻ダイヤグラム

(3) 硅藻組成の特徴

① 東壁の南側断面の珪藻組成

試料No. 4～18は第10層から第38層にわたるものである。

珪藻組成は、下位より以下のような変遷を示す。

試料No.13～18は、*Melosira granulata*、*Stephanodiscus niagarae*など卓越種は浮遊性種である。

いっぽう、それより上位の試料No. 4～11は*Pinnularia*属など付着性もしくは底性の種が卓越する組成となる。

いずれの場合も海水の影響はないものと判断される。

② 787-ORの西側断面の珪藻組成

試料No. 1～6は787-OR遺構の第1層から第6層にわたるものである。

珪藻組成は、試料No. 5～6は、*Pinnularia*属など付着性もしくは底性の種が卓越する組成である。

いっぽう、上位の試料No. 1には、*Melosira granulata*、など浮遊性種も出現する。

いずれの場合も海水の影響はないものと判断される。

第7表 検出された花粉化石の種類一覧

〔主要樹木花粉種類〕

1	Podocarpus	(イヌマキ属)
2	Diploxyylon	(ニヨウマツ亜属)
3	Haploxyylon	(ゴヨウマツ亜属)
5	Abies	(モミ属)
6	Tsuga	(ツガ属)
8	Cryptomeria	(スギ属)
10	Sciadopitys	(コウヤマキ属)
11	CUPRESSACEAE	(ヒノキ科)
12	Alnus	(ハンノキ属)
13	Betula	(カバノキ属)
14	Carpinus	(クマシデ属)
16	Cyclobalanopsis	(アカガシ亜属)
17	Quercus	(コナラ亜属)
18	Fagus	(ブナ属)
19	Castanopsis	(シノキ属)
20	Castanea	(クリ属)
22	Pterocarya	(サワグルミ属)
23	Uomus	(ニレ属)
24	Zelkova	(ケヤキ属)
25	Celtis	(エノキ属)

〔主要草本花粉種類〕

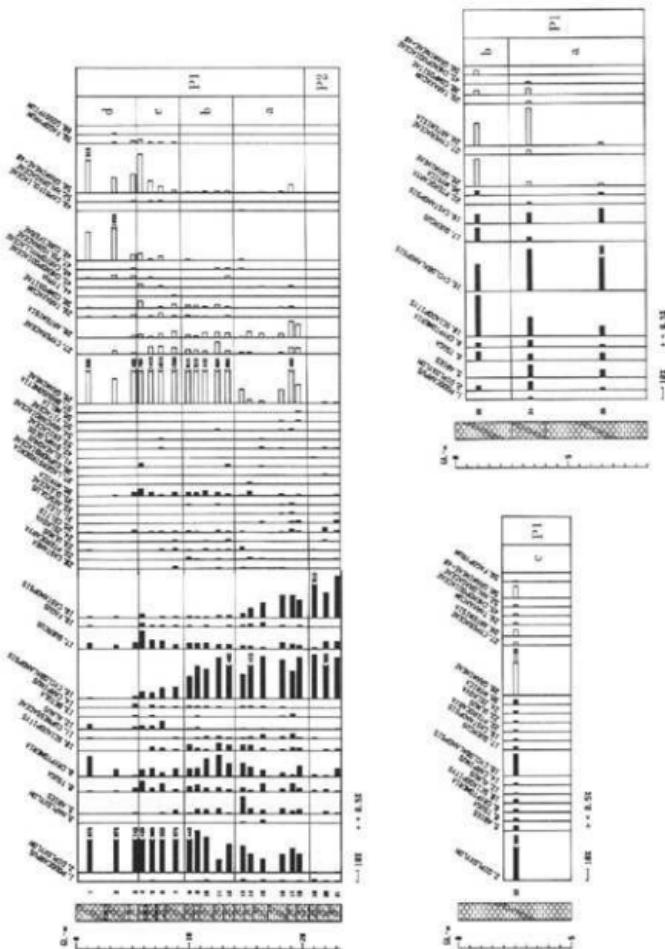
26	GRAMINEAE	(イネ科)
27	CYPERACEAE	(カヤツリグサ科)
28	Artemisia	(ヨモギ属)
29	Taraxacum	(タンポポ亜科)
30	COMPOSITAE	(キク科 *ヨモギ属、タンポポ亜科を除く)

〔その他の樹木花粉種類〕

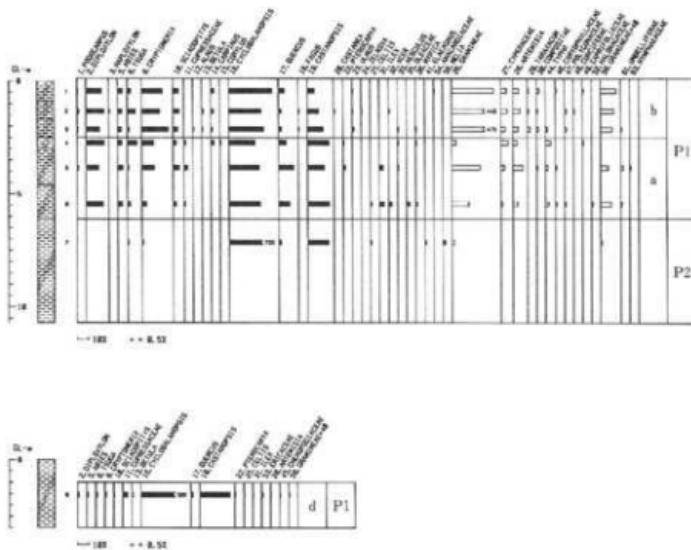
31	Ilex	(モチノキ属)
33	Aesculus	(トチノキ属)
35	OLEACEAE	(モクセイ科)
36	Myrica	(ヤマモモ属)
37	Lagerstroemia	(サルスベリ属)
38	EUPHORBIACEAE	(トウダイグサ科)
41	Elaeagnus	(グミ属)
42	Symplocos	(ハイノキ属)
53	ERICACEAE	(ツツジ科)
54	Anacardiaceae	(ウルシ科)
55	VITACEAE	(ブドウ科)
56	Melia	(センダン属)
57	Brousonetia	(コウゾ属)

〔その他の草本花粉種類〕

45	CHENOPodiACEAE	(アカザ科)
46	CARYOPHYLLACEAE	(ナデシコ科)
47	POLYGONACEAE	(タデ科)
48	CURCIFERAE	(アブラナ科)
49	CAPRIFOLIACEAE	(スイカズラ科)
52	HALORAGACEAE	(アリノトウグサ科)
58	GRAMINEAE(>40)	(40ミクロン以上のイネ科)
59	Fagopyrum	(ソバ属)
60	Gossypium	(ワタ属)



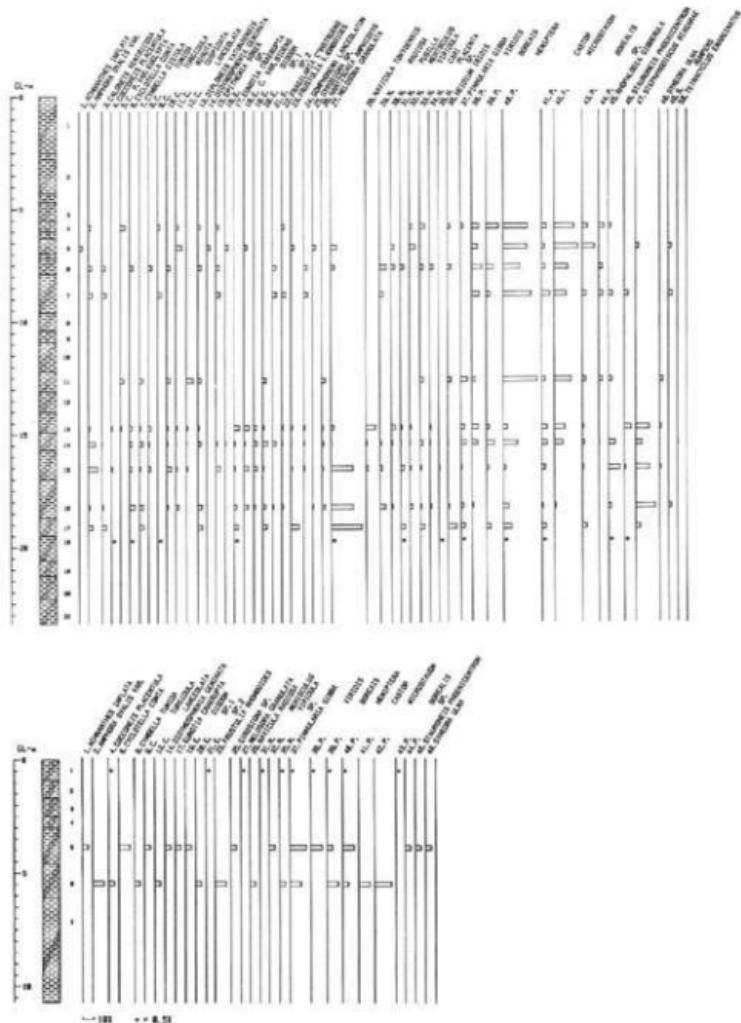
第110図 東壁断面の花粉化石ダイヤグラム



第111図 787—OR断面の花粉化石ダイヤグラム

第8表 検出された珪藻化石の種類一覧

1	Achnanthes inflata	26	Hantzschia amphioxys
2	Amphora ovalis var.	27	Melosora granulata
3	Caloneis ventricosa	28	Navicula tokyoensis
4	Coccconeis placentula	29	N. radiosa
5	C. p.var.euglypta	30	N. pusilla
6	Cyclotella comta	31	N. menisculus
7	Cymbella cistula	32	N. viridula
8	C. tumida	33	N. cari
9	C. turgidula	34	N. placenta
10	C. minuta	35	N. sp.
11	C. cuspidata	36	Neidium iridis
12	C. lanceolata	37	Pinnularia gibba
13	Diploneis yatukaensis	38	P. viridis
14	Didymosphenia geminata	39	P. borealis
15	Epithemia sorex	40	P. hemiptera
16	E. sp.	41	P. castor
17	Eunotia craerupta	42	P. microstauon
18	E. c. var. bidens	43	P. borealis
19	E. diodon	44	P. sp.
20	E. sp.1	45	Rhopalodia gibberula
21	E. sp.2	46	Stauroneis phoenicentron
22	Fragilaria construens	47	Stephanodiscus niagarae
23	Frustulia rhomboides	48	Synedra ulna
24	Gomphonema lanceolatum	49	S. rumpens
25	Gyrosigma sp.	50	Tetracyclus emarginatus



第112図 東壁、787-O R断面の珪藻化石ダイヤグラム

第4項 考 察

花粉化石による地質層序区分

(1) 東壁の南側断面の花粉層序

本地点における、下位より、アカガシ亜属、シイ属卓越（P 2带）→シイ属の減少とニヨウマツ亜属の増加（P 1带 a亜帶）→アカガシ亜属の減少とニヨウマツ亜属の増加（P 1带 b亜帶）→ニヨウマツ亜属の卓越とイネ科增加（P 1带 c亜帶）→ニヨウマツ亜属とイネ科の卓越の一連の変遷は、大阪ならびにその周辺の沖積層（難波累層）上部に広く認められる花粉組成の変遷様相とよく一致する。

その例として、第113図がある。

一般的に沖積層（難波累層）の花粉化石によって推定される植生の変遷は、下部での冷温帯（ブナ属・コナラ属など）の優占→中部での暖温帯要素（アカガシ亜属・シイ属など）の優占→上部での二次林要素（ニヨウマツ亜属など）の優占、の変遷を示し、A区東壁の南側断面における変遷はこのうち中・上部の植生変遷に対応するものであろう。

その変化を詳しくみると、P 2带はアカガシ亜属とシイ属の暖温帯林のみからなる花粉組成であって、P 1带に入り、まずシイ属が減少はじめ（a亜帶）、これに対応するようニヨウマツ亜属やイネ科が出現し、次にシイ属がほとんど消えた後アカガシ亜属が減少はじめ（b亜帶）、ニヨウマツ亜属やイネ科が卓越種類となる。この時にイネ科(>40)が連続的に出現はじめめる。自然植生要素のアカガシ亜属・ツガ属・ヤマモモ属などがニヨウマツ亜属の増加に伴って減少する（c亜帶）とともに、イネ科(>40)が増加する。最後に自然植生要素はほとんど消えて、二次林要素（植栽のものを含む）と耕作地域の草本植生となる（d亜帶）。

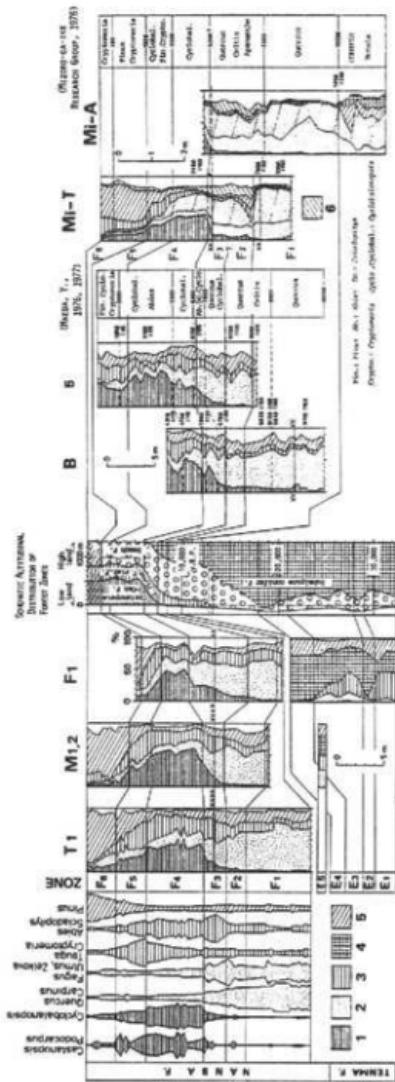
このような花粉組成ならびにこれから推定される植生の変遷が、大阪湾沿岸の低地において一般的なものであるかどうかは、まだ明らかではないが、既往の資料との対応関係からすると、P 1带のa亜帶とb亜帶の境界年代は、1500y.B.P.頃と推定される。

(2) 更新統について

上記のようにP 2带に相当する層準は花粉組成によって、沖積層中部以降の堆積物であると考えられ、更新統の兆候を示す層準は認められない。

堆積環境について

東壁の南側断面においては、試料No.12付近、つまり、第27層付近を境として、下位の層準は珪藻組成の浮遊性の種類が卓越することから、滞水域（池）の堆積環境が想定され



第113図 近畿地方の完新統における花粉化石層序 (古谷、1979)

1. シイ・カシ林要素
 2. ナツミツガ要素
 3. セミ・ツガ要素
 4. 亜高山帶針葉樹林要素
 5. 二次林要素
 6. Mi-T, Aにおける *Celtis* or *Aphananthe* アラスカ要素中の針葉樹
- (左端の四は花粉タクサの最大値を一定とし、T_iに沿うる各花粉タクサの出現量変化を示す)

(右平部の図と花粉等は、Matsu (1976b)、深尾ケ池田研究グループ (1976) の資料より作製)

る。一方、それより上位の層準は、付着性もしくは底性の種が卓越することから、流水域もしくは流水域からの多量の流れ込みのある堆積環境が想定される。

上部、下部それぞれの中では珪藻組成に変化はないので、堆積環境に大きな変化はなかったものと考えられる。

787-ORの東側断面の試料No. 5～6の珪藻組成は、付着性もしくは底性の種が卓越する組成であって、A区東壁の南側断面の上部と類似の流水域の堆積環境が想定される。

いずれの場合も海水の影響はないものと判断される。

植生の変遷について

東壁の南側断面の花粉化石の組成・変遷によると、遺跡地から後背の山地にかけての植生は、亜帯区分に対応して以下のように推定される。

(1) P 2 帯時代

沿岸域を含む平野（低地）にはシイ、カシ林からなる照葉樹林（暖温帶常緑広葉樹林）の分布が推定される。山麓から山地にかけては、いわゆるモミ・ツガ林の分布が推定されるが花粉化石はごく少ない。ブナ属が全く出現しないことから、後背の金剛・葛城山地にはブナ林が存在しなかったか、ごくわずかであったと推定される。

(2) P 1 帯 a 亜帯時代

P 2 帯の自然植生がイネの耕作や森林の伐採によって、一部二次林化はじめたと推定される。そのさい低地のシイ林がまずはじめに減少した。

山地にはブナが分布し、気候がやや冷涼化したことが推定される。

(3) P 1 帯 b 亜帯時代

シイ林の破壊はさらに進み、低地もしくは台地の植生はほぼ二次林に置き換わったと推定される。シイ林の後や山麓部には一部でヤマモモ林が発達する。草地の植生は裸地が増加したことにより、イネ科を中心とする草原となった。

(4) P 1 帯 c 亜帯時代

丘陵地から山麓部にかけてのカシ林が二次林に置き換わったと推定される。

低地から台地部ではイネの栽培面積が次第に拡大していったと推定される。この時期にソバの栽培も行われていたと考えられる。

(5) P 1 帯 d 亜帯時代

暖温帶から中間帯にわたる自然植生要素は激減し、二次林要素であるアカマツ、クロマツ林が拡大したと推定される。低地から台地部ではイネの栽培が広く行われ、アブラナ科

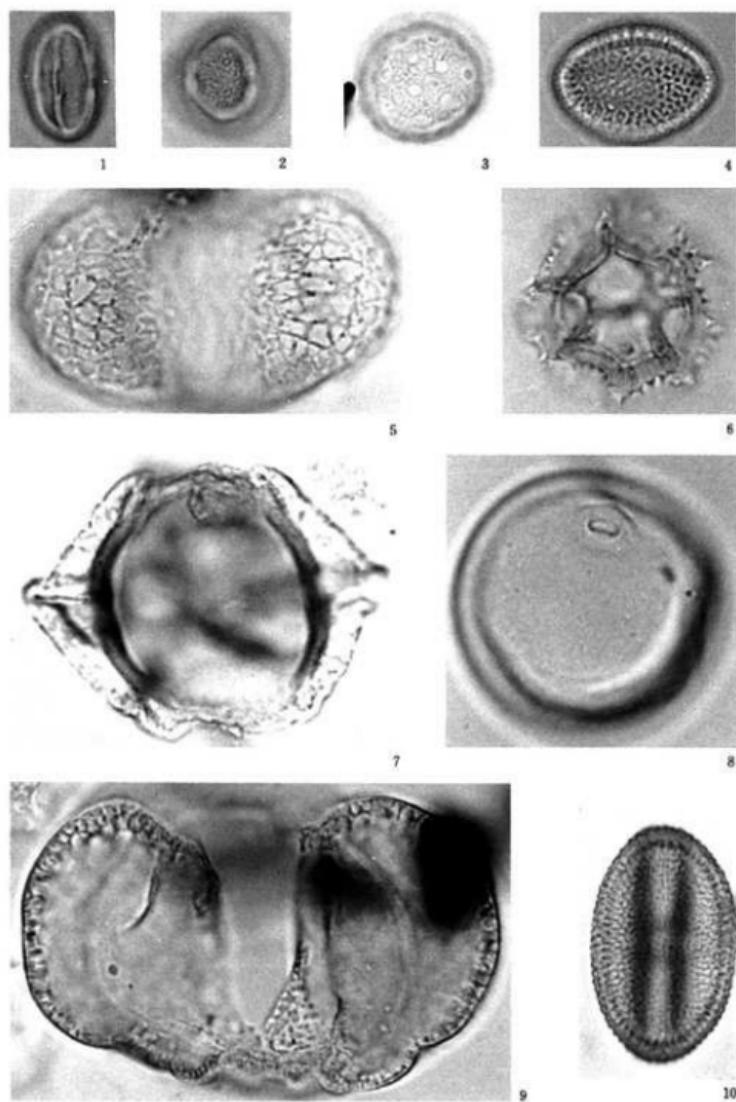
(ナタネ?) やワタの栽培も行われていたと考えられる。

花粉化石顕微鏡写真説明 倍率×1000

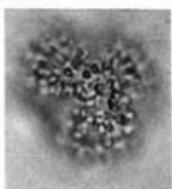
1	シイノキ属	(<i>Castanopsis</i>)
2	ヨモギ属	(<i>Artemisia</i>)
3	アカザ科	(CHENOPODIACEAE)
4	アブラナ科	(CURCIFERAE)
5	イヌマキ属	(<i>Podocarpus</i>)
6	タンポポ亜科	(<i>Taraxacum</i>)
7	ヒシ属	(<i>Trapa</i>)
8	40μ以上のイネ科	(GRAMINEAE>40)
9	ゴヨウマツ亜属	(<i>Haploxyylon</i>)
10	ソバ属	(<i>Fagopyrum</i>)
11	モチノキ属	(<i>Ilex</i>)
12	イネ科	(GRAMINEAE)
13	アカガシ亜属	(<i>Cyclobalanopsis</i>)
14	カヤツリグサ科	(CYOPERACEAE)
15	アリノトウグサ科	(HALORAGACEAE)
16	モクセイ科	(OLEACEAE)
17	サワグルミ属	(<i>Pterocarya</i>)
18	センダン属	(<i>Melia</i>)
19	コウヤマキ属	(<i>Sciadopitys</i>)
20	40μ以上のイネ科	(GRAMINEAE>40)

珪藻化石顕微鏡写真説明 倍率×800

1	ハネケイソウ属	(<i>Pinnularia borealis</i>)
2	ハネケイソウ属	(<i>Pinnularia viridis</i>)
3	クチビルケイソウ属	(<i>Cymbella tumida</i>)
4	ジウゲケイソウ属	(<i>Stauroneis phoenicentron</i>)
5	ハネケイソウ属	(<i>Pinnularia gibba</i>)
6		(<i>Neidium iridis</i>)
7	クサジケイソウ属	(<i>Gomphonema</i> 属)
8	イチモンジケイソウ属	(<i>Eunotia</i> 属)



第114図 花粉化石類微鏡写真



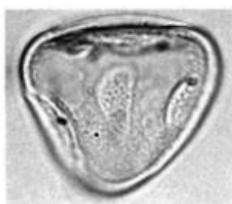
11



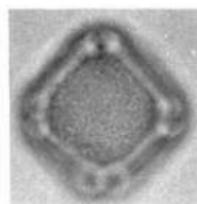
12



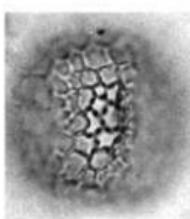
13



14



15



16



17



18



19

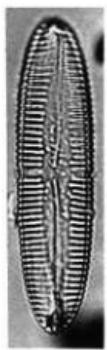


20

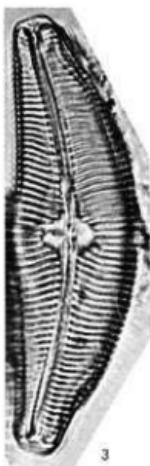
第115図 花粉化石顕微鏡写真



1



2



3



4



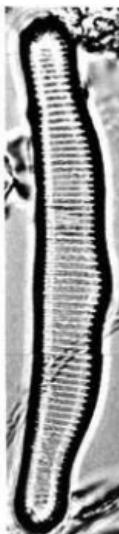
5



6



7



8

第116図 珪藻化石類微鏡写真

第3節 第2次調査の花粉化石等微化石分析

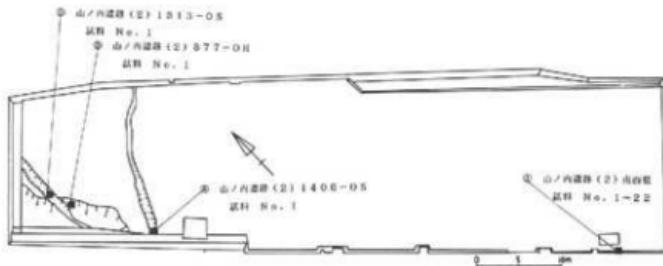
川崎地質株式会社

はじめに

岸和田市田治米町に広がる山ノ内遺跡において、昭和62年度の発掘調査に伴い地質層序ならびに植生や水域の古環境を推定するために、花粉分析と珪藻分析を行った。

第1項 分析試料について

花粉分析、珪藻分析とともに4地点（第117図）で25試料を採取・分析した。このうち花粉分析では南西壁で比較的連続した結果がえられた。珪藻分析では、ほとんどの試料で珪藻が出現せず、南西壁で2試料、他で1試料から出現したのみであった。このため本報では南西壁の試料について報告する。

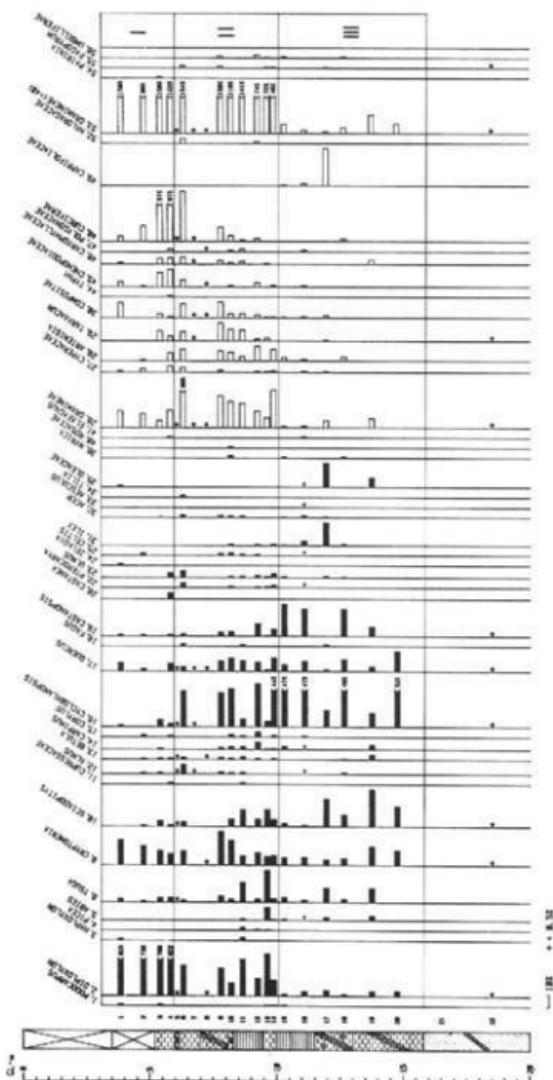


第117図 試料採取地点位置図

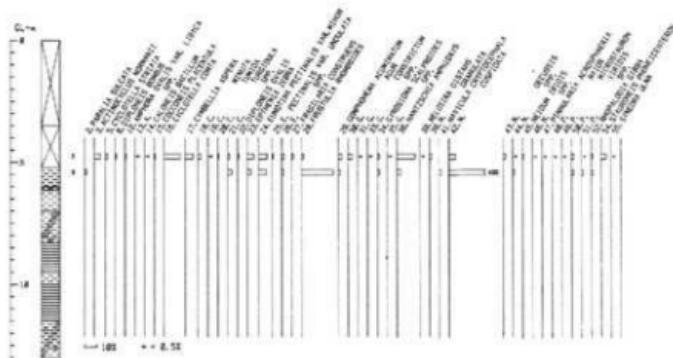
第2項 結 果

花粉ダイヤグラム、珪藻ダイヤグラムを第118・119図に示す。花粉ダイヤグラムは樹木花粉の総数を基数として百分率で表した。出現数の極めて少ない試料では、＊で出現した種類を示した。珪藻ダイヤグラムは総数を基数として百分率で表した。

この結果、花粉分析では、下位よりアカガシ亜属が卓越し、スギ属、コウヤマキ属、シイ属を伴うⅢ带、アカガシ亜属の減少傾向に伴い、特に卓越する種が存在しなくなり、前帶に比べニヨウマツ亜属が増加し、シイ属が減少するⅡ带、ニヨウマツ亜属の卓越とスギ層の増加傾向が見られるⅠ帶に識別・分带できる。



第118図 花粉ダイヤグラム



第119図 珪藻ダイヤグラム

第3項 考 察

①植生変遷について

花粉分析結果より、各花粉帯に対応して以下のように植生が推定できる。

III带時代…沿岸域を含む平野（低地）にはシイ、カシ林からなる照葉樹林（暖温帶常緑広葉樹林）の分布が推定される。しかし、イネの耕作や森林の伐採によってシイ林が減少し、一部で二次林化はじめたと推定される。

II带時代…シイ林の破壊が進み、低地もしくは台地の植生はほぼ二次林に置き換わったと推定される。また、イネの栽培が盛んになってきており、裸地には、イネ科やキク科を中心とする雑草が繁茂していたと推定される。

I带時代…暖温帶から中間帯にわたる自然植生要素は激減し、二次林要素であるアカマツ、クロマツ林が拡大し、スギの植林も盛んに行われるようになつたと推定される。低地から台地ではイネの栽培が広く行われ、アブラナ科（ナタネ？）の栽培も行われていた可能性も考えられる。

また、從来から大阪ならびにその周辺地域で知られている花粉組成の変遷様相より、III帶と II帶の境界年代は1500y.B.P.と推定される。

②堆積環境について

珪藻分析の結果より、アルカリ種、淡水產種がほとんどであり、流水種が少なく止水種、不定種が多いことから、自然環境中では、流れの緩やかな河川、遊水池あるいは後背湿地のような環境であった可能性がある。

第VI章 まとめ

山ノ内遺跡は、大阪府岸和田市今木、田治米町に所在し、標高26mの低位段丘上に立地する遺跡である。府道磯之上山直線建設に伴い幅20m、長さ160mの範囲を発掘調査した結果を簡単にまとめると次のようになる。

1. 繩紋時代

前述したとおり、山ノ内遺跡A地区においては後期前葉にかけての土器、石器、剝片等が確認されている。しかし当該期の遺構は検出されず、全て包含層や自然河川の埋土からの出土であった。

A地区の南側に位置するB地区においては繩紋時代後期初頭から晩期末葉にかけての遺構、遺物が検出された。特に多量の石鐵と、元住吉山1式から宮滝1式までの土器が多数確認されている。しかしB地区のあり方は、集落中心部の状況ではなく、B地区東側の独立丘陵上及びその西斜面に中心部が想定される。

またA地区の2次調査によって検出された繩紋時代後期後半を中心とする包含層の存在によって、この時期の遺跡範囲をある程度明確にできた。

以上の成果は、春木八幡山遺跡³²、万町北遺跡³³、輕部池西遺跡³⁴の調査成果とあわせて、和泉地域において從来から内容が不明瞭であった、後期後葉の実態を解明する多くの事実を提示している。

B地区は、集落中心部からやや外れるものの、後期後葉段階にあってはこの地域の中心的な集落になる可能性が大きい。松尾川を挟んで、対岸の和泉丘陵上に位置する万町北遺跡の場合も、山ノ内遺跡とはほぼ同時期に営まれている。近接した位置にある両集落の密接な関係が想定される。あるいは、同一集團による時期的及び季節的な移動によって出現した集落と考えることもできよう。出土遺物の詳細な比較作業が今後の課題である。

2. 弥生時代

調査地の北半部から、かなり大規模な2条の自然河川と、それに挟まれた中洲上の台地から2棟の竪穴住居跡、それに関連する土坑、溝、ピット群が検出され、東側に広がるであろう集落域の一部を明らかにした。

住居跡は、2棟とも弥生時代後期後半期に火災によって廃棄されたもので、同時併存した可能性が高い。平面プランは方形を呈し、1辺6mの大型のものと1辺4.5mの小型

のものがある。前者は4本柱で、中央炉と土坑を有し、後者は主柱穴を中心にもつ特殊な構造であった。床面上には炭化した重木材の配置を良く残し、樹種鑑定の結果、コナラ属が多用されていることが明らかになった。住居内に残された遺物は少なく、火災前に持ち出されたと考えられるが、小型の住居跡からは、唯一完形の手培形土器が据え置かれた状態で出土している。

土坑は、住居跡に近接した小型の竪穴状を呈し、焼土を含んでいた。

ピット群は、小規模な範囲を占めるもので、いずれも集落内の施設と推測される。

溝は、幅約0.5~1.0mの小溝である。住居のある台地を取り巻くとともに、川を挟んだ南側にも見られた。居住域を画すると共に灌漑水路としての機能が考えられる。

自然河川は、調査地の中央部を西南西に横断する幅38m、深さ1.2mのものと、北端部を北西に流れる、幅12m、深さ0.7mの2本がある。両者は良く似た堆積状況を示し、下層には砂疊層が見られ、かなりの水量が想定されるが、住居が営まれた後期後半には、滲水状態を示す黒色粘土が形成され、そこに土器等が、数多く投棄されていた。また、埋没が早かった北側の河川内には、幹の直径が2.5mに及ぶクスノキが生育していたことが根株から復原される。

河川内からは、他に弥生中期初頭、中期後半、後期前半の土器も出土している。前者は僅かであるが、後二者は比較的多く、付近に集落が存在した可能性を窺わせる。

この河川は、地形的に牛滝川の旧流路の一つと考えられる。同じ路線内の調査結果から幾条かの河川が網流していた様子が窺える。

検出された集落は、西人路遺跡¹¹でも見られた、短期間の小規模な集落の可能性がある。火災住居跡を含むことは、共通した歴史的背景が想定される。遺物では、壺、甕、高杯、鉢、手培形土器、器台などが出土している。量はかなりあるが、完形品は少ない。石器では、石鎌、石錐、石庖丁、不定形の削器、石核、剝片、チップ、砥石、凹み石がある。住居跡からの石器の出土は、後期後半まで用いられたことを示すものかも知れない。木器、金属器は、見られなかった。

3. 古墳時代

北側の自然河川上部に堆積する黒色土が、古墳中期後半の時期の遺物を若干出土する。花粉分析では水田層の可能性がある。

4. 奈良～鎌倉時代

南側の自然河川上部には、奈良、平安時代に遡る可能性がある包含層が存在する。また

台地上の不定形の土坑が、鎌倉時代の可能性がある唯一の遺構である。後世の堆積土からは、当該期の遺物をかなり出土するが、客土等で周辺の包含層が削られ、持ち込まれたと考えられる。なお南側に約300m離れた山直北遺跡が、当該期の中心的集落である。遺物では、土師器、須恵器、黒色土器、綠釉陶器などがある。

5. 室町～江戸時代

この時期は、耕作面とそれに伴う畦畔、鋤溝、水路などが検出されている。調査北の北側では、地形的に低いため厚さ1.4mにわたって5枚の耕作面が重複する様子が明らかとなつた。耕作面は、全面的な盛り土整地が行われた16世紀前半を挟んで2大別される。

最古の耕作面は、14世紀前半から15世紀初頭に営まれたもので、耕土は、弥生時代の河道跡とその周囲に限定されていた。しかし、畦畔の配置から現代と同方向の条里地割が施工されていたことが窺え、以後それを踏襲している。

15世紀代には、耕土が全面に及ぶようになる。整地後は、16世紀代に2面、17世紀に1面、18世紀に1面の耕作面を認める。何れも鋤溝をともなうことから裏作が行われたことを示す。なお花粉分析では、ソバが検出されている。16世紀における整地作業は、遺跡の北側にある、廿池の築造に伴う可能性がある。遺物では、瓦器、土師器、須恵器、室町時代の鉄製の鋤がある。

次に中近世耕作に関する問題点をあげておきたい。

まず用水の問題である。今回検出された耕作地のほとんどが水稻耕作を行っていたと推測されるが、その際に最も必要とされる水利施設は検出されなかった。それを2条一対の畦畔が担っていたとも考えられるが、いずれも浅く明確なものでないことから多量の水を供給する水路には適さないと思われる。いずれの耕作地も2、3辻を検出したに留まり、全体を検出することができなかつた。今後の周辺の調査で水利施設の存在が明らかになることと思われる。

次に耕作方法の問題である。整地土層より下層の耕作土には「床土」が伴わず、上層の耕作土には「床土」が伴っている。この現象が耕作方法の違いや土質の違いによるのか、また本来存在した「床土」が不明瞭になったためなのか、現在では断定できないが、もし元来存在しなかつたのであれば、中世から近世にかけての変換期に耕作においてもなんらかの変革が行われたと推測される。「鋤溝」の有無も同様である。

今回明らかになったことがらは山直谷における耕作の在り方の一端であるが、依然不明な点が多く、当地域における耕地化の初現とその発展過程は、周辺に残る条里地割の施行

時期などとともに考えていかなければならない。また、第4耕作面の一部で検出された溝は「畝溝」とみられることから畑作が行われていたことがうかがわれるが、当地域におけるそうした耕作技術や耕地経営の在り方も重要な問題である。これから調査で明確にしていきたい。

- 註1 (財)大阪府埋蔵文化財協会『山直北遺跡発掘調査』「現地説明会試料10」 1987
2 岸和田市教育委員会・古代学協会『春木八幡山遺跡の研究』 1965
3 和泉丘陵内遺跡調査会『和泉丘陵内遺跡発掘調査概要』I～V 1982～1986
4 (財)大阪府埋蔵文化財協会『輕部泡西遺跡』 1987
5 (財)大阪府埋蔵文化財協会『西大路遺跡』 1988

付 遺物観察表

遺物観察表例言

1. 登録番号・出土地区の欄は、上段より持國番号・遺物番号・図版番号・登録番号・出土地区の順に表記した。
また、登録番号は現地調査の際に付けた取り上げ番号である。
2. いわゆる、瓦質土器、土師質土器、須恵質土器はそれぞれ瓦器、土師器、須恵器に統一し表記した。
3. 土器の計測値、センチメートル（cm）を単位とし表記した。
上器は、口径、器高、底径の順に表記した。
() の計測値は、復元径、現存器高を現す。
4. その他の遺物の計測値は、ミリメートル（mm）、グラム（g）を単位とし表記した。
石器は、器長、器幅、最大厚、重量の順に表記した。
最終剥離面が認められる剝片は、打点から遠位点までの距離、それに直交する最大幅、最大厚、重量の順に表記した。
その他の剝片、石核、石製品等は、最大長、それに直交する最大幅、最大厚、重量の順に表記した。
金屬器・自然遺物は、器長（あるいは最大長）、器幅（あるいは最大幅）、最大厚、重量の順に表記した。
錢貨は、径、重量の順に表記した。
5. 色調は、小川正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖 第5版』（1976）を用い、Hue. を省略したかたちで表記した。
6. 烧成は軟、中、硬の3段階で表記した。

網紋土器

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 燥	色 調 ・ 土 士 ・ 雑 成	備 考
第6回 1 回収 19 1172 G18	網紋 土器 深 筋 (3.5)	体部外面 扇形沈縞紋 体部内面 ナデ	外 7.5YR6.3 に赤い褐色 内 2.5YR2.2 黄褐色 断 2.5Y6.1 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第6回 2 回収 19 1169 G21	網紋 土器 深 筋 (4.1)	体部外面 沈縞紋 体部内面 ナデ	外 10YR5.1 黒褐色 内 10YR4.2 黑褐色 断 10YR4.2 黑褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	外面 保有者
第6回 3 回収 19 1068 G21	網紋 土器 深 筋 (4.5)	体部外面 曲具条痕、ナデ 体部内面 ナデ	外 2.5Y4.1 黄褐色 内 10YR3.1 黑褐色 断 2.5Y5.1 黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第6回 4 回収 19 1167 G21	網紋 土器 深 筋 (5.0) (3.0)	口縁部外面 扇形沈縞紋、網紋 口縁部外面 沈縞紋 口縁部内面 曲具条痕、ナデ	外 5.5YR1.7 黑色 内 7.5YR6.2 黄褐色 断 10YR6.2 黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 外面 保有者
第6回 5 回収 19 1168 G21	網紋 土器 深 筋 (5.8) (5.6)	口縁部外面 扇形凹縞紋、扇状压痕 口縁部内面 ナデ	外 2.5Y5.1 黑褐色 内 2.5YR3.1 黄褐色 断 2.5Y5.1 黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 外面 保有者
第6回 6 回収 19 1146 G21	網紋 土器 深 筋 (5.8)	体部外面 網紋 体部内面 ナデ	外 N3.0 細灰色 内 7.5YR4.3 黄褐色 断 7.5YR4.3 黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	外面 保有者
第6回 7 回収 — 1128 G2BK	網紋 土器 深 筋 (3.4)	体部外面 網紋 体部内面 曲具条痕	外 2.5Y4.1 黄褐色 内 2.5Y6.1 黄褐色 断 2.5Y5.1 黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	
第6回 8 回収 — 1025 G19BK	網紋 土器 (4.0)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10YR5.1 に赤い褐色 内 10YR6.2 黄褐色 断 10YR3.1 黑褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第6回 9 回収 — 18 1118+4	網紋 土器 深 筋 (5.3)	体部外面 ナデ 体部内面 ナデ	外 10YR5.2 黄褐色 内 2.5Y6.2 黄褐色 断 2.5Y7.2 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第6回 10 回収 — 1066 G24	網紋 土器 深 筋 (2.4)	口縁部外面 曲具条痕 口縁部内面 ナデ	外 7.5YR5.1 黄褐色 内 7.5YR6.3 に赤い褐色 断 10YR5.2 黄褐色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	
第6回 11 回収 19 1138 G24HO	網紋 土器 深 筋 (3.0)	体部外面 曲具条痕 体部内面 曲具条痕、ナデ	外 7.5YR5.1 黄褐色 内 5Y3.1 オリーブ黒色 断 5Y3.1 オリーブ黒色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第6回 12 回収 — 1071 G19YM	網紋 土器 深 筋 (3.1)	体部外面 深度 体部内面 二枚曲具条痕	外 N3.0 細灰色 内 2.5Y5.1 黄褐色 断 2.5Y4.1 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	

登録番号 出土地区	基盤・地形 計測値	成形・調整	色調・粒度・構成	備考
第6回 13 固版 19 1136 G218O	高紋 土 基 底 鋸 (4.3) —	体部外面 傷き条痕 体部内面 傷き条痕、ナゲ	外 N3.0 暗灰色 内 2.5Y4.1 暗灰色 断 2.5Y4.1 暗灰色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 無 中	外面 保付着
第6回 14 固版 19 1068 G24	高紋 土 基 底 鋸 (4.2) —	体部外面 傷き条痕 体部内面 ナゲ	外 N4.0 暗色 内 10YR6.2 深黄褐色 断 10YR6.2 深黄褐色 0.2mm以上の黒色砂粒を含む 無 中	
第6回 15 固版 — 1128 G38HK	高紋 土 基 底 鋸 (3.8) —	体部外面 磨擦線 体部内面 ナゲ	外 7.5YR4.1 暗灰色 内 7.5YR4.2 淡褐色 断 7.5YR4.2 暗褐色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 無 中	
第6回 16 固版 — 1077 G19Y1	高紋 土 基 底 鋸 (5.1) —	体部外面 傷痕 体部内面 ナゲ	外 10YR6.1 暗灰色 内 N3.0 暗灰色 断 10YR5.1 暗灰色 1.0mm以上の黒色砂粒を含む 無 中	
第6回 17 固版 19 1136 G218O	高紋 土 基 底 鋸 (3.7) —	体部外面 傷き条痕 体部内面 ナゲ	外 10Y2.1 黒色 内 7.5Y3.1 オリーブ黒色 断 7.5Y4.1 暗色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 無 中	
第6回 18 固版 19 1172 G18	高紋 土 基 底 鋸 (5.3) (12.0)	体部外面 条痕 体部内面 ナゲ	外 7.5YR6.3 にぶい褐色 内 7.5Y6.2 淡黃褐色 断 2.5Y6.1 暗褐色 5.0mm以上の白色砂粒を多く含む 無 中	反射強光
第6回 19 固版 — 1071 G19YM	高紋 土 基 底 鋸 (1.9) (2.8)	底部外面 ナゲ 底部内面 ナゲ	外 10YR6.4 にぶい褐色 内 10YR6.2 淡黃褐色 断 10YR2.1 黒色 1.0mm以上の白色砂粒を若干含む 無 中	反射強光

866-O D

登録番号 出土地区	基盤・地形 計測値	成形・調整	色調・粒度・構成	備考
第11回 20 固版 20 1009 G19TH	赤生 土 基 手 烧 15.0 (16.6) 4.0		外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 2.5Y8.2 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を若干含む 無 中	体部 黑鐵
第11回 21 固版 20 1004 G19TG	赤生 土 基 裏 烧 (4.6) —	摩擦のため調整不明	外 10YR7.2 にぶい褐色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 10YR7.3 にぶい褐色 4.0mm以上の白色、黑色砂粒を含む 無 中	
第11回 22 固版 20 997 G19TH	赤生 土 基 高 烧 (3.5) —	摩擦のため調整不明	外 7.5YR7.3 にぶい褐色 2.5Y8.2 淡白色 2.5Y8.2 淡白色 1.0mm以上の白色、黑色砂粒を含む 無 中	反射強光 833-02出土
第11回 23 固版 — 1152 G19TH	赤生 土 基 底 鋸 (7.0) 3.8	底体部外面 ナタキ 体部内面 ハケ	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 2.5Y8.2 淡白色 2.0mm以上の白色、黑色砂粒を若干含む 無 中	内面 赤土斑痕 裏

登録番号 出土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 磨 成	備 考
第162回 26 同前 20 1082 —	有 生 土 器 ■ (22.5) (1.8) —	車輪のため調整不明	外 5 YR 8.6 淡褐色 内 7.5 YR 7.3 に赤い褐色 新 7.5 YR 8.2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒多くを含む 鐵	反転復元
第162回 27 同前 20 911 —	有 生 土 器 ■ (19.0) (1.4) —	車輪のため調整不明	外 7.5 YR 6.2 に赤い褐色 内 7.5 YR 7.2 淡褐色 新 7.5 YR 8.2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 28 同前 20 911 —	有 生 土 器 ■ (10.0) (1.55) —	車輪のため調整不明	外 7.5 YR 8.8 淡褐色 内 7.5 YR 8.4 淡褐色 新 7.5 YR 8.3 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒多くを含む 鐵	円形浮出
第162回 29 同前 20 1155 —	有 生 土 器 ■ (17.2) (2.6) —	口縁部外面 ナジ、指オサエ 口縁部内面 テナキ 内面 車輪のため調整不明	外 3 YR 6.6 棕色 内 10 YR 8.3 淡褐色 新 7.5 YR 6.4 に赤い褐色 0.5mm以上の白色砂粒多くを含む 鐵	反転復元
第162回 30 同前 20 912 G19Q E —	有 生 土 器 ■ (16.0) (2.3) —	口縁部外面 ナジ 口縁部内面 ナジ	外 7.5 YR 6.6 棕色 内 10 YR 7.4 に赤い黃褐色 新 10 YR 6.3 に赤い黃褐色 3.0mm以上の白色砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 31 同前 20 913 G19 R E —	有 生 土 器 ■ (16.4) (1.6) —	車輪のため調整不明	外 5 YR 7.3 に赤い褐色 内 2.5 YR 8.2 底白色 新 2.5 YT 7.2 底白色 1.0mm以上の白色、褐色の砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 32 同前 20 913 G19 R E —	有 生 土 器 ■ (13.5) (1.2) —	車輪のため調整不明	外 2.5 YS 2 底白色 内 2.5 YS 2 底白色 新 2.5 YS 2 底白色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 33 同前 20 1156 —	有 生 土 器 ■ (2.2) —	車輪のため調整不明	外 10 YR 4.1 淡褐色 内 10 YR 4.1 淡褐色 新 10 YR 2.1 黒色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 34 同前 20 1082 —	有 生 土 器 ■ (4.9) —	底部所面 テナキ 内面 車輪のため調整不明	外 2.5 YR 7.4 淡褐色 内 10 YR 7.3 に赤い黃褐色 新 5 YR 6.4 に赤い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 鐵	
第162回 35 同前 20 1081 —	有 生 土 器 高 杯 (23.3) (6.0) —	車輪のため調整不明	外 10 YR 7.3 に赤い黃褐色 内 10 YR 7.3 に赤い黃褐色 新 10 YR 7.3 に赤い黃褐色 3.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 鐵	反転復元
第162回 36 同前 20 912 G19 Q E —	有 生 土 器 ■ (1.3) —	車輪のため調整不明	外 10 YR 6.2 底白色 内 10 YR 8.2 底白色 新 7.5 YR 6.4 に赤い褐色 0.5mm以上の砂粒を多く含む 鐵	口縁部凹成、円形浮出 口縁部内面凸成
第162回 37 同前 20 912 G19 Q E —	有 生 土 器 ■ (2.1) —	車輪のため調整不明	外 2.5 YS 3 淡黄色 内 3 YR 6.6 棕色 新 10 YR 6.4 に赤い黃褐色 0.5mm以上の砂粒を多く含む 鐵	口縁部凹成、円形浮出 口縁部内面凸成

登録番号 市土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 加 土 ・ 構 成	備 考
第16回 38 区版 20 908 —	野生土 基 底 (3.4) (12.2)	摩耗のため調整不明	外 10YR 8/2 底白色 内 2.5Y 6/3 淡黄色 断 2.5Y 5/1 黄灰色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	反射復光 鏡

878-O S

登録番号 市土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 加 土 ・ 構 成	備 考
第22回 43 区版 — 1080 G19VD —	野生土 基 底 (22.4) (3.2)	摩耗のため調整不明	外 7.5YR 7/4 に赤い褐色 内 7.5YR 7/4 に赤い褐色 断 7.5YR 7/4 に赤い褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む れ 中	反射復光 上部群 3
第22回 44 区版 — 1080 G19VD —	野生土 基 底 (2.2)	摩耗のため調整不明	外 7.5YR 7/4 に赤い褐色 内 7.5YR 7/6 褐色 断 7.5YR 7/3 に赤い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む れ 中	上部群 3
第22回 45 区版 — 1090 G19TD —	野生土 基 底 (3.0)	口縁部外側 ナデ 口縁部内側 横方向のヘリガキ	外 2.5Y 7/2 底黄色 内 2.5Y 7/2 底黄色 断 2.5Y 7/2 底黄色 0.2mm以上の白色砂粒を含む れ 中	
第22回 46 区版 — 1090 G19TD —	野生土 基 底 (4.7)	脚部外側 摩耗のため調整不規 脚部内側 織り痕	外 2.5Y 8/2 底白色 内 7.5YR 7/1 に赤い褐色 断 10YR 8/2 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	一部反射
第22回 47 区版 — 1090 G19TD —	野生土 基 底 (2.8) 5.0	底部外側 テテキ 底部内側 細土のカキトリ	外 10YR 6/2 底黃色 内 10YR 4/1 極淡色 断 2.5Y 6/1 黄灰色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	基
第22回 48 区版 — 1040 G19VD —	野生土 基 底 (2.6) 3.6	底部外側 テテキ 底部内側 板ナデ	外 5YR 7/6 褐色 内 5YR 8/2 底白色 断 5Y 7/2 底白色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	上部群 3 基
第22回 49 区版 — 1073 G19TC —	野生土 基 底 (4.3) 4.9	体部外側 タテキ 内面 摩耗のため調整不明	外 7.5YR 6/6 褐色 内 5YR 2 底白色 断 7.5YR 6/6 褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む れ 中	反射復光 上部群 1 基
第22回 50 区版 — 1040 G19VD —	野生土 基 底 (3.0) 3.8	体部外側 タテキ 体部内面 板ナデ	外 5YR 7/4 に赤い褐色 内 10YR 7/4 に赤い褐色 断 10YR 7/4 に赤い褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	一部反射 上部群 3 基
第22回 51 区版 — 1073 G19TC —	野生土 基 底 (3.1) 5.1	摩耗のため調整不明	外 2.5Y 8/3 淡黄色 内 2.5Y 8/2 底白色 断 2.5Y 6/1 黄灰色 4.0mm以上の白色。灰色砂粒を含む れ 中	上部群 1 基
第22回 52 区版 25 1091 G19UD —	野生土 基 底 (5.6) 3.2	体部外側 タテキ 底部内面 板ナデ	外 7.5YR 7/3 に赤い褐色 内 5Y 4/1 底色 断 2.5Y 8/1 底白色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む れ 中	一部反射 上部群 2 基

登録番号	基準・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 肌 土 ・ 構 成	備 考
第2285 53 出土地区 —— 1049 G19VD	新生土器 底部 (4.5) 4.6	体部外面 タタキ 底部内面 壁ナデ	外 7.5YR4.1 塗状色 内 7.5YR2.8 黄褐色 断 7.5YR6.3 にぶい褐色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 上器群3 變

787-OR 1層

登録番号	基準・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 肌 土 ・ 構 成	備 考
第2285 55 出土地区 21 564 G19Q A	瓦 番 跡 (4.1) —	摩耗のため調整不明	外 2.5YR1.6 淡白色 内 2.5YR1.1 黄褐色 断 2.5YR1.1 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第2285 56 出土地区 21 630 G19Q B	土 瓶 番 羽 篦 (2.5) —	外面 摩耗のため調整不明 口縁部内面 オデ	外 10YR7.6 明黄褐色 内 2.5YR4.1 淡黄色 断 2.5YR4.1 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第2285 57 出土地区 21 560 G18NX	圓 慈 番 羽 篦 (1.6) —	つまみ部分外面 回転ナブ 天井部外面 ヘラケヅリ 内面 回転ナブ	外 3.5G7.1 オリーブ淡色 内 2.5YR1.1 淡白色 断 10Y7.1 淡白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第2285 58 出土地区 23 574 G19Q A	圓 慈 番 杯 身 (10.6) (3.7) —	底部外周 1.3をヘラケヅリ 内面 回転ナブ	外 5PBT7.1 塗青灰色 内 5PBT7.1 塗青灰色 断 5PBT7.1 塗青灰色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第2285 59 出土地区 21 586 G19P B	圓 慈 番 杯 身 (2.9) —	外面 回転ナブ 内面 回転ナブ	外 N5.0 淡色 内 N8.0 淡白色 断 N8.0 淡白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第2285 60 出土地区 —— 582 G19PB	新生土器 底部 (1.2) —	口縁部外面 円形浮文 内面 摩耗のため調整不明	外 5YR7.6 淡色 内 5YR7.6 淡色 断 5YR7.6 淡色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第2285 61 出土地区 —— 531 G18O X	新生土器 底部 (2.7) 4.4	外面 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR5.2 塗青褐色 内 10YR7.3 にぶい黄褐色 断 10YR4.4 淡褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 變

787-OR 2層

登録番号	基準・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 肌 土 ・ 構 成	備 考
第2285 62 出土地区 —— 586 G18O X	圓 慈 番 杯 身 (10.6) (3.2) —	天井部外面 ヘラケヅリ 内面 回転ナブ	外 5PBT7.1 塗青灰色 内 5PBT6.1 青灰色 断 5PBT6.1 青灰色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第2285 63 出土地区 21 499 G18NW	圓 慈 番 杯 身 (15.0) (3.0) —	外面 回転ナブ 内面 回転ナブ	外 N5.0 淡色 内 7.5YR5.2 淡褐色 断 7.5YR6.3 にぶい褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元

登録番号 出土地区	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 粒 土 ・ 燃 成	備 考
第26回 64 因版 —— 838 G18N Y	夯 生 土 基 高 底 (14.6) (8.3) —	口縫部外側 ナデ 斜面外側 斜方向のヘラミガキ 内面 斜方向内のヘラミガキ	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 10YR7.3 淡黄色 断 2.5Y7.3 淡黄色 0.5mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燃 中	反転復元
第26回 65 因版 —— 840 G19P A	夯 生 土 基 高 底 (4.9) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8.2 灰白色 内 2.5Y8.2 灰白色 断 2.5Y7.2 灰白色 0.5mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燃 中	
第26回 66 因版 21 822 G18N X	夯 生 土 基 底 頂 (4.2) (2.1) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 2.5Y7.4 淡黄色 断 2.5Y7.1 灰白色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燃 中	底面モルタル痕
第26回 67 因版 21 844 G19P A	夯 生 土 基 底 頂 (2.6) (4.4) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y6.3 にぶい黄色 内 2.5Y6.3 にぶい黄色 断 2.5Y6.3 にぶい黄色 0.5mm大の白色、褐色砂粒を多く含む 燃 中	
第26回 68 因版 21 844 G19P A	夯 生 土 基 底 頂 (2.4) (3.4) —	体積外側 タタキ 内側板ナブ	外 2.5Y7.2 灰黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y7.2 灰黄色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燃 中	
第26回 69 因版 21 842 G18O X	夯 生 土 基 底 頂 (2.5) (4.5) —	外壁 摩耗のため調整不明 底面内面 ハケ	外 2.5Y7.2 灰黄色 内 10YR7.3 にぶい褐色 断 10YR7.3 にぶい褐色 1.0mm大の白色、灰色砂粒を含む 燃 中	

787-OR 3層

登録番号 出土地区	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 粒 土 ・ 燃 成	備 考
第27回 70 因版 21 835 G19Q A	夯 生 土 基 裏 (13.2) (5.0) —	口縫部外側 ナデ 面縫部外側 ナデの後ヘラミガキ 口縫部内面 ナデ 底面内面 ヘラミガキ	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燃 中	反転復元
第27回 71 因版 —— 845 G18N Y	夯 生 土 基 裏 (15.0) (4.0) —	外側 壓耗のため調整不明 口縫部内面 ハケ	外 7.5YR7.3 にぶい褐色 内 7.5YR6.2 にぶい褐色 断 10YR8.2 灰白色 1.0mm大の白色砂粒を多く含む 燃 中	反転復元
第27回 72 因版 —— 842 G19N A	夯 生 土 基 裏 (16.4) (7.2) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y7.6 棕色 内 2.5Y7.6 棕色 断 7.5Y8.3 淡黃褐色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燃 中	反転復元
第27回 73 因版 23 842 G19N A	夯 生 土 基 裏 (18.5) (5.7) —	口縫部外側 縫方向のハケ C型底内面 摩耗のため調整不明	外 10YR6.3 にぶい褐色 内 10YR5.2 にぶい褐色 断 10YR5.1 にぶい褐色 2.0mm大の白色砂粒を多く含む 燃 中	反転復元
第27回 74 因版 25 835 G19O B	夯 生 土 基 裏 (11.6) —	體面に1条の凸面をめぐらせる 凸面にカギレ 体積外側 2条の透状紋 縫方向のヘラミガキ 体積内面 ハオヤエ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y6.2 淡黄色 燃 中	反転復元

登録番号 出土地区	基種・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 断 面 ・ 断 斧	備 考
第27回 70 岡阪 25 850 G19TC	外 生 土 器 裏 部 15.6 27.9 5.0	口縁部内・外側 ナデ 腹部外側 板ナゲの後ヘラミガキ 腹部内側 バケの後ヘラミガキ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄褐色 内 10YR7.2 に近い黄褐色 断 2.5Y7.2 淡黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 軟	
第27回 76 岡阪 21 832 G18NA	外 生 土 器 裏 部 (21.0) (4.1) —	車軸のため調整不明	外 5 YS 1 底色 内 5 Y7.2 淡白色 断 5 Y7.3 底白色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 軟 中	反転復元
第27回 77 岡阪 21 1066 G19QB	外 生 土 器 底 部 (4.0) (5.1) —	底部外側 タタキの後ナデ 腹部外側 扇サエ 底部内面 ナデ	外 5 YR5.2 淡褐色 内 10YR7.2 に近い黄褐色 断 10YR7.2 に近い黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 軟 中	一部反転 底部 二点焼成 製造土器
第27回 78 岡阪 21 842 G19NA	外 生 土 器 底 部 (4.5) 4.4	底部外側 板ナデ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.3 淡黄褐色 内 2.5Y7.3 淡黄褐色 断 2.5Y7.3 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 軟 中	一部反転 底面 構造の圧痕 裏
第27回 79 岡阪 21 832 G18NA	外 生 土 器 底 部 (2.8) 5.6	底部外側 扇サエ 腹部外側 タタキ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.1 底白色 内 10YR6.2 底表面褐色 断 10YR6.3 に近い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 軟 中	底面 植物繊維の圧痕 裏
第27回 80 岡阪 21 801 G18QY	外 生 土 器 底 部 (2.4) 5.7	底面外側 ヘラミガキ 底面内側 ナデ	外 5 YS 1 底白色 内 N1.0 底色 断 5 Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 軟	体記字孔 底面 黒褐色 内面 爪痕 裏
第27回 81 岡阪 25 849 G18NY	外 生 土 器 底 部 (7.1) 8.6	外側 車軸のため調整不明 体側内面 板ナデ	外 2.5Y8.3 淡黄褐色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 2.5Y8.3 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 軟	一部反転 体側 黑褐色 裏
第28回 82 岡阪 21 835 G19QA	外 生 土 器 底 部 (2.5) (4.1) —	体側外側 タタキ 内面 車軸のため調整不明	外 2.5Y7.3 淡黄褐色 内 2.5Y8.3 淡黄褐色 断 2.5Y8.3 淡黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 軟	反転復元 裏
第28回 83 岡阪 21 845 G19NY	外 生 土 器 底 部 (3.5) 5.2	底部外側 扇サエ 底部内面 板ナデ	外 10YR7.3 に近い黄褐色 内 2.5Y6.2 底白色 断 2.5Y8.2 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 軟 中	一部反転
第28回 84 岡阪 21 835 G19QA	外 生 土 器 底 部 (2.6) 4.7	底部外側 扇サエ 内面 車軸のため調整不明	外 7.5Y8.2 底白色 内 7.5Y8.2 底白色 断 7.5Y8.2 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 軟	外側 車軸 裏
第28回 85 岡阪 25 821 G18MX	外 生 土 器 底 部 (6.8) 4.5	底部外側 タタキ 内面 車軸のため調整不明	外 10YR7.3 に近い黄褐色 内 10YR7.3 に近い黄褐色 断 10YR7.3 に近い黄褐色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 硬	体記 黑褐色 裏
第28回 86 岡阪 — 809 G19PB	外 生 土 器 高 仰 (3.4) —	車軸のため調整不明	外 2.5Y8.3 淡黄褐色 内 2.5Y8.3 底白色 断 2.5Y7.3 淡黄褐色 0.2mm以上の灰褐色砂粒を含む 軟	

采样番号	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 粉 土 ・ 滅 害	備 考
第28回 87 試版 843 G18MY	弥生土器 高杯 (6.7)	脚部外側 面取り直ヘラミガキ 脚部内面 砕り直	外 7.5YR6.3 に赤い褐色 内 10YR6.4 に赤い赤褐色 断 2.5Y5.3 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第28回 88 試版 22 832 G18NA	弥生土器 高杯 (7.6)	脚部外側 ヘラミガキ 脚部内面 ヘラミガキ 脚部内面 砕り直	外 2.5Y7.2 褐紫色 内 10YR6.4 に赤い黄褐色 断 2.5Y6.2 褐黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 三方スカン
第28回 89 試版 23 806 G19SB	弥生土器 高杯 (6.5)	外腹 ヘラミガキ 脚部内面 ヘラミガキ 脚部内面 砕り直 脚部内面 磨きサエ	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 10YR6.1 褐色 断 2.5Y7.3 に赤い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 四方スカン
第28回 90 試版 22 847 G18MY	弥生土器 高杯 (6.1)	脚部外側 ヘラミガキ 脚部内面 砕り直	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 2.5Y7.2 褐紫色 断 2.5Y7.3 褐黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	四方スカン
第28回 91 試版 22 833 G18MY	弥生土器 高杯 (6.3)	脚部外側 ハケ抜ヘラミガキ 脚部内面 砕り直 脚部内面 ハサ	外 5Y4.1 褐色 内 5Y6.2 淡オーラブ 断 5Y4.1 褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 四方スカン
第28回 92 試版 22 835 G18NY	弥生土器 高杯 (6.1)	脚部外側 ヘラミガキ 脚部内面 砕り直 脚部内面 ハサ	外 5YR7.4 に赤い褐色 内 5YR7.4 に赤い褐色 断 5YR8.3 褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	
第28回 93 試版 22 835 G18NY	弥生土器 高杯 (4.5)	脚部外側 ハケの後ヘラミガキ 脚部内面 砕り直	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 10YR7.2 に赤い黄褐色 断 10YR7.2 に赤い黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転
第28回 94 試版 22 830 G19OB	弥生土器 高杯 (4.7)	外腹 垂糸のため調整不規 脚部内面 砕り直	外 10YR7.4 に赤い黄褐色 内 10YR8.3 褐黄色 断 10YR7.4 に赤い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	三方スカン
第28回 95 試版 22 809 G19PB	弥生土器 高杯 (10.2)	摩耗のため調整不規	外 2.5Y8.2 褐白色 内 2.5Y8.2 褐白色 断 2.5Y7.1 褐白色 0.5mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転
第28回 96 試版 22 813 G19RA	弥生土器 高杯 (8.0)	脚部外側 摩耗のため調整不規 脚部内面 砕り直	外 10YR6.3 に赤い黄褐色 内 10YR6.3 に赤い黄褐色 断 10YR6.3 に赤い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第28回 97 試版 — 845 G18NY	弥生土器 高杯 (2.7) (13.0)	摩耗のため調整不規	外 2.5Y7.2 褐黄色 内 2.5Y7.2 褐黄色 断 2.5Y5.1 褐色 0.2mm以上の砂粒を多く含む 燒 小	反転復元

787-OR東肩3層

登録番号	基準・地形 計測頭	成形・調整	色調・粘土・構成	備考
第29回 96 回数 22 812 G18TC	赤生土基 （ 22.0 ） （ 6.2 ） —	口縁部外層 ナゲ 口縁部内層 ナゲ 底部外層 ハケの後ナゲ 底部内層 ハケの後ナゲ	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y6.3 にぶい黃色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元
第29回 99 回数 22 1099 G19QC	赤生土基 （ 21.8 ） （ 3.3 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 2.5Y8.2 淡白色 内 10YR7.2 にぶい黄褐色 断 2.5Y6.2 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元 口縁部内面 種種 斑点状
第29回 100 回数 22 843 G18NY	赤生土基 （ 22.7 ） （ 3.9 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 10YR7.4 にぶい黄褐色 内 7.5Y7.1 淡色 断 7.5Y7.1 淡色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元 口縁部外層 層状紋 円形凹紋
第29回 101 回数 22 833 G19RC	赤生土基 （ 2.6 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 2.5Y8.4 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y6.1 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元 肩部外層 層状紋
第29回 102 回数 — 602 G19SC	赤生土基 （ 8.0 ） （ 1.0 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 7.5Y8.2 淡色 内 7.5Y8.2 淡色 断 10YR7.3 にぶい黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元
第29回 103 回数 — 831 G19TC	赤生土基 （ 13.4 ） （ 3.1 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 5Y8.7.6 淡色 内 5Y8.7.6 淡色 断 7.5Y8.2 淡黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を若干含む 塊 中	反転復元
第29回 104 回数 — 831 G19PC	赤生土基 （ 8.4 ） （ 3.4 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 7.5YR8.4 淡黄褐色 内 10YR8.1 淡褐色 断 10YR7.2 にぶい黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元
第29回 105 回数 — 833 G19RC	赤生土基 （ 14.0 ） （ 5.0 ） —	摩耗のため調整不 ^明	外 10YR7.6 明黄褐色 内 2.5Y7.4 淡黄色 断 2.5Y6.2 淡黄色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元
第29回 106 回数 — 848 G19RC	赤生土基 （ 20.0 ） （ 2.5 ） —	口縁部外層 指さサニ	外 7.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 7.5Y8.2 淡白色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元
第29回 107 回数 — 819 G19OB	赤生土基 （ 17.2 ） （ 2.2 ） —	口縁部外層 ナゲ 内層 摩耗のため調整不 ^明	外 2.5Y7.0 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y7.3 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元 外層 備付着
第29回 108 回数 22 842 G19NA	赤生土基 （ 16.4 ） （ 9.8 ） —	口縁部外層 ナゲ 底部外層 タタキの後ハケ 内層 摩耗のため調整不 ^明	外 10YR7.3 にぶい黄褐色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 10YR7.3 にぶい黄褐色 4.0mm以上の白色砂粒を若干含む 塊 中	反転復元 外層 備付着
第29回 109 回数 23 838 G19QA	赤生土基 （ 7.1 ） （ 3.4 ） —	体部外層 ハラミガケ 底部外層 指さサニ、ナゲ 底部内層 反ナゲ 体部内層 ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 10YR7.2 にぶい黄褐色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の砂粒を若干含む 塊 中	反転復元 裏

登録番号	種類・形状 計測値	成形・調整	色調・粒度・粒度	備考
第30回 110 固版 888 G19R.C	有生土器 裏部 (18.6) (2.1) —	口縁部外面 ナデ、タキ 内面 ナデ	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 10YR8.2 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第30回 111 固版 889 G19Q.B	有生土器 裏部 (18.4) (19.5) —	口縁部外面 ナデ、指オサエ、 体部外面 タキの復数ナデ 口縁部内面 ハケ 体部内面 ハケ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y6.2 淡黄色 断 2.5Y6.2 淡黄色 燒 ——	反転復元
第30回 112 固版 —— 888 G19R.C	有生土器 裏部 (4.5) (5.0) —	体部外面 タキ 内面 磨耗のため調整不明	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y7.3 淡黄色 1.0mm以上の褐色砂粒を含む 燒 中	反転復元 要
第30回 113 固版 —— 819 G19O.B	有生土器 裏部 (2.8) (3.7) —	磨耗のため調整不明	外 10YR7.3 にぶい褐色 内 10YR7.3 にぶい褐色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の淡色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第30回 114 固版 23 888 G19R.C	有生土器 裏部 (3.6) 4.7	磨耗のため調整不明	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 7.5YR7.4 にぶい褐色 断 2.5Y8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 燒 中	一般反転 要
第30回 115 固版 —— 819 G19O.B	有生土器 裏部 (3.9) (4.2) —	磨耗のため調整不明	外 7.5YR7.4 にぶい褐色 内 7.5YR7.3 にぶい褐色 断 10YR7.2 にぶい褐色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 要
第30回 116 固版 811 G19T.C	有生土器 底部 (1.8) (5.2) —	磨耗のため調整不明	外 5YR7.8 褐色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 10YR8.3 淡黄褐色 4.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 底面 丸(直角) 要
第30回 117 固版 888 G19R.C	有生土器 裏部 (1.8) 4.8	磨耗のため調整不明	外 7.5YR6.6 褐色 内 7.5YR7.6 褐色 断 7.5YR6.6 褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第30回 118 固版 888 G19R.C	有生土器 裏部 (3.0) (3.1) —	外面 磨耗のため調整不明 底部内面 ハケ	外 2.5Y8.4 淡黄色 内 2.5Y8.4 淡黄色 断 2.5Y8.4 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第30回 119 固版 831 G19P.C	有生土器 裏部 (2.3) (3.7) —	磨耗のため調整不明	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 7.5Y8.1 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 要
第30回 120 固版 23 831 G19P.C	有生土器 裏部 (2.1) (4.2) —	底部外面 タキ 底部内面 ハケ	外 2.5Y8.3 淡黄色 2.5Y8.3 淡黄色 断 10YR8.3 淡黄褐色 4.0mm以上の白色、黑色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 底板 黑度 要
第30回 121 固版 888 G19R.C	有生土器 裏部 (3.6) (1.8) —	磨耗のため調整不明	外 2.5Y8.4 淡黄色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 要

登録番号 生土地区	器種・器形 計測値	底 形 · 調 整	色 調 · 肥 土 · 種 成	備 考
第30回 122 固形 23 831 G19TC	夯 生 土 器 底 部 — (3.0) (3.8)	体部外面 ハラミガキ 底部内面 ハケの歯覆ナゲ	外 10YR 8.2 淡白色 内 5Y 5.1 淡色 断 10YR 8.2 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 地 中	一部反転 体部 黒頭 裏
第30回 123 固形 — 831 G19PC	夯 生 土 器 底 部 — (2.3) (5.4)	底面 指オサエ 内面 摻拌のため調整不明	外 2.5YR 3 淡黄色 内 2.5YR 2 淡白色 断 2.5YR 3 淡黄色 0.5mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 地 中	反転復元 裏
第30回 124 固形 23 831 G19PC	夯 生 土 器 底 部 — (3.2) (4.4)	底部外面 指オサエ 内面 摻拌のため調整不明	外 5Y 7.1 淡白色 内 5Y 6.1 淡色 断 5Y 6.1 淡色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 地 中	反転復元 裏
第30回 125 固形 23 831 G19OB	夯 生 土 器 底 部 — (4.7) (4.4)	体部外面 枝ナゲ、指オサエ 内面 摻拌のため調整不明	外 2.5YR 2 淡白色 内 10YR 7.3 にぶい・黄褐色 断 5Y 6.1 淡色 4.0mm以上の白色砂粒を多く含む 地 中	反転復元 裏
第30回 126 固形 23 831 G19PC	夯 生 土 器 底 部 — (3.9) (3.6)	底部外面 ナタキ 底部内面 板ナゲ、指オサエ	外 10YR 7.2 にぶい・黄褐色 内 2.5YR 2 淡白色 断 2.5YR 4 にぶい・黄褐色 2.0mm以上の褐色砂粒を若干含む 地 中	一部反転 体部 黑頭 裏
第30回 127 固形 23 831 G19RC	夯 生 土 器 底 部 — (3.2) (3.7)	底部外面 指オサエ 内面 摻拌のため調整不明	外 2.5YR 3 淡黄色 内 5Y 7.4 淡黄色 断 2.5YR 3 淡黄色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を若干含む 地 中	一部反転 裏
第30回 128 固形 — 831 G19PC	夯 生 土 器 底 部 — (1.6) (4.7)	摻拌のため調整不明	外 10YR 7.2 にぶい・黄褐色 内 2.5YR 7 淡黄色 断 7.5YR 7.4 にぶい・褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 地 中	反転復元 裏
第31回 129 固形 22 1099 G19QC	夯 生 土 器 高 爪 (17.0) (4.8) —	摻拌のため調整不明	外 5YR 7.6 棕色 内 10YR 8.3 浅黃褐色 断 10YR 8.3 浅黃褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 地 中	反転復元
第31回 130 固形 — 838 G19RC	夯 生 土 器 高 爪 (25.0) (3.7) —	摻拌のため調整不明	外 2.5YR 2 淡白色 内 2.5YR 2 淡白色 断 5Y 6.1 淡色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を含む 地 中	反転復元
第31回 131 固形 25 819 G19OB	夯 生 土 器 高 爪 (26.8) (7.4) —	摻拌のため調整不明	外 2.5YR 2 淡白色 内 2.5YR 2 淡白色 断 2.5YR 2 淡白色 0.5mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 地 中	一部反転
第31回 132 固形 22 831 G19PC	夯 生 土 器 高 爪 (3.3) —	押部外面 ハラミガキ 内面 摻拌のため調整不明	外 2.5YR 3 淡黄色 内 10YR 8.2 淡白色 断 10YR 8.2 淡白色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を含む 地 中	一部反転
第31回 133 固形 22 802 G19SC	夯 生 土 器 高 爪 (5.3) —	押部外面 ハラミガキ 杯部内面 ハラミガキ 押部内面 継り底	外 10YR 8.3 浅黃褐色 内 10YR 7.2 にぶい・黄褐色 断 2.5YR 2 淡白色 4.0mm以上の白色砂粒を若干含む 地 中	一部反転

787-OR 4 層

登録番号 出土地区	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 質 ・ 燃 成	番 号
第32回 134 岡松 — 1010 G180Y	赤生 土 基 盤 (33.8) (22.5)	口縁部外面 ナゲ 内部 摩耗のため調整不良	外 10YR6-4 に古い黄褐色 内 10YH5-2 深褐色 断 10YR5-2 深黄褐色 2.0mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第33回 135 岡松 26 858 G190B	赤生 土 基 盤 (38.8)	体部外面下半 傘状紋、波状紋 体部外面中位 横方向のヘラミガキ 体部外面下半 横方向のヘラミガキ 体部内部 振オリエ。ナゲ、ハケ	外 5Y8-3 波状色 内 5Y8-3 波状色 断 5Y8-3 波状色 1.0mm大の白色、黑色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第34回 136 岡松 26 859 G190B	赤生 土 基 盤 (31.1) (51.6) 9.6	口縁部 内面 ナゲ 腹部外表面 ナゲの後ナデ 腹部外面下半 ハラケメリ 底面 ハラカツ具によるカキトリ 底部内部 振オリエ。ハケ	外 2.5Y7-2 波状色 内 10YR7-3 に古い黄褐色 断 10YR7-3 に古い黄褐色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	体部外面 傘付着 体部外面 黒斑
第35回 137 岡松 — 851 G190A	赤生 土 基 盤 (19.0) (1.4)	口縁部外面 ナゲ 内部 摩耗のため調整不良	外 2.5Y7-3 波状色 内 2.5Y6-2 波状色 断 2.5Y6-1 波状色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第35回 138 岡松 23 851 G190A	赤生 土 基 盤 (19.2) (5.6)	口縁部外面 ナゲ 内部 摩耗のため調整不良	外 10YR6-2 波状褐色 内 2.5Y7-2 波状色 断 2.5Y7-2 波状色 3.0mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第35回 139 岡松 23 851 G190A	赤生 土 基 盤 (20.0) (3.2)	口縁部外面 ナゲ 腹部外表面 ハケ 内部 摩耗のため調整不良	外 2.5Y7-3 波状色 内 2.5Y7-3 波状色 断 2.5Y7-3 波状色 0.5mm大の白色、黑色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第35回 140 岡松 23 851 G190A	赤生 土 基 盤 (31.8) (6.1)	口縁部外面 ナゲ 腹部外表面 ハケ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7-2 波状色 内 2.5Y7-2 波状色 断 2.5Y7-2 波状色 0.2mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第35回 141 岡松 — 851 G190A	赤生 土 基 盤 (15.4) (5.6)	口縁部外面 ナゲ 腹部外表面 ハケ 口縁部内部 ナゲ 底部内面 ハケ	外 10YR7-2 に古い黄褐色 内 10YR7-2 に古い黄褐色 断 10YR7-2 に古い黄褐色 4.0mm大の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元
第35回 142 岡松 23 803 G190A	赤生 土 基 盤 (12.2) (6.8)	口縁部外面 ハケ 腹部内面 ハケ 口縁部内部 ナゲ	外 10YR7-3 に古い黄褐色 内 10YR7-3 に古い黄褐色 断 10YR7-3 に古い黄褐色 1.0mm大の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元
第35回 143 岡松 26 840 G19NA	赤生 土 基 盤 (12.0) (5.4)	口縁部外面 ハケ 腹部内面 ナゲの後ヘラミガキ 口縁部内部 ハケ 底部内面 ハケ	外 7.5YR6-3 に古い褐色 内 7.5YR6-3 に古い褐色 断 7.5YR6-1 褐色 5.0mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第35回 144 岡松 23 807 G190A	赤生 土 基 盤 (11.2) (6.3)	口縁部外面 ハケ 腹部外表面 ナゲ 腹部外表面 ハケ 口縁部内部 ナゲ 底部内面 ハケ	外 10YR7-3 に古い黄褐色 内 7.5YR7-3 に古い黄褐色 断 7.5YR7-3 に古い黄褐色 0.2mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第35回 145 岡松 23 815 G18NY	赤生 土 基 盤 (12.2) (5.6)	摩耗のため調整不良	外 10YR7-2 に古い黄褐色 内 5YR7-3 に古い褐色 断 7.5Y7-2 明褐色 2.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元

登録番号	種類・番号 出土地区	成形・調整 計測値	色調・黏土・焼成	備考
第3558 146 回版 29 851 G19Q A	弥生土器 要 (15.5) (6.0) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 ハケの先ナデ 口縁部内面 ナデ 底部内面 ハケナデ	外 10YR7.2 内 10YR6.3 断 10YR6.2 3.0mmの白色砂粒を若干含む 燒 中	
第3559 147 回版 26 851 G19Q A	弥生土器 要 (12.6) (14.2) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 ハケナデ 口縁部内面 ハケ 底部内面上手 強オサニ 底部内面下手 ハケ	外 2.5Y7.2 内 2.5Y8.2 断 2.5Y8.2 1.0mmの白色、黒色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転
第3600 148 回版 29 846 G19Q N Y	弥生土器 要 (8.2) (7.2) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 ハケ 底部内面 ハケ 底部内面 ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR6.2 内 2.5Y5.1 断 10YR6.2 0.2mmの白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 底部 黒斑
第3601 149 回版 — 852 G19Q A	弥生土器 要 (10.6) (7.6) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 ハケ 口縁部内面 ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR7.3 内 10YR7.3 断 10YR7.3 0.5mmの白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 内面 も：直模
第3602 150 回版 23 846 G19Q A	弥生土器 要 (16.0) (7.1) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 厚拭のため調整不明 口縁部内面 ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR5.3 内 10YR5.3 断 7.5YR5.3 0.5mmの白色、黒色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第3603 151 回版 23 853 G19Q A	弥生土器 要 (16.8) (8.2) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 振付ナデ 底部内面 ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR6.2 内 10YR6.2 断 10YR6.2 2.0mmの白色砂粒を若干含む 燒 硬	反転復元 外側 頃付着
第3604 152 回版 — 853 G19Q A	弥生土器 要 (19.0) (3.8) —	口縁部外面 ナデの後ハケ 内面 厚拭のため調整不明	外 7.5YR7.3 内 7.5YR7.4 断 7.5YR7.3 2.0mmの白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第3605 153 回版 37 853 G19Q A	弥生土器 要 (5.0) —	体部外面 ハケ 体部内面 ハケ、強オサニ	外 2.5Y6.0 内 10YR7.2 断 10YR7.2 5.0mmの黒色砂粒を含む 燒 中	記号板
第3606 154 回版 — 853 G19Q A	弥生土器 要 (5.4) 4.9	底部外面 強オサニ 体部内面 ハケ	外 10YR7.3 内 10YR7.2 断 5Y8.1 0.5mmの白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 底体部外面 黒斑 要
第3607 155 回版 21 853 G19Q A	弥生土器 要 (5.0) 4.5	体部外面 タタキ 底部内面 ハケ 底部内面 ハケ	外 10YR7.3 内 5YR6.8 断 7.5YR6.3 1.0mmの白色、黒色砂粒を若干含む 燒 硬	一部反転 要
第3608 156 回版 — 853 G19Q A	弥生土器 要 (4.1) (4.6) —	体部外面 タタキ 底部内面 ナデ 体部内面 ハケ 底部内面 ハケ	外 10YR7.2 内 2.5Y7.2 断 5YR6.6 0.2mmの白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 要
第3609 157 回版 — 857 G19Q B	弥生土器 底 (1.9) 6.3	底部外面 強オサニ 内面 厚拭のため調整不明	外 7.5YR7.3 内 10YR7.4 断 10YR7.4 1.0mmの白色砂粒を多く含む 燒 中	要

登録番号 出土地点	基準・基形 計測値	成 形 · 調 整	色 調 · 地 土 · 燃 料	備 考
第36回 158 因版 —— 806 G190A (3.6) 3.3	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (3.6) 3.3	底部外壁 抗オサエ 底部内壁 板ナデ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y7.3 浅黄色 断 2.5Y7.3 浅黄色 0.2mm以上の白色、黑色砂粒を多く含む 度 中	
第36回 159 因版 —— 800 G190A (1.5) 4.4	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (1.5) 4.4	摩擦のため調整不良	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 10YR7.3 に近い黄褐色 断 10YR7.3 に近い黄褐色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を若干含む 度 中	
第36回 160 因版 —— 841 G18MX (4.6) 3.6	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (4.6) 3.6	底体部外壁 タタキの板ナデ 底体部内壁 ハケ	外 2.5YR7.6 暗色 内 5YR7.4 に近い暗色 断 7.5YB8.3 深黃褐色 5.0mm以上の白色砂粒を若干含む 度 中	要
第36回 161 因版 24 840 G19NA (2.6) 5.4	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (2.6) 5.4	底体部外壁 タタキ 底体部内壁 ナデ 底部内壁 ハケ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y5.2 淡黃褐色 断 3.5Y5.1 黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元 要
第36回 162 因版 —— 897 G190A (4.4) 4.0	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (4.4) 4.0	底部外壁 ナデ 底部内壁 板ナデ	外 10YR7.2 に近い黄褐色 内 10YR7.3 に近い黄褐色 断 10YR7.2 に近い黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	要
第36回 163 因版 —— 805 G190A (5.7) 5.0	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (5.7) 5.0	体部外壁 板ナデ 底部外壁 抗オサエ 底体部内壁 抗オサエ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 度 中	一部反転 外面 塵付着 内面 腐化物付着 要
第36回 164 因版 24 803 G190A (3.7) 3.6	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (3.7) 3.6	体部外壁 タタキ 体部内壁 ハケ	外 10YR6.2 深黃褐色 内 10YR6.3 に近い黄褐色 断 5Y5.1 暗色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	一部反転 要
第37回 165 因版 24 861 G190A (4.1) 7.1	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (4.1) 7.1	体部外壁 板ナデ 底部外壁 抗オサエ 底面 カキトリ 体部内壁 ハケ 底部内壁 板ナデ	外 10YR7.3 に近い黄褐色 内 10YR8.3 深黃褐色 断 10YR8.3 に近い黄褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	要
第37回 166 因版 24 846 G18NY (5.1) 4.2	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (5.1) 4.2	底部外壁 ナデ 底体部内壁 板ナデ、ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	要
第37回 167 因版 24 818 G190A (5.4) 4.4	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (5.4) 4.4	底体部外壁 タタキ、ナデ 底面 カキトリ 底部内壁 抗オサエ 体部内壁 板ナデ	外 10YR8.2 深黃褐色 内 10YR7.2 に近い黄褐色 断 10YR8.2 深黃褐色 0.2mm以上の白色、黑色砂粒を多く含む 度 中	要
第37回 168 因版 24 803 G190A (3.3) (4.2)	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (3.3) (4.2)	底部外壁 抗オサエ 体部外壁 タタキ 底体部内壁 板ナデ 底部内壁 ナデ	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 0.2mm以上の白色、黑色砂粒を含む 度 中	反転復元 要
第37回 169 因版 —— 823 G190A (2.6) 4.4	壳生土基 底部 内壁 板ナデ (2.6) 4.4	底部外壁 タタキ 底面 カキトリ 底部内壁 板ナデ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y6.2 淡黄色 断 7.5YR6.6 暗色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	要

登録番号	器種・基形 計測値	成形・調整	色調・釉土・焼成	備考
第37回 170 固版 —— 897 G190 A	陶生土器 底部 — (2.6) 4.9	底部外面 指オサエ 底部内面 板ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR7.8 に赤・黄褐色 内 10YR7.2 に赤・黄褐色 断 10YR7.3 に赤・黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部加熱 底体部 黑斑 体部 記号付 裏
第37回 171 固版 —— 818 G190 A	陶生土器 底部 — (3.2) (3.6)	底部外面 指オサエ 底部内面 庫純のため調整不明	外 5YR7.4 に赤・褐色 内 10YR7.5 に赤・褐色 断 10YR7.4 に赤・黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 体部 黑斑 裏
第37回 172 固版 —— 851 G190 A	陶生土器 底部 — (6.8) 4.7	底部外面 摩耗のため調整不良 底部外面 指オサエ 底、体部内面 板ナデ 底部 ハオサエ	外 2.5YR8.2 淡白色 内 2.5YR8.2 淡白色 断 2.5YR8.2 淡白色 0.2mm以上の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	裏
第37回 173 固版 24 818 G190 A	陶生土器 底部 — (6.3) (6.6)	体部外面 ハケ 底、体部内面 板ナデ	外 7.5YR6.3 に赤・褐色 内 10YR7.3 に赤・黄褐色 断 7.5YR6.2 淡褐色 1.0mm以上の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	反転復元 底面凹部 砂付帯 裏
第37回 174 固版 —— 816 G190 A	陶生土器 底部 — (3.2) (6.0)	体部外面 ハオサエ 底部外面 指オサエ 内面 庫純のため調整不良	外 2.5YR7.3 淡黄色 内 5YR3.2 淡黄色 断 5YR1.1 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 底体部 黑斑 裏
第37回 175 固版 24 867 G190 A	陶生土器 底部 — (3.6) 5.0	底部外面 指オサエ 底部 ハオサエ 底部内面 板ナデ	外 10YR3.2 黑褐色 内 10YR3.2 黑褐色 断 10YR3.2 黑褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	裏
第37回 176 固版 —— 855 G18NY	陶生土器 底部 — (4.5) (6.6)	体部外面 板ナデ 底部外面 指オサエ 底部内面 ナデ	外 10YR7.3 に赤・黄褐色 内 10YR7.3 に赤・黄褐色 断 10YR7.3 に赤・黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 裏
第37回 177 固版 24 891 G190 A	陶生土器 底部 — (4.6) 4.2	体部外面 ナデ 底部外面 指オサエ 底部内面 ナデ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	外側 織竹着
第37回 178 固版 24 897 G190 A	陶生土器 底部 — (4.0) 5.0	体部外面 ナデ 底部外面 指オサエ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 10YR7.2 に赤・黄褐色 断 7.5YR7.6 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	外側 織竹着
第37回 179 固版 24 841 G18MX	陶生土器 底部 — (3.0) 4.0	底部外面 指オサエ 底部 ハオサエ 底部内面 ナデ	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 2.5Y8.2 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	
第37回 180 固版 —— 851 G190 A	陶生土器 底部 — (3.7) 3.1	体部外面 ハケ 体部内面 ナデ 底部内面 指オサエ	外 10YR6.2 淡黄褐色 内 10YR5.2 淡黄褐色 断 10YR6.2 淡黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第37回 181 固版 —— 1108 G18MY	陶生土器 底部 — (1.4) 3.7	庫純のため調整不良	外 2.5YR6.6 棕色 内 2.5YR7.1 赤褐色 断 2.5YR6.6 棕色 3.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	

登録番号	種類・群形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 上 ・ 焼 成	備 考
第37回 182 固版 803 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (1.9) 3.2	脚部外面 ナデ 底面 ナデ 底部内面 ヘラミガキ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y5.1 淡黄色 断 2.5Y6.2 淡黄色 0.2mmの大白色砂粒を含む 燒 中	
第37回 183 固版 27 851 G190 A	有 生 土 箔 脚 伸 — (5.1) 7.8	脚部外面 ナデ 脚部内面 板ナデ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 0.2mmの大白色砂粒を含む 燒 中	要
第37回 184 固版 — 807 G19Q B	有 生 土 箔 高 杯 — (8.5)	脚部外面 ハケ 脚部内面 縦り痕	外 10YR8.3 淡褐色 内 8YR6.6 綠色 断 7.5YR7.6 綠色 1.0mmの大白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 脚部 黄緑 三方スカシ
第37回 185 固版 24 851 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (4.5)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 縦り痕	外 10YR7.3 に赤い黄緑色 内 10YR7.3 に赤い黄緑色 断 2.5Y8.3 淡黄色 0.5mmの大白色砂粒を多く含む 燒 中	
第37回 186 固版 28 897 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (1.0)	外面 摩耗のため調整不良 脚部内面 カットリ	外 10YR8.3 淡黄色 内 10YR7.4 に赤い黄緑色 断 8YR6.6 綠色 0.5mmの大白色砂粒を多く含む 燒 中	
第38回 187 固版 — 846 G18N Y	有 生 土 箔 高 杯 (10.4) (6.5)	口縁部外面 ナデ 脚部外面 縱力向のヘラミガキ 口縫部内面 ナデ 杯底内面 ハケの底ヘラミガキ	外 10YR7.2 に赤い黄緑色 内 10YR6.2 淡黄色 断 10YR7.2 に赤い黄緑色 0.5mmの大白色砂粒を若干含む 燒 硬	反転復元
第38回 188 固版 27 825, 841 G190 A, G18MX	有 生 土 箔 高 杯 — (7.9) (17.0)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ハケ	外 2.5YT.3 淡黄色 内 10YR7.2 に赤い黄緑色 断 10YR7.2 に赤い黄緑色 2.0mmの大白色砂粒を若干含む 燒 中	一部反転 外面 藍青着 西方スカシ
第38回 189 固版 24 851 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (2.0) (20.0)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 キザミ 脚部内面 ナデ	外 10YR7.2 に赤い黄緑色 内 10YR7.3 に赤い黄緑色 断 10YR7.3 に赤い黄緑色 0.2mmの大白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第38回 190 固版 24 846 G18N Y	有 生 土 箔 高 杯 — (6.4)	脚部外面 ハケの底ヘラミガキ 脚部外面 縱力向のヘラミガキ 杯底内面 ヘラミガキ 脚部内面 ナデ	外 10YR7.2 に赤い黄緑色 内 10YR5.1 綠色 断 10YR5.1 綠色 0.5mmの大砂粒を多く含む 燒 中	一部反転
第38回 191 固版 24 851 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (8.9)	脚部外面 ハケ 脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ヘラミガキ 脚部内面 ハケの底設り痕	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y6.2 淡黄色 断 2.5Y7.1 白色 2.0mmの大白色、黑色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 四方以上のスカシ
第38回 192 固版 21 863 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (7.7)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 縦り痕	外 2.5YT.3 淡黄色 内 2.5YT.3 淡黄色 断 2.5YT.3 淡黄色 0.5mmの大白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 上輪二方スカシ 下輪四方スカシ
第38回 193 固版 24 863 G190 A	有 生 土 箔 高 杯 — (5.7)	脚部外面 ハケ、頭オサエ 脚部内面 縦り痕、ナデ	外 2.5YT.2 淡黄色 内 10YR7.2 に赤い黄緑色 断 8YR4.1 綠灰色 0.5mmの大白色、黑色砂粒を含む 燒 中	

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第36回 194 285 G190 A	弥 生 土 器 高 杯 (6.0)	杯外部 ハラミガケ 底部外面 車輪のため調整不明 底部内部 車輪のため調整不可 底部内面 織り痕	外 10YR7.3 内 2.5Y8.3 断 10YR5.1 0.5mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	一部復元
第38回 195 285 G190 A	弥 生 土 器 高 台 (25.4) (2.5)	口縁部外面 ナデ 底部外面 ハケ 口縁部内面 ナデ 底部内面 ナデ	外 2.5Y8.2 内 2.5Y8.2 断 2.5Y8.3 1.0mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 凹縁柱+円形浮紋+外管 紋

787—OR東肩4層

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第39回 196 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (17.9) (6.4)	車輪のため調整不明	外 10YR8.3 内 10YR8.4 断 2.5Y8.2 3.0mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 凸縁柱
第39回 197 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (4.9)	車輪のため調整不明	外 10YR7.8 内 10YR7.6 断 2.5Y8.3 0.2mm大の灰色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第39回 198 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (5.0)	脚部外面 車輪のため調整不明 脚部内面 織り痕	外 7.5YR7.6 内 7.5YR7.6 断 7.5YR7.6 1.0mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	一部復元
第39回 199 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (2.0) (15.0)	車輪のため調整不明	外 2.5Y8.3 内 2.5Y8.2 断 2.5Y8.2 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第39回 200 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (1.8) (4.0)	車輪のため調整不明	外 2.5YR6.8 内 10YR7.3 断 10YR7.4 3.0mm大の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第39回 201 286 G190 B	弥 生 土 器 高 台 (2.4) 5.6	底部外面 指ササニ 底部内面 指ササニ	外 10YR7.2 内 10YR6.1 断 10YR6.3 5.0mm大の褐色砂粒を若干含む 燒 中	

787—OR5、6層

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第40回 202 287 G190 A	弥 生 土 器 高 台 (19.0) (3.7)	脚部外面 脚方向のハケ 口縁部内面 ナデ	外 N2.0 内 10YR7.3 断 10YR7.3 0.2mm大の白色砂粒を含む 燒 硬	反転復元 外側 腹材
第40回 203 288 G190 A	弥 生 土 器 高 台 (12.6) (1.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 2.5YR6.4 内 10YR6.6 断 7.5YR7.1 0.2mm大の白色砂粒を含む 燒 硬	反転復元 内外面 赤色顔料塗布

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 土 ・ 烧 成	備 考
第402 204 因版 —— 1059 G190 A	秀 生 土 器 底 部 (3.0) 5.5	体部外側 ナデ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	便
第402 205 因版 —— 1060 G18	秀 生 土 器 底 部 (1.6) (5.2)	摩耗のため調整不明	外 10YR1.3 淡青褐色 内 2.5Y6.2 淡黄色 断 2.5Y7.9 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第402 206 因版 —— 1059 G190 A	秀 生 土 器 底 部 (3.2) (5.6)	体部外側 ハケの後板ナデ 底部外側 ナデ 内面 ハケの後板ナデ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 4.0mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 底部 黑洞 便
第402 207 因版 —— 1052 G190 A	秀 生 土 器 底 部 (4.6) (9.0)	外面 板ナデ 内面 ハケの後板ナデ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.1 淡白色 断 5Y5.1 淡色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 便
第402 208 因版 —— 1045 G19	秀 生 土 器 底 部 (4.0) 12.2	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.2 淡白色 断 2.5Y8.2 淡白色 4.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 燒 中	便
第402 209 因版 —— 1060 G18	秀 生 土 器 高 口 (2.9) (13.8)	脚部外側 縦方向のハケ 脚部内面 ナデ	外 7.5YR6.3 にぶい褐色 内 7.5YR6.3 にぶい褐色 断 7.5YR6.3 にぶい褐色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 便	反転復元 内面 備付書

787-OR上器群3

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 土 ・ 烧 成	備 考
第41区 210 因版 27 1006 G18MY	秀 生 土 器 腰 (17.0) (7.5)	口縁部外側 ナデ 体部外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y8.2 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第41区 211 因版 27 1006 G18MY	秀 生 土 器 腰 (11.6) 11.0 4.5	口縁部外側 ナデ 体部外側 タタキ 底部外側 磨オサニ 体部内面 ナデ	外 2.5Y8.2 淡白色 内 2.5Y8.1 黄褐色 断 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部復元
第41区 212 因版 27 1106 G18MY	秀 生 土 器 腰 11.2 7.0 (5.6)	脚部外側 ハラミガキ 内面 摩耗のため調整不明	外 7.5Y8.2 淡白色 内 7.5Y8.2 淡白色 断 2.5Y7.3 淡黄色 0.5mm以上の白色、灰色砂粒を含む 燒 中	一部復元

787-OR土器群6

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 土 ・ 烧 成	備 考
第40区 213 因版 29 853 G190 A	秀 生 土 器 (15.8) (7.7)	脚部外側 ナデの後ラミゼル 内面 摩耗のため調整不明	外 7.5YR6.4 にぶい褐色 内 7.5YR6.4 にぶい褐色 断 7.5YR6.4 にぶい褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元

登録番号 生土地区	面積・面形 計測値	成形・調整	色調・植土・施肥	備考
第43回 214 田畠 — 851 G190 A	弥生土 墓 — 〔 2.5 〕	口縁部外側 ナデ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y6 2 淡黄色 内 2.5Y6 3 淡黄色 断 2.5Y6 1 黄灰色 0.2m大の白色砂粒を含む 燒 中	
第43回 215 田畠 — 860 G190 A	弥生土 墓 — 〔 6.0 〕	摩耗のため調整不明	外 2.5Y6 2 淡白色 内 2.5Y6 3 淡黄色 断 2.5Y6 2 淡白色 0.5m大の白色、褐色砂粒を多く含む 燒 中	
第43回 216 田畠 28 863 G190 A	弥生土 墓 — 〔 3.6 〕	表面外側 薄朱紅 質部外側 浅灰紅 体部外側 ハキの後ヘラミガキ 質部外側 浅灰紅 体部内面 焼オサエ	外 2.5Y6 2 淡黄色 内 2.5Y6 2 淡黄色 断 2.5Y6 2 淡黄色 0.5m大の砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 外壁 槌打面
第43回 217 田畠 — 865 G190 A	弥生土 墓 〔 12.4 〕 〔 3.9 〕	体部外側 ダタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 5.7YR7 4 に5.5Y-褐色 内 7.5YR8 3 淡黄褐色 断 10YR8 3 淡黄褐色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第43回 218 田畠 — 867 G190 A	弥生土 墓 〔 15.9 〕 〔 2.3 〕	口縁部外側 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 5.7YR7 4 に5.5Y-褐色 内 10YR8 3 淡黄褐色 断 7.5YR 3 褐色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第43回 219 田畠 — 890 G190 A	弥生土 墓 〔 16.0 〕 〔 2.1 〕	口縁部外側 ナデ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR5 2 底黃褐色 内 10YR6 2 底黃褐色 断 5Y8 3 底白色 0.5m大の白色、黑色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第43回 220 田畠 26 886 G190 A	弥生土 墓 〔 16.5 〕 〔 7.1 〕	口縁部外側 ナデ 体部外側 ダタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y6 2 淡黄色 内 2.5Y6 2 淡黄色 断 2.5Y6 2 淡黄色 1.0m大の白色、褐色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転
第43回 221 田畠 26 887 G190 A	弥生土 墓 〔 17.7 〕 3.5	口縁部外側 ナデ 体部外側 ダタキ 体部外側 焼オサエ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y7 2 淡黄色 内 2.5Y7 2 淡黄色 断 2.5Y7 2 淡黄色 2.0m大の砂粒を含む 燒 中	
第43回 222 田畠 — 888 G190 A	弥生土 墓 〔 2.0 〕 2.9	表面 摩耗のため調整不明 質部内面 焼ナデ	外 7.5YR7 4 に5.5Y-褐色 内 7.5YR8 2 底白色 断 7.5YR8 2 底白色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 燒 中	底部穿孔 鉢
第43回 223 田畠 — 891 G190 A	弥生土 墓 高杯 〔 5.1 〕	外側 摩耗のため調整不明 質部内面 細り模	外 7.5YR7 3 に5.5Y-褐色 内 7.5YH7 3 に5.5Y-褐色 断 7.5YR7 3 に5.5Y-褐色 3.0m大の白色、黑色砂粒を含む 燒 中	
第43回 224 田畠 28 894 G190 A	弥生土 墓 高杯 〔 8.0 〕 10.8	質部外側 ヘラミガキ 質部内面 細り模	外 2.5Y7 3 淡黄色 内 2.5Y7 3 淡黄色 断 2.5Y6 1 黄灰色 2.0m大の白色、褐色砂粒を含む 燒 中	一部反転
第43回 225 田畠 28 895 G190 A	弥生土 墓 高杯 〔 10.6 〕 15.1 15.4	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8 3 淡黄色 内 2.5Y8 3 淡黄色 断 2.5Y8 3 淡黄色 0.2m大の白色、褐色砂粒を含む 燒 中	口縁部 黒度 一部反転

787-OR層位不明

草群番号 底土地区	基種・葉形 計測値	成形・調整	色調・底土・底成	備考
第44区 225 固版 — 1145 G19	赤生土基 葉 (17.8) (5.2) —	口縁部外側、内面 ナデ 根部外側 ハクミガキ	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 10YR7.3 に赤い黄褐色 断 10YR8.3 に赤い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬	反転復元 表面 塗付着 外側 塗付着
第44区 227 固版 — 1172 —	赤生土基 葉 (16.2) (5.5) —	口縁部外側 ナデ 根部外側 ハクミガキ 口縫部内側 ナデ 根部内側 ハクミガキ	外 5 Y7.2 淡白色 内 2.5 Y7.2 淡黄色 断 5 Y8.1 灰色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	反転復元
第44区 228 固版 — 867 G19/A	赤生土基 葉 (14.6) (2.3) —	口縫部外側 ナデ、暗オリエ 口縫部内側 ナデ	外 2.5 Y8.3 淡黄色 内 2.5 Y8.3 淡黄色 断 2.5 Y8.3 淡黄色 4.0mm以上の白色、淡色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元 表面 塗付着
第44区 229 固版 — 1106 G18MY	赤生土基 葉 (12.8) (7.4) —	口縫部内側 ナデ 体部外側 タケキ 体部内側 袋ナデ	外 2.5 Y8.3 淡黄色 内 2.5 Y8.3 淡黄色 断 2.5 Y8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色、淡色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元
第44区 230 固版 — 864 G19	赤生土基 葉 (3.4) (6.2) —	体部外側 タケキの後脱ナデ 体部内側 ハクミガキ	外 2.5 Y7.3 淡黄色 内 5 Y7.1 淡白色 断 5 Y6.2 淡オリーブ色 0.5mm以上の砂粒を含む 硬	反転復元 葉
第44区 231 固版 — 891 G19	赤生土基 葉 (2.5) 1.6 —	底部外側 油オサエ 内面 摩耗のため調整不規	外 2.5 Y7.2 淡黄色 内 2.5 Y7.3 淡黄色 断 5 YR6.6 灰色 0.5mm以上の黒色砂粒を多く含む 硬	一部反転 葉
第44区 232 固版 — 1172	赤生土基 葉 (23.4) (3.8) —	口縫部外側 ナデ 根部外側 ハクミガキ 口縫部内側 ハクミガキ 根部内側 ハクミガキ	外 10YR7.3 に赤い黄褐色 内 10YR7.2 に赤い黄褐色 断 10YR7.3 に赤い黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 硬	反転復元

787-OR東肩層位不明

草群番号 底土地区	基種・葉形 計測値	成形・調整	色調・底土・底成	備考
第45区 233 固版 — 1034 G19	赤生土基 葉 (19.7) (4.5) —	摩耗のため調整不規	外 7.5 YR8.3 淡黄褐色 内 10YR7.4 に赤い黄褐色 断 10YR7.1 灰白色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元
第45区 234 固版 — 1034 G19	赤生土基 葉 (3.5) 5.4 —	体部外側 タケキ 内面 摩耗のため調整不規	外 2.5 Y8.3 淡黄色 内 2.5 Y7.6 灰色 断 10YR8.4 淡黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	表面 黄褐 葉
第45区 235 固版 — 1034 G19	赤生土基 葉 (2.6) 5.4 —	摩耗のため調整不規	外 7.5 YR2.1 黑色 内 2.5 Y7.6 灰色 断 10YR7.3 に赤い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	外側 塗付着
第45区 236 固版 — 1034 G19	赤生土基 葉 (3.0) 3.9 —	摩耗のため調整不規	外 10YR7.4 に赤い黄褐色 内 5 YR7.4 棕色 断 7.5 YR7.6 灰色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	

登録番号 出土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 粒 ・ 構 成	備 考
第45回 237 因版 —— I034 G19	赤 生 土 基 底 部 — — (2.6) 3.5	裏面 外面 ナオサニ 内面 塗料のため調整不明	外 2.5YR 8/3 淡黄色 内 2.5YR 8/4 淡黄色 断 2.5YR 8/3 淡黄色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 底 中	一部反転
第45回 238 因版 —— I034 G19	赤 生 土 基 高 部 — — (6.3) —	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 縦り底	外 5 YR 6/4 に近い褐色 内 10Y R 7/4 に近い黄褐色 断 10Y R 4/1 褐灰色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	

877—OR1層

登録番号 出土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 粒 ・ 構 成	備 考
第51回 246 因版 —— I062 G21FO	赤 生 土 基 底 部 — (15.0) — (5.0) —	摩耗のため調整不明	外 2.5YR 8/3 淡黄色 内 2.5YR 8/3 淡黄色 断 2.5YR 8/3 淡黄色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 底 中	反転復元
第51回 247 因版 —— I071 G24	赤 生 土 基 底 部 — (18.5) — (3.2) —	摩耗のため調整不明	外 2.5YR 8/3 淡黄色 内 2.5YR 8/3 淡黄色 断 2.5YR 8/3 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元
第51回 248 因版 —— I062 G24CO	赤 生 土 基 底 部 — (15.0) — (2.6) —	口縁部外面 ナゲ 口縁部内面 ナゲ	外 10Y R 6/3 淡黃褐色 内 10Y R 6/3 淡黃褐色 断 10Y R 6/3 淡黃褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元
第51回 249 因版 —— I062 G24CO	赤 生 土 基 底 部 — (15.6) — (1.2) —	摩耗のため調整不明	外 7.5Y R 7/4 明褐色 内 7.5Y R 7/3 にG1-褐色 断 7.5Y R 7/3 にG1-褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元 背面 槌付着
第51回 250 因版 29 I066 G21FP	赤 生 土 基 底 部 — (19.2) — (3.2) —	口縁部外面 ナゲ 内面 塗料のため調整不明	外 10Y R 7/4 に近い黃褐色 内 2.5YR 8/3 淡黃褐色 断 2.5YR 8/3 淡黃褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元
第51回 251 因版 —— I066 G21FP	赤 生 土 基 底 部 — (16.4) — (1.8) —	外面 塗料のため調整不明 口縁部内面 ナゲ	外 10Y R 7/4 に近い黃褐色 内 10Y R 7/3 に近い黃褐色 断 10Y R 7/4 に近い黃褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元
第51回 252 因版 29 I067 G21FO	赤 生 土 基 底 部 — (16.4) — (3.7) —	口縁部外面 ハケの剥ナゲ 背面 外面 ナゲ 口縁部内面 ナゲ	外 5 YR 8/4 淡褐色 内 5 YR 8/4 淡褐色 断 5 YR 8/4 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元 背面 槌付着
第51回 253 因版 30 I066 G24	赤 生 土 基 底 部 — (7.2) — 5.1 2.4	外面 摩耗のため調整不明 口縁部内面 ナゲ 各部内面 ハケ	外 2.5YR 8/3 淡黄色 内 10Y R 7/3 に近い黃褐色 断 2.5YR 8/3 淡黄色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	一部反転
第51回 254 因版 29 I066 G21FP	赤 生 土 基 底 部 — (4.2) — (4.0)	各部外面 ナタケ 底部内面 剥ナゲ	外 10Y R 7/2 に近い黃褐色 内 10Y R 6/2 淡黃褐色 断 5 Y/1 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	一部反転 裏

登録番号 出土地区	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 肥 土 ・ 使 用	備 考
第51回 255 因版 29 866 G24P?	秀生土 基 底 砂 底 砂 (2.8) (1.1)	外壁 タタキ 底部内面 板ナデ	外 2.5YR 2 底白色 内 2.5YR 3 淡黄色 断 2.5YR 1 底白色 0.2mm以上の灰色砂粒を若干含む 底 中	便
第51回 256 因版 29 866 G24P?	秀生土 基 底 砂 底 砂 (3.9) (5.0)	外壁 壁紙のため調整不明 底部内面 板ナデ	外 2.5YR 2 底白色 内 2.5YR 3 淡黄色 断 2.5YR 2 底白色 0.2mm以上の灰色砂粒を多く含む 底 中	反転復元 便
第51回 257 因版 29 862 G24C0	秀生土 基 底 砂 底 砂 (2.0) (3.5)	壁紙のため調整不明	外 5 YR 2 底白色 内 10YR 4.1 暗灰色 断 10YR 4.1 暗灰色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	便
第51回 258 因版 29 862 G24C0	秀生土 基 底 砂 底 砂 (3.3) (4.2)	外壁 タタキの底板ナデ 内面 壁紙のため調整不明	外 2.5YR 3 淡黄色 内 2.5YR 3 淡黄色 断 2.5YR 2 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	便
第51回 259 因版 29 1017 G24EN	秀生土 基 底 砂 底 砂 (4.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 2.5YR 2 底白色 内 10YR 2.1 にぶい褐色 断 10YR 0.1 暗灰色 4.0mm以上の白色砂粒を若干含む 底 中	
第51回 260 因版 29 1017 G24EN	秀生土 基 底 砂 底 砂 (5.3)	腰部外面 ヘラミガキ 腰部内面 細り模	外 10YR 8.3 淡黃褐色 内 7.5YR 1.6 橙色 断 10YR 8.3 淡黃褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 底 中	一部反転 二方スカラ
第51回 261 因版 29 867 G24FO	秀生土 基 底 砂 (5.0)	腰部外面 タタキ 腰部内面 板ナデ	外 2.5YR 7.2 底黄色 内 10YR 7.2 にぶい黃褐色 断 10YR 7.2 にぶい黃褐色 0.5mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 底 中	一部反転
第51回 262 因版 29 866 G24P?	秀生土 基 底 砂 (4.4)	壁紙のため調整不明	外 2.5YR 7.3 淡黄色 内 2.5YR 4 淡黄色 断 2.5YR 4 淡黄色 0.5mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 底 中	

877-OR1・2層

登録番号 出土地名	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 肥 土 ・ 使 用	備 考
第52回 263 因版 —— 876 G24	秀生土 基 重 (11.8) (1.6)	壁紙のため調整不明	外 2.5YR 7.3 淡黄色 内 10YR 7.2 にぶい黃褐色 断 2.5YR 7.3 淡黄色 0.5mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 底 中	反転復元
第52回 264 因版 —— 876 G24	秀生土 基 (12.0) (2.7)	壁紙のため調整不明	外 2.5YR 2 底白色 内 2.5YR 2 底白色 断 2.5YR 2 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反転復元
第52回 265 因版 29 876 G24	秀生土 基 重 (14.2) (5.0)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 壁紙のため調整不明	外 10YR 6.2 底黄褐色 内 2.5YR 5.2 明赤褐色 断 2.5YR 5.8 明赤褐色 4.0mm以上の砂粒を多く含む 底 中	反転復元

登録番号	部屋・部形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 加 工 ・ 残 痕	備 考
第52回 266 調査 26 876 G21	井 生 土 器 裏 (11.0) (2.1)	摩耗のため調整不明	外 2.5YR8.3 淡黄色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	反射復元
第52回 267 調査 26 876 G24	井 生 土 器 裏 (16.1) (2.7)	口縁部外側 ナデ 底部内面 ハケ	外 10YR6.2 淡黄褐色 内 2.5YR7.2 淡黄色 断 7.5YR6.3 (2.5) 植色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 痕	反射復元
第52回 268 調査 26 879 G21P.P.	井 生 土 器 裏 (15.8) (2.5)	口縁部外側 横方向のハケの後ナデ 口縁部内面 摩耗のため調整不明	外 5.5YR6.4 にぶい緑色 内 2.5YR6.6 植色 断 2.5YR7.1 淡黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 痕	反射復元
第52回 269 調査 26 876 G24	井 生 土 器 裏 (17.6) (3.2)	口縁部外側 ナデ 摩耗のため調整不明	外 5.5YR7.3 にぶい緑色 内 7.5YR6.3 にぶい褐色 断 5.5YR7.4 にぶい緑色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 痕	反射復元
第52回 270 調査 26 876 G21	井 生 土 器 裏 (2.9) (10.0)	摩耗のため調整不明	外 7.5YR8.3 淡黄褐色 内 7.5YR7.4 にぶい緑色 断 7.5YR6.3 にぶい褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	反射復元 裏
第52回 271 調査 26 876 G24	井 生 土 器 底 部 (2.3) (1.6)	体部外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 7.5YR7.3 にぶい緑色 内 10YR8.2 淡黄色 断 10YR7.1 淡白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	反射復元 裏
第52回 272 調査 26 876 G24	井 生 土 器 底 部 (4.2) (3.9)	体部外側 タタキ 体部内面 板ナデ	外 10YR8.3 淡黄褐色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 10YR7.1 淡白色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	体部 黒斑 裏
第52回 273 調査 26 877 G24	井 生 土 器 底 部 (2.7) (3.9)	体部外側 摩耗のため調整不順 底部内面 ハケ	外 10YR7.3 にぶい黄褐色 内 10YR7.3 にぶい黄褐色 断 10YR6.1 淡褐色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 痕 中	裏
第52回 274 調査 26 875 G24	井 生 土 器 底 部 (3.1) (3.4)	体部外側 タタキ 底部内面 ハケ	外 7.5YR7.3 にぶい緑色 内 10YR4.1 植色 断 10YR6.2 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	裏
第52回 275 調査 26 876 G24	井 生 土 器 底 部 (3.0) (3.5)	摩耗のため調整不順	外 5 YR7.6 植色 内 5 YR7.4 にぶい緑色 断 7.5YR7.1 明褐色 2.0mm以上の砂粒を含む 痕 中	
第52回 276 調査 26 876 G24	井 生 土 器 底 部 (2.5) (2.9)	体部外側 タタキ 体部内面 板ナデ	外 7.5YR7.3 にぶい緑色 内 10YR8.2 淡白色 断 10YR8.2 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 痕 中	一部反射 体部 黑斑 裏
第52回 277 調査 26 876 G24	井 生 土 器 底 部 (5.2)	摩耗のため調整不明	外 7.5YR8.4 淡黄褐色 内 10YR8.4 淡黄褐色 断 10YR8.4 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 痕	一部反射

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 砂 土 ・ 燃 成	備 考
第52回 278 岡原 — 876 G24	外 生 土 器 高 杯 (4.0) —	脚部外面 厚耗のため調整不明 脚部内面 糙り感	外 10Y R7.2 に近い黄褐色 内 10Y R7.2 に近い黄褐色 断 10Y R7.2 に近い黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 感	反転復元
第52回 279 岡原 — 876 G24	外 生 土 器 高 杯 (3.7) —	外面 厚耗のため調整不明 脚部内面 糙り感	外 2.5YR8.3 泥黃色 内 10Y R8.3 泥黃褐色 断 10Y R8.3 泥黃褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 感 中	反転復元
第52回 280 岡原 28 877 G24	外 生 土 器 高 杯 (3.9) —	脚部外面 厚耗のため調整不明 脚部内面 糙り感	外 2.5YR8.3 泥黃色 内 2.5YR8.3 泥黃色 断 2.5YR8.3 泥黃色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 感 中	
第52回 281 岡原 29 876 G24	外 生 土 器 高 杯 (7.2) —	厚耗のため調整不明	外 5YR8.3 泥黃色 内 5YR8.3 泥黃色 断 2.5YR8.2 泥白色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 感 中	一部反転
第52回 282 岡原 29 876 G24	外 生 土 器 高 杯 (6.8) —	脚部外面 ハラミガキ 脚部内面 糙り感	外 2.5YR7.6 棕色 内 5YR8.4 泥褐色 断 5YR8.4 泥褐色 0.2mm以上の砂粒を含む 感 中	反転復元
第52回 283 岡原 29 876 G24	外 生 土 器 高 杯 (6.5) —	厚耗のため調整不明	外 2.5YR6.6 棕色 内 2.5YR6.6 棕色 断 5YR8.1 泥色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 感 中	一部反転
第52回 284 岡原 — 885 G24	外 生 土 器 高 杯 (4.0) —	厚耗のため調整不明	外 2.5YR7.2 泥黃色 内 10Y R7.3 に近い黃褐色 断 10Y R7.3 に近い黃褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 感 中	

877-OR 2層

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 砂 土 ・ 燃 成	備 考
第53回 285 岡原 — 865 G24	外 生 土 器 高 杯 (18.0) (4.2) —	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10YR7.2 に近い黄褐色 内 10YR7.4 に近い褐色 断 7.5YR7.3 に近い褐色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 感 中	反転復元
第53回 286 岡原 30 870 G24 F.P	外 生 土 器 (15.2) (3.8) —	口縁部外面 ナデ 脚部外面 ハラ 内面 厚耗のため調整不明	外 2.5YR8.3 泥黃色 内 10YR8.3 泥黃褐色 断 10YR8.4 泥黃褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 感 中	反転復元
第53回 287 岡原 30 876 G24	外 生 土 器 (16.0) (3.4) —	厚耗のため調整不明	外 3YR7.4 に近い褐色 内 5YR7.4 に近い褐色 断 5YR7.3 に近い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 感 中	反転復元
第53回 288 岡原 30 876 G24	外 生 土 器 (14.4) —	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10YR7.2 に近い黄褐色 内 3.5YR7.2 泥黃色 断 2.5YR8.2 泥黃色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 感 中	反転復元

登録番号	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 施 土 ・ 砂 成	備 考
第53回 298 因版 —— 865 G24	赤 生 土 壁 重 (3.4)	摩耗のため調整不明	外 5 YR 6.6 橙色 内 5 YR 6.4 にぶい褐色 断 5 YR 6.6 緑色 0.5m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第53回 299 因版 —— 875 G24CO	赤 生 土 壁 重 (5.0)	摩耗のため調整不明	外 5 YR 4.1 楔色 内 5 YR 2.2 灰白色 断 7.5YR 5.1 楔色 1.0m大の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第53回 301 因版 30 865 G24	赤 生 土 壁 重 (18.0) (4.2)	摩耗のため調整不明	外 10 YR 2.2 にぶい褐色 内 7.5YR 7.4 にぶい褐色 断 7.5YR 7.3 にぶい褐色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第53回 302 因版 —— 865 G24	赤 生 土 壁 重 (13.2) (2.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10 YR 6.3 淡黄褐色 内 10 YR 6.3 淡黄褐色 断 10 YR 6.3 淡黄褐色 1.0m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第53回 303 因版 —— 865 G24	赤 生 土 壁 重 (18.5) (3.0)	口縁部外面 ナデ 内面 摩耗のため調整不良	外 2.5Y 7.2 底黄色 内 2.5Y 8.4 底黄色 断 2.5Y 7.3 底黄色 3.0m大の白色砂粒を若干含む 壁 中	反転復元
第53回 304 因版 —— 878 G24	赤 生 土 壁 重 (17.2) (3.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部から背面にかけての外周範囲内のハ 口縁部内面 ハケ	外 10 YR 6.3 底黄色 内 10 YR 4.3 底黄色 断 10 YR 6.3 底黄色 0.5m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元 外面 保付着
第53回 305 因版 —— 865 G24	赤 生 土 壁 重 (17.5) (1.8)	摩耗のため調整不明	外 10 YR 7.3 にぶい褐色 内 10 YR 7.3 にぶい褐色 断 10 YR 8.2 底白色 0.5m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第53回 306 因版 —— 883 G24CO	赤 生 土 壁 重 (19.2) (3.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 2.5Y 6.2 底黄色 内 2.5Y 6.2 底黄色 断 2.5Y 7.2 底黄色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第53回 307 因版 —— 865 G24	赤 生 土 壁 重 (19.2) (3.8)	摩耗のため調整不明	外 10 YR 7.3 にぶい褐色 内 2.5Y 7.2 底白色 断 2.5Y 7.2 底黄色 0.5m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第53回 308 因版 30 875 G24CO	赤 生 土 壁 重 (2.0) (4.2)	摩耗のため調整不明	外 10 R 5/4 楔褐色 内 10 R 6/2 淡黄褐色 断 N 3.0 楔褐色 2.0m大の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第53回 309 因版 —— 881 G24	赤 生 土 壁 重 (1.6) (2.5)	摩耗のため調整不明	外 10 YR 7.2 にぶい褐色 内 2.5Y 8.6 明赤褐色 断 5 YR 6.3 にぶい褐色 0.2m大の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第53回 310 因版 —— 881 G24	赤 生 土 壁 重 (2.4) (4.9)	外壁 タタキ 内壁 摩耗のため調整不明	外 2.5Y 4/1 黄褐色 内 2.5Y 8/2 底白色 断 10 YR 7/2 にぶい褐色 0.5m大の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元 裏

試験番号	器種・器形 計測箇所	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 発 成	備 考
第53回 301 因版 — 875 G24FP	赤 生 土 器 底部 (2.1) (3.6)	外面 ナゲ 内部 ハケ	外 2.5YR 8.2 淡白色 内 10YR 7.0 に近い黄褐色 断 10YR 7.2 に近い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 底部 黄褐色 燒
第53回 302 因版 30 875 G24	赤 生 土 器 底部 (2.5) (5.5)	底部外面 ナゲやエ 底部内部 ハケ	外 7.5YR 6.2 淡褐色 内 10YR 6.2 淡黃褐色 断 10YR 7.2 に近い黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	底部 黑褐色 燒
第53回 303 因版 30 875 G24FP	赤 生 土 器 底部 (2.0) (4.6)	底部外面 ナゲ 底部内部 ハケ	外 7.5YR 5.1 灰色 内 2.5YR 7.3 淡黄色 断 2.5YR 7.3 淡黄色 0.5mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 燒
第53回 304 因版 30 875 G24FP	赤 生 土 器 底部 (3.7) (3.4)	底部外面 ナゲやエ 底部内部 ハケ	外 2.5YR 7.3 淡褐色 内 10YR 7.2 に近い黄褐色 断 2.5YR 5.1 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 燒
第54回 305 因版 30 865 G24	赤 生 土 器 高杯 (5.3)	外側 撥毛のため調整不明 内部 ハケ	外 2.5YR 8.4 淡黄色 内 2.5YR 8.4 淡黄色 断 2.5YR 8.2 淡白色 0.5mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 燒 中	一部反転 燒
第54回 306 因版 30 875 G24CO	赤 生 土 器 高杯 (5.1)	裏毛のため調整不明	外 2.5YR 8.2 淡白色 内 2.5YR 8.2 淡白色 断 2.5YR 7.2 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	
第54回 307 因版 30 865 G24	赤 生 土 器 高杯 (4.7)	裏毛 撥毛のため調整不明 内部 ハケ	外 7.5YR 7.6 橙色 内 7.5YR 7.4 に近い褐色 断 5YR 7.6 橙色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 燒
第54回 308 因版 30 865 G24	赤 生 土 器 高杯 (4.3)	外側 ハケ 内部 ハケ	外 2.5YR 8.4 淡黄色 内 2.5YR 8.4 淡黄色 断 2.5YR 6.1 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 燒
第54回 309 因版 30 1057 G24EP	赤 生 土 器 高杯 (6.0) (10.3)	脚部外面 ナゲ 脚部内部 ナゲ 脚部内部 ハケ	外 7.5YR 6.3 に近い褐色 内 7.5YR 7.3 に近い褐色 断 7.5YR 7.3 に近い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 燒

1300—O R 2 層

試験番号	器種・器形 計測箇所	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 発 成	備 考
第55回 310 因版 — 865 G24AM	赤 生 土 器 (23.4) (2.4)	口縁部外面 ナゲ	外 10YR 8.3 淡褐色 内 10YR 7.4 に近い黄褐色 断 10YR 8.3 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 燒
第55回 311 因版 — 1057 G24	赤 生 土 器 (13.0) (2.5)	口縁部外面 ナゲ 内部 撥毛のため調整不明	外 2.5YR 5.6 明赤褐色 内 10YR 7.1 淡白色 断 2.5YR 6.6 明赤褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 外部 雨村君

登録番号	器種・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 色 土 ・ 使 成	備 考
第558号 312 国版 — 999 G18W1	弥 生 土 器 裏 (15.0) (6.0) —	口縁部から底部にかけての外観 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y8 3 淡黄色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 0.5mm以上の砂粒を含む 度 中	反転復元
第559号 313 国版 — 1016 G24	弥 生 土 器 裏 (18.8) (5.8) —	体部外観 タタキ 口縁部内面 ナデ 肩部内面 梶ナラ	外 10YR7 3 内 10YR7 3 断 2.5Y5 1 黄灰色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元 外面 保付着
第560号 314 国版 — 987 G24AM	弥 生 土 器 底 部 — (6.0) (4.3)	直体部外観 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y8 3 淡黄色 内 2.5Y8 4 淡黄色 断 2.5Y8 4 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 度 中	一部反転 底部 黒斑 度
第561号 315 国版 — 992 G19KJ	弥 生 土 器 高 杯 — (5.1) (7.6)	外面 摩耗のため調整不明 肩部内面 梶ナラ	外 2.5Y8 3 淡黄色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 度 中	
第562号 316 国版 31 1015 G24	弥 生 土 器 高 杯 — (7.2) (9.8)	脚部外観 ヘラミガキ 脚部内面 枝り模	外 3 Y8 1 底白色 内 3 Y8 1 底白色 断 3 Y8 1 底白色 0.5mm以上の黒色砂粒を多く含む 度 中	一部反転 四方スカン

879—O R

登録番号	器種・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 色 土 ・ 使 成	備 考
第563号 317 国版 30 1132 G24	弥 生 土 器 裏 (25.0) (3.8) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8 2 底白色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元
第564号 318 国版 30 1130 G24	弥 生 土 器 裏 (27.0) (5.5) —	口縁部から体部にかけての外観 ハケ 体部外観 タタキ 口縁部内面 ハケ 肩部内面 梶ナラ	外 2.5Y8 4 淡黄色 内 2.5Y8 3 淡黄色 断 2.5Y8 3 淡黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元
第565号 319 国版 — 1132 G24	弥 生 土 器 裏 (13.8) (3.0) —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8 3 淡黄色 内 2.5Y8 3 淡黄色 断 2.5Y8 3 淡黄色 0.5mm以上の白色、底色砂粒を含む 度 中	反転復元 外面 保付着
第566号 320 国版 30 1122 G24	弥 生 土 器 裏 (16.8) (3.7) —	肩部外観 タタキ 口縁部内面 ナデ	外 2.5Y8 2 底白色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元
第567号 321 国版 — 1132 G24	弥 生 土 器 裏 (17.8) (3.5) —	口縁部外観 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 2.5Y8 2 底白色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反転復元
第568号 322 国版 — 1132 G24	弥 生 土 器 高 杯 (7.2) —	外面 ヘラミガキ 脚部内面 枝り模	外 2.5Y8 2 底白色 内 2.5Y8 2 底白色 断 2.5Y8 2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 度 中	一部反転 三方スカン

登録番号 出土地区	基種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 耕 土 ・ 残 灰	備 考
第5688 223 須坂 30 1132 G24	夯生土器 高 口 (7.4) —	底部外側 ハラミガキ 底部内面 扱い痕	外 2.5Y7.2 底黄色 内 2.5Y8.2 底白色 断 2.5Y8.2 底黄色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 灰 中	一部反転 三方スカラ
第5689 224 須坂 30 1132 G21	夯生土器 底 高 (2.5) (3.0)	底部外側 ハラミガキ 底部内面 ハケ	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 10YR7.2 に赤い黄褐色 断 10YR7.2 に赤い黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 灰 中	壺

1300—O R北肩土器群

登録番号 出土地区	基種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 耕 土 ・ 残 灰	備 考
第5744 225 須坂 31 1041 G19W I	夯生土器 高 口 (29.4) 5.0	体部上半外側 ハラミガキ 体部下半外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 10YR7.2 に赤い黄褐色 断 5YR8.4 は淡褐色 3.0mm以上の白色砂粒を多く含む 灰 中	一部反転
第5802 226 須坂 — 1007 G19U I	夯生土器 高 口 (13.0) (2.9)	単孔のため調整不明	外 2.5Y8.4 淡褐色 内 2.5Y8.4 淡黄色 断 2.5Y8.1 黄褐色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 灰 中	反転復元
第5803 227 須坂 32 1176 G19X I	夯生土器 高 口 (13.2) (4.5)	摩耗のため調整不明	外 5YR7.4 に赤い褐色 内 5YR7.4 に赤い褐色 断 7.5YR7.3 に赤い褐色 3.0mm以上の白色、淡色砂粒を含む 灰 中	反転復元
第5804 228 須坂 — 1007 G19U I	夯生土器 高 口 (20.6) (10.9)	口縁外側 ナデ 底部外側 ハケ 内面 単孔のため調整不明	外 2.5Y7.6 淡黃褐色 内 2.5Y7.4 淡黄色 断 2.5Y7.4 淡黄色 3.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 灰 中	反転復元
第5805 229 須坂 32 1041 G19W I	夯生土器 高 口 (15.0) (6.6)	体部外側 タタキ 口縁内面 ハケ 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y7.3 淡黄色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 灰 中	反転復元
第5806 330 須坂 — G19	夯生土器 高 口 (17.4) (6.5)	体部外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR7.3 に赤い黄褐色 内 10YR7.4 に赤い黄褐色 断 10YR7.3 底白色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 灰 中	反転復元
第5807 331 須坂 32 1008 G19W I	夯生土器 高 口 (13.0) (8.8)	口縁部から体部にかけての外側 タタキ 内面 単孔のため調整不明	外 10YR7.2 に赤い黄褐色 内 2.5Y7.2 底白色 断 10YR6.2 底黃褐色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を若干含む 灰 中	反転復元 外側 塗付青
第5808 332 須坂 31 1043 G19U I	夯生土器 高 口 (17.2) (8.2)	体部外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR7.4 に赤い黄褐色 内 2.5Y8.3 底黄色 断 2.5Y8.3 底黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 灰 中	反転復元
第5809 333 須坂 32 1054 G19	夯生土器 高 口 (18.4) (11.0)	体部外側 タタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 10YR8.3 淡黃褐色 内 10YR8.3 淡黃褐色 断 10YR8.3 淡黃褐色 4.0mm以上の白色砂粒を含む 灰 中	反転復元

登録番号	種類・基形 出土地点	成形・調整 計測値	色調・基土・焼成	備考
第59回 334 國版 —— 1058 G19W I	赤生土器 裏 (16.0) (3.2) ——	瓶外部 ハケ 口縁部内面 ハケ	外 2.5Y6.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y6.1 黄灰色 0.5mm以上の白色、淡色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第59回 335 國版 —— 1041 G19W I	赤生土器 裏 (15.5) (3.6) ——	厚耗のため調整不明	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第59回 336 國版 —— 1067 G19U I	赤生土器 裏 (15.8) (2.2) ——	口縁部外皿 ナデ 内面 厚耗のため調整不明	外 2.5Y7.3 淡黄色 内 3 Y8.2 淡白色 断 2.5Y8.3 淡黄色 1.0mm以上の白色、黑色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第59回 337 國版 —— 1041 G19W I	赤生土器 裏 (14.8) (1.4) ——	外皿 厚耗のため調整不明 D縁部内面 ナデ	外 3 YR6.8 棕色 内 3 Y8.4 棕褐色 断 3 YR7.6 棕色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第59回 338 國版 31 1067 G19U I	赤生土器 裏 (13.6) (12.9) 3.8 ——	体部外面 タタキ 底部外皿 ナカナ D縁部内面 ナデ 体部内面 褶ナゲ	外 7.5YR7.3 に赤い褐色 内 7.5YR7.3 に赤い褐色 断 7.5YR7.3 に赤い褐色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	一部反転
第59回 339 國版 32 1067 G19U I	赤生土器 裏 (9.0) 4.8 ——	外面 タタキ 内面 厚耗のため調整不明	外 10YR7.3 に赤い褐色 内 7.5YR7.4 に赤い褐色 断 10YR7.1 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 底部 黒斑 裏
第59回 340 國版 —— 1038 G19W I	赤生土器 裏 (1.2) (4.0) ——	底部外面 指オナニ 内面 厚耗のため調整不明	外 7.5YR3.2 黑褐色 内 10YR8.2 淡白色 断 10YR7.2 に赤い褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 裏
第59回 341 國版 —— 1041 G19W I	赤生土器 裏 (2.6) 4.6 ——	外面 厚耗のため調整不明 底部内面 ハケ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y8.1 淡白色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 裏
第59回 342 國版 —— 1043 G19U I	赤生土器 裏 (2.0) (4.0) ——	体部外面 タタキ 内面 厚耗のため調整不明	外 3 Y8.3 淡黄色 内 3 Y8.2 淡白色 断 2.5Y4.1 黄灰色 2.0mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 裏
第59回 343 國版 —— 1038 G19W I	赤生土器 裏 (2.0) (2.7) ——	厚耗のため調整不明	外 10R6.6 赤褐色 内 2.5Y8.3 淡白色 断 2.5Y8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 裏
第59回 344 國版 —— 1042 G19W I	赤生土器 裏 (2.0) (3.8) ——	厚耗のため調整不明	外 2.5Y7.4 淡黄色 内 2.5Y7.4 淡黄色 断 7.5YR6.6 黑色 2.0mm以上の白色、赤色砂粒を含む 燒 中	反転復元 裏
第59回 345 國版 —— 1033 G19	赤生土器 裏 (3.4) (4.8) ——	外面 厚耗のため調整不明 底部内面 褶ナゲ	外 7.5YR7.4 に赤い褐色 内 10YR8.3 淡黄色 断 10YR8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色、赤色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 裏

立番号	器種・器形 出土地区	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 色 ・ 滅 武	備 考
第50回 316 因版 —— 1007 G19U I	秀生土 墓 底 部 — （ 2.1 ） 5.1	底面 板ナデ 底部内面 板ナデ	外 2.5YR 7.6 緑色 内 2.5YR 5.1 黄褐色 断 2.5Y 7.1 黄白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	變
第59回 347 因版 —— 1176 G19X I	秀生土 墓 底 部 — （ 1.8 ） （ 3.8 ）	外面 摩耗のため調整不明 底部内面 板ナデ	外 5 YR 8.1 黄白色 内 5 YR 9 黄白色 断 5 YR 8 黄白色 5.0mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 小	反転復元 變
第50回 348 因版 —— 1054 G19	秀生土 墓 底 部 — （ 1.7 ） 4.2	摩耗のため調整不明	外 10R 5.6 黄褐色 内 2.5YR 2 黄褐色 断 10Y R 8.1 黄褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	一部反転 變
第50回 349 因版 —— 1147 G19U I	秀生土 墓 底 部 — （ 2.2 ） 6.2	摩耗のため調整不明	外 2.5Y 7.0 淡黄色 内 2.5Y 6.1 黄褐色 断 2.5Y 8.1 黄褐色 5.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 小	變
第50回 350 因版 —— 1007 G19U I	秀生土 墓 底 部 — （ 2.5 ） （ 4.1 ）	底部外側 ナオサエ 底面 ナナ 内面 摩耗のため調整不明	外 2.5Y 7.3 淡黄色 内 5 YR 8.4 淡黄色 断 5 YR 9.1 黄褐色 3.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 變
第59回 351 因版 —— 1176 G19X I	秀生土 墓 底 部 — （ 1.9 ） （ 4.0 ）	体部外側 ナタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 5 YR 6.4 に点・褐色 内 10Y R 7.2 に点・黄褐色 断 10Y R 7.2 に点・黄褐色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 變
第59回 352 因版 —— 1176 G19X I	秀生土 墓 底 部 — （ 2.7 ） （ 5.0 ）	摩耗のため調整不明	外 10Y R 7.4 に点・黄褐色 内 2.5Y 5.1 黄褐色 断 10Y R 7.4 に点・黄褐色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 燒 小	反転復元 變
第59回 353 因版 —— 1054 G19	秀生土 墓 底 部 — （ 1.8 ） 4.0	底部外側 ナタキ 底部内面 摩耗のため調整不明	外 5 YR 6.4 に点・褐色 内 2.5Y 8.2 黄白色 断 2.5Y 7.1 黄白色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 燒 中	變
第59回 354 因版 —— 1176 G19X I	秀生土 墓 底 部 — （ 4.8 ） 3.0	外 面 ナタキ 内面 摩耗のため調整不明	外 7.5YR 7.6 緑色 内 7.5YR 8.4 淡黃褐色 断 7.5YR 8.4 淡黃褐色 3.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 小	一部反転 變
第60回 355 因版 32 1041 G19W I	秀生土 墓 高 杯 （ 14.8 ） （ 3.7 ） —	口縁部外側 ナデ 口縁部内面 ヘラミガキ	外 7.5YR 7.4 に点・褐色 内 7.5YR 8.4 に点・褐色 断 2.5Y 7.1 黄白色 0.3mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 小	反転復元 變
第60回 356 因版 32 1048 G19X I	秀生土 墓 高 杯 （ 18.6 ） （ 5.2 ） —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y 8.2 黄白色 内 7.5YR 7.4 に点・褐色 断 2.5Y 8.2 黄白色 0.3mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元 變
第60回 357 因版 32 1038 G19W I	秀生土 墓 高 杯 （ 19.6 ） （ 6.3 ） —	摩耗のため調整不明	外 2.5Y 8.4 緑色 内 10Y R 7.4 に点・黄褐色 断 7.5YR 5.6 明褐色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 燒 小	反転復元 變

試験番号 生土試区	器種・基形 計測値	底形・調整	色調・粘土・構成	備考
第602回 358 固形 32 1176 G19X1	弥生土器 高杯 (33.0) 4.3	口縁部外面 磨方向のヘラミガキ	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y7.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 0.5mm以上の白色、黑色砂粒を含む 底 中	反射復元
第602回 359 固形 32 1042 G19W1	弥生土器 高杯 (21.6) 8.5	摩耗のため調整不明	外 10YR7.4 に赤い黄緑色 内 10YR7.4 に赤い黄緑色 断 10YR7.4 に赤い黄緑色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	反射復元
第602回 360 固形 32 1041 G19W1	弥生土器 高杯 (33.2) 5.5	摩耗のため調整不明	外 10YR8.3 淡黄緑色 内 10YR8.3 淡黄緑色 断 10YR8.3 淡黄緑色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	反射復元
第602回 361 固形 32 1058 G19W1	弥生土器 高杯 (24.2) 2.8	摩耗のため調整不明	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 1.0mm以上の白色、褐色砂粒を多く含む 底 中	反射復元
第602回 362 固形 — 1028 G19W1	弥生土器 高杯 8.1 12.4	外縁 摩耗のため調整不明 脚部内面 裁り痕	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を含む 底 中	一般反射 三万スカシ
第602回 363 固形 31 1007 G19U1	弥生土器 高杯 (8.3) (13.8)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 裁り痕	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y7.2 淡黄色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 底 中	反射復元 三万スカシ
第602回 364 固形 21 1054 G19	弥生土器 高杯 (4.2)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 裁り痕、油オサエ	外 2.5Y7.2 淡黄色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反射復元
第602回 365 固形 32 1041 G19W1	弥生土器 高杯 (5.0)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 裁り痕	外 2.5Y8.2 底白色 内 2.5Y8.2 底白色 断 2.5Y8.2 底白色 2.0mm以上の白色、灰色砂粒を含む 底 中	一般反射
第602回 366 固形 32 1147 G19U1	弥生土器 高杯 (6.7)	外縁 摩耗のため調整不明 脚部内面 裁り痕	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 2.5Y8.3 淡黄色 断 2.5Y8.3 淡黄色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 底 中	一般反射
第602回 367 固形 — 1038 G19W1	弥生土器 高杯 (2.3) (11.0)	摩耗のため調整不明	外 10YR8.2 底白色 内 10YR8.2 底白色 断 10YR8.2 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 底 中	反射復元
第602回 368 固形 — 1042 G19W1	弥生土器 高杯 (3.0) (15.2)	摩耗のため調整不明	外 10YR7.4 に赤い黄緑色 内 10YR7.4 に赤い黄緑色 断 10YR7.4 に赤い黄緑色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 底 中	反射復元
第602回 369 固形 — 1054 G19	弥生土器 高杯 (3.1) (16.0)	脚部外面 ハケ 脚部底 ナダ 脚部内面 板ナダ	外 5 YR7.4 に赤い褐色 内 2.5Y7.2 底黄色 断 7.5YH5.6 明褐色 1.0mm以上の白色、灰色砂粒を多く含む 底 中	反射復元

1300—O R 4 層

試験番号	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 士 ・ 構 成	考
生土地区				
第61回 370 固版 — 1135 G19XK	秀 生 土 築 型 (17.0) (1.7)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10YR 6.2 黄褐色 内 10YR 6.2 黄褐色 断 2.5YR 1 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊	反転復元 器部 錐孔 外面 滑り着
第61回 371 固版 — 1118 G24BL	秀 生 土 築 型 (18.2) (2.2)	指部外面 ナデ 指部内面 ナデ	外 10YR 6.2 黄白色 内 10YR 6.2 にぶい黄褐色 断 10YR 6.2 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊	反転復元
第61回 372 固版 33 1026 G19YL	秀 生 土 築 型 (19.9) (7.9)	口縁部外側 ナデ 指部内面 ハラミガキ 内面 庫丸のため調整不明	外 10YR 7.2 にぶい黄褐色 内 2.5YR 2 黄褐色 断 2.0YR 2 黄褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元
第61回 373 固版 — 1118 G24BL	秀 生 土 築 型 (20.6) (2.8)	口縁部内、外面 ナデ 指部外側 ナデ	外 5 YR 3.2 明赤褐色 内 7.5YR 6.6 橙色 断 10YR 4.2 黄褐色 2.0mm以上の灰白色砂粒を若干含む 塊 中	反転復元 外側 錐孔着
第61回 374 固版 33 1021 G19XH	秀 生 土 築 型 (16.0) (5.6)	指部外面 ナデ 指部内面 ナデ	外 10YR 6.2 黄褐色 内 10YR 6.2 赤褐色 断 5 YR 1 黄褐色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を含む 塊 中	反転復元
第61回 375 固版 — 1023 G19XL	秀 生 土 築 型 (16.8) (3.5)	庫丸のため調整不明	外 10YR 7.2 にぶい黄褐色 内 10YR 7.2 にぶい黄褐色 断 10YR 6.1 橙色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元
第61回 376 固版 32 1131 G24CO	秀 生 土 築 型 (20.2) 21.5 4.8	口縁部外側 唇オサエの後ナデ 体部外側 ダタキ 内面 ハケ	外 10YR 6.2 黄褐色 内 10YR 6.2 黄褐色 断 — 塊 中	一部反転 外側 錐孔着
第61回 377 固版 33 1061 G24DN	秀 生 土 築 型 (4.4) 4.2	体部外側 ハケ 体部内面 ハケ	外 7.5YS 2.2 灰白色 内 10Y 5.1 黄色 断 7.5YS 2.2 灰白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	一部反転 中
第61回 378 固版 33 1024 G21AK	秀 生 土 築 型 (3.9) 6.8	底面外側 唇オサエ 底面内面 唇オサエ	外 2.5YS 3.2 灰褐色 内 2.5YS 2 灰白色 断 10YR 7.3 にぶい黄褐色 0.5mm以上の灰色、黒色砂粒を含む 塊 中	一部反転 底面内面 植物繊維の 塊 中
第61回 379 固版 — 1025 G19YK	秀 生 土 築 型 (2.2) 5.4	体部外側 ハラミガキ 体部内面 ナデ 底面内面 唇オサエ	外 2.5YS 2 灰褐色 内 2.5YS 2 灰褐色 断 5 YR 1 黄色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 塊 中	一部反転 底面内面 植物繊維の 塊 中
第61回 380 固版 33 989 G19YI	秀 生 土 築 型 (3.0) 2.9	庫丸のため調整不明	外 2.5YR 7.3 黄褐色 内 2.5YR 7.3 黄褐色 断 2.5YR 7.3 黄褐色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 塊 中	一部反転 体部 基底 中
第61回 381 固版 — 1138 G19YK	秀 生 土 築 型 (3.6) (8.0)	庫丸のため調整不明	外 10YR 6.2 黄褐色 内 10YR 6.2 黄褐色 断 10YR 6.2 黄褐色 0.5mm以上の灰白色砂粒を含む 塊 中	反転復元 中

登録番号	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 色 ・ 構 成	備 考
第61回 382 因版 —— 988 G1HEN	赤 生 土 基 底 板 (3.3) (4.2)	体部外側 ナダ 底面内面 板ナダ	外 2.5Y8/3 泥黄色 内 10YR6/2 泥黄色 断 2.5Y8/3 泥黄色 0.5mm大の白色、黑色砂粒を含む 塊 中	一部反転 裏
第62回 383 因版 33 1090 G18XL	赤 生 土 基 底 板 (16.4) (4.3)	D種部外側 ナダ 翼部外側 ナダ 内面 厚耗のため調整不可	外 10YR6/3 に赤い黄褐色 内 10YR7/3 に赤い黄褐色 断 2.5Y8/3 泥黄色 1.0mm大の白色砂粒を含む 塊 中	反転復元 外側 離付着
第62回 384 因版 —— 1048 G24CN	赤 生 土 基 底 板 (17.3) (3.8) —	D種部外側 ナダ	外 10YR6/2 泥白色 10YR8/2 泥白色 内 2.5Y8/3 泥黄色 断 10YR8/3 泥黄色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元 外側 離付着
第62回 385 因版 33 1063 G24DN	赤 生 土 基 底 板 7.5 (5.6)	体部外側 ナダ 体部内面 板ナダ	外 2.5Y7/2 泥黄色 2.5Y5/1 泥黄色 内 2.5Y7/2 泥黄色 断 2.5Y7/2 泥黄色 0.5mm大の白色、黑色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元 裏
第62回 386 因版 —— 1026 G19YL	赤 生 土 基 底 板 (2.3) (5.2)	体部外側 ナダ 底面内面 ハゲ	外 10YR6/2 泥黄色 内 2.5Y6/2 泥黄色 断 2.5YR6/2 泥色 0.5mm大の白色、黑色砂粒を多く含む 塊 中	反転復元 外側 離付着 裏

1300—OR 5層

登録番号	基準・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 色 ・ 構 成	備 考
第63回 387 因版 33 1064 G24	赤 生 土 基 底 板 (16.4) (2.7) —	D種部外側 ナダ D種部内面 ナダ	外 10YR1.7/1 黒色 内 2.5Y7/2 泥黄色 断 2.5Y7/2 泥黄色 0.2mm大の白色砂粒を含む 塊 硬	反転復元 口縁部 黒斑
第63回 388 因版 33 1075 G24	赤 生 土 基 底 板 (13.4) (2.5) —	D種部外側 ナダ D種部内面 ナダ	外 10YR7/3 に赤い黄褐色 内 10YR7/3 に赤い黄褐色 断 10YR7/3 に赤い黄褐色 0.2mm大の白色砂粒を含む 塊 硬	反転復元 外側 離付着
第63回 389 因版 33 1064 G24	赤 生 土 基 底 板 (15.0) (2.6) —	D種部外側 ナダ D種部内面 ナダ	外 2.5Y4/1 泥黄色 内 2.5Y3/2 黑褐色 断 2.5Y8/3 泥黄色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 塊 硬	反転復元 外側 離付着
第63回 390 因版 33 1076 G24AK	赤 生 土 基 底 板 (3.8) —	D種部外側 ヘラミガキ D種部内面 ヘラミガキ	外 5 YR5/3 に赤い赤褐色 内 5 YR6/3 に赤い赤褐色 断 2.5YR5/6 明赤褐色 2.0mm大の白色砂粒を含む 塊 中	
第63回 391 因版 33 1166 G24	赤 生 土 基 底 板 (8.8) —	車輪のため調整不可	外 2.5Y8/3 泥黄色 2.5Y8/3 泥黄色 断 2.5Y8/3 泥黄色 3.0mm大の白色、黑色砂粒を含む 塊 中	一部反転 四方スカシ
第63回 392 因版 33 1166 G24	赤 生 土 基 底 板 (5.0) —	外側 厚耗のため調整不可 脚部内面 取り痕	外 10YR7/3 に赤い黄褐色 内 7.5YR7/4 に赤い褐色 断 10YR7/3 に赤い黄褐色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 塊 中	一部反転 二方スカシ 脚部 黑斑

登録番号	基盤・基形 計測値	成形・調整	色調・粒土・焼成	備考
第63回 393 固版 33 1198 G24	外生土器 底面 (3.9) (5.4)	外面 テテキ 内面 車輪のため調整不明	外 2.5Y8/1 底白色 内 2.5Y5/1 淡灰色 断 2.5Y7/1 淡灰色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 要
第63回 394 固版 33 1198 G24	外生土器 底面 (3.5) (4.0)	外面 テテキ 内面 車輪ナデ	外 3 YR7.8 棕色 内 10YR4.1 淡灰色 断 5 YR7.8 棕色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	要
第64回 395 固版 33 1098 G24AM	外生土器 底面 17.7 (40.0) (7.0)	底部外面 ヘラミガキ 内面 車輪のため調整不明	外 2.5Y7.2 底黄色 内 3.5Y7.2 底黄色 断 2.5Y7.2 底黄色 2.0mm以上の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	一部反転 体部黒斑 体部外側 備付着

810-OO

登録番号	基盤・基形 計測値	成形・調整	色調・粒土・焼成	備考
第70回 399 固版 —— 515 G19UG	黒色土器 底面 (1.6) (6.8)	内面 ヘラミガキ 高台部 ヨコナデ 底面 テテキ	外 10YR5.5 に若い眞褐色 内 5 Y8.2 淡白色 断 2.5YR7.4 淡赤褐色 1.0mm以上の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	

第5層

登録番号	基盤・基形 計測値	成形・調整	色調・粒土・焼成	備考
第71回 400 固版 —— 933 G19VN	底 黒 器 杯 盆 (13.8) (3.9)	天井部外面 回転ヘラケズリ その他の内面 回転ナデ	外 2.5Y8/1 底白色 内 2.5Y8/1 底白色 断 2.5Y8/1 底白色 0.5mm以上の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第71回 401 固版 —— 958 G24CP	底 黒 器 杯 盆 (13.6) (1.8)	天井部外面 ヘラケズリ その他の内面 回転ナデ	外 N7.0 底白色 内 N7.0 底白色 断 N7.0 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元 内底 黒付着 (転用現)
第71回 402 固版 —— 972 G24FQ	底 黒 器 7.4	底部外面 ヘラケズリの後ナデ 底面 回転系切り 底部内面 回転ナデ	外 N8.0 底白色 内 N8.0 底白色 断 N8.0 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	一部反転
第71回 403 固版 —— 939 G24BO	瓦 壁 ——	底部外側 抹オナエ 底面 ナデ 底部内面 ヘラミガキ	外 3 Y7/1 底白色 内 N4.0 底色 断 N8.0 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第71回 404 固版 —— 800 G24AL	土 壁 底 (7.6) (1.2)	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 7.5Y8/2 底白色 内 7.5Y8/2 底白色 断 7.5Y8/2 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元
第71回 405 固版 —— 930 G19XL	瓦 壁 三 足 (6.8)	脚部外側 抹オナエ 体部内面 ナデ	外 N15/0 黒色 内 N4.0 底白色 断 2.5G Y8/1 底白色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 燒 中	

第1耕作面耕土

登録番号 出土地区	基盤・基形 計測値	実 形 ・ 調 整	色 調 ・ 色 土 ・ 地 成	備 考
第72回 406 田原 34 968 G19V J	土 壤 箱 羽 笠 (17.4) (3.1) —	外観 ナダ 内側内面 ハラミガキ	外 10YR7.4 に赤い黄褐色 内 10YR5.2 黄褐色 断 2.5Y8.2 灰白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	外張 備行着 873-0A
第72回 407 田原 34 968 G19X H	瓦 壁 箱 — (1.4) (3.1) —	底面内面 指オナニ 底面 ナダ 内面 ヘラミガキ	外 2.5G Y8.1 灰白色 内 N4.0 灰色 断 2.5GY8.1 灰白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 度 硬	873-0A
第72回 408 田原 34 965 G19X II	土 壤 箱 且 — (7.9) 1.2	外観 ナダ 底面 指オサエ 内面 塗料のため調整不明	外 2.5YR7.6 棕色 内 5YR7.4 に赤い褐色 断 10YR7.2 に赤い黄褐色 0.2mm以上の褐色砂粒を多く含む 度 中	873-0A
第72回 409 田原 34 967 G21A K	瓦 のし瓦 (11.1) 13.2 2.1	凸面 織メタキ 凹面 布メ正規	外 10YR8.2 灰白色 内 10YR8.2 灰白色 断 2.5Y6.1 灰褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 度 硬	植作り 874-0A

第1耕作面耕土

登録番号 出土地区	基盤・基形 計測値	実 形 ・ 調 整	色 調 ・ 色 土 ・ 地 成	備 考
第72回 410 田原 — 409 — 403 G18MX	石 壁 箱 — (5.5) (4.0)	体芯外面 田原ナダ 底面外面 ヘラミガキ 内面 同軸ナダ	外 N7.0 灰白色 内 N7.0 灰白色 断 N7.0 灰白色 1.0mm以上の白色砂粒を若干含む 度 硬	反射復元
第72回 411 田原 — 538 G18OX	土 壤 箱 糊土箱 (9.0) (4.0) —	口縁部外面 指オサエ 内面 塗料のため調整不明	外 7.5Y6.4 灰色 内 7.5Y6.4 灰色 断 7.5Y6.1 灰色 0.5mm以上の灰白色砂粒を若干含む 度 中	反射復元
第72回 412 田原 — 523 G18OX	土 壁 箱 (17.8) (5.1) —	外観 塗料のため調整不明 口縁部内面 ナダ	外 10YR7.4 に赤い黄褐色 内 2.5Y8.3 淡黃色 断 2.5Y8.3 淡黃色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反射復元
第72回 413 田原 35 476 G19VG	球 雜 器 箱 (0.9) (6.8) —	内外面 球形	外 10Y5.2 オリーブ灰色 内 10Y5.2 オリーブ灰色 断 N8.0 灰白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 度 中	反射復元
第72回 414 田原 35 779 G24DN	瓦 壁 箱 (1.5) (7.3) —	底面内面 ナダ 内面 塗料のため調整不明	外 2.5Y5.6 明黄褐色 内 2.5Y5.1 黑褐色 断 2.5GY7.1 明オリーブ灰色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 度 中	
第72回 415 田原 34 523 G18OX	黑色 土 壁 — (2.3) (9.5) —	高台部内面 ナダ 底面内面 ヘラミガキ	外 5YR7.6 棕色 内 10YR8.3 淡黃褐色 断 10YR6.1 灰褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 度 中	
第72回 416 田原 — 521 G19SC	土 壁 箱 (26.4) (8.3) —	体芯外面 ハケ 内面 塗料のため調整不明	外 10YR5.2 底色 内 2.5Y4.1 黄褐色 断 10YR8.2 底色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 度 中	反射復元

登録番号 生土地区	器種・器形 計測値	成 形・調 整	色 調・地 土・施 成	備 考
第73回 417 田原 35 428 G19	瓦 帽 筒 (11.8) (2.9) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 指オサエ 内面 ナデ ヘラミガキ	外 N4.0 緑色 内 N4.0 緑色 断 N7.0 緑白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	反射復元
第73回 418 田原 35 420 G19TH	瓦 帽 筒 (10.8) (3.1) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 指オサエ 内面 塗耗のため調整不明	外 N3.0 緑灰色 内 N3.0 緑灰色 断 5Y8.1 緑白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	反射復元
第73回 419 田原 35 411 G19S E	瓦 帽 筒 (10.8) (2.6) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 指オサエ 内面 塗耗のため調整不明	外 5YR7.6 緑色 内 10YR8.5 淡黄緑色 断 5Y8.1 緑白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	反射復元
第73回 420 田原 35 927 G21F Q	瓦 帽 筒 (0.8) (4.2) —	底部外面 指オサエ 高台部内面 ナデ 底部内面 ヘラミガキ	外 N3.0 緑灰色 内 N3.0 緑灰色 断 N8.0 緑白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	
第73回 421 田原 35 432 G19P D	瓦 帽 筒 (0.9) (2.8) —	底部外面 ナデ 底部内面 ヘラミガキ	外 N3.0 緑灰色 内 2.5Y4.1 緑色 断 2.5Y8.1 緑白色 0.5mm以上の白色砂粒を若干含む 硬 中	
第73回 422 田原 35 411 G18O Y	瓦 帽 筒 (4.0) (3.2) —	体部外面 指オサエ 底部内面 ヘラミガキ	外 N5.0 緑色 内 N3.0 緑灰色 断 10Y8.1 緑白色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 硬 中	反射復元
第73回 423 田原 — 928	瓦 帽 筒 (0.5) (2.6) —	底部外面 指オサエ 内面 ヘラミガキ	外 N4.0 緑色 内 N4.0 緑色 断 10Y8.1 緑白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	
第74回 424 田原 34 429 G19WH	瓦 帽 筒 (9.0) (1.5) (4.6) —	口縁部外面 ナデ 底部 指オサエ 口縁部内面 ナデ 底部内面 ヘラミガキ	外 5B5.1 青灰色 内 10BG6.1 青灰色 断 10Y8.1 緑白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	
第74回 425 田原 35 428 G19	瓦 帽 筒 (7.3) (1.0) —	口縁部外面 ナデ 内面 塗耗のため調整不明	外 10YR8.2 緑白色 内 10YR6.2 緑黃褐色 断 5Y7.1 緑白色 0.2mm以上の砂粒を多く含む 硬 中	反射復元
第74回 426 田原 35 793 G19XL	瓦 帽 筒 (7.3) (1.2) (2.9) (2.9) —	口縁部外面 ナデ 底部 指オサエ 口縁部内面 ナデ 底部内面 指オサエの後ナデ	外 7.5Y8.2 緑白色 内 7.5Y8.2 緑白色 断 10Y8.1 緑白色 0.2mm以上の白色、黒色砂粒を含む 硬 中	反射復元
第74回 427 田原 35 411 G18O Y	瓦 帽 筒 (6.8) (1.5) —	口縁部外面 ナデ 底部 指オサエの後ナデ 口縁部内面 ナデ 底部内面 指オサエの後ナデ	外 N5.0 緑色 内 N5.0 緑色 断 10Y8.1 緑白色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 硬 中	反射復元
第74回 428 田原 — 297 G18MY	土 帽 帽 筒 (7.0) (0.9) —	塗耗のため調整不明	外 5YR7.3 にぶい緑色 内 10YR8.2 緑白色 断 2.5YR7.6 緑色 0.2mm以上の白色砂粒を若干含む 硬 中	反射復元

登録番号 測定地図	基準・基形 計測量	成形・調整	色調・施土・施成	備考
第74回 429 四版 —— 782 G24BL	上 間 壁 柱 (7.2) (1.1) ——	口縫部外面 ナデ 底面 扇オサエ 内面 摩耗のため調整不規	外 7.5YR8.3 淡黄褐色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 10YR8.3 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒	反転復元
第74回 430 四版 —— 428 G19	土 間 壁 柱 (7.8) (1.3) ——	口縫部内外面 ナデ 底面 ナデ 底部内面 ナデ	外 7.5YR8.3 淡黄褐色 内 2.5YR8.3 淡白色 断 5YR7.4 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第74回 431 四版 —— 549 G19RB	土 間 壁 柱 (9.2) (1.2) ——	口縫部外面 ナデ 底部外面 扇オサエ 内面 摩耗のため調整不規	外 2.5YR7.7 淡褐色 内 3YR8.4 淡褐色 断 5YR8.4 淡褐色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒	反転復元
第74回 432 四版 35 414 G18QY	瓦 鋸 羽 壁 (16.9) (4.8) ——	口縫部外面 ナデ 体部外側 ハラケズリ 口縫部内面 ナデ 体部内面 ハケ	外 7.5Y8.1 淡白色 内 2.5Y8.1 淡白色 断 5YR7.3 淡褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第74回 433 四版 35 771 G21EQ	土 間 壁 柱 (21.0) (6.6) ——	摩耗のため調整不規	外 7.5YR8.4 淡黄褐色 内 2.5YR8.4 淡黄褐色 断 7.5YR8.4 淡黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 燒	反転復元 外壁 雨付窓
第74回 434 四版 35 421 G19RA	土 間 壁 柱 (21.4) (3.1) ——	口縫部外面 ナデ 口縫部内面 ナデ	外 10YR8.3 淡黄褐色 内 10YR7.4 淡褐色 断 7.5YR7.6 淡褐色 1.0mm以上の白色砂粒を含む 燒	反転復元 外壁 雨付窓
第74回 435 四版 35 406 G180X	土 間 壁 柱 (29.1) (4.7) ——	外壁 摩耗のため調整不規 体部内面 扇オサエ	外 7.5YR6.6 淡褐色 内 10YR8.3 淡黄褐色 断 10YR8.3 淡黄褐色 2.0mm以上の白色、褐色砂粒を含む 燒	反転復元
第74回 436 四版 35 443 G19SF	雨 壁 鋸 (20.5) (5.8) ——	口縫部外面 ナデ 口縫部内面 ナデ	外 N8.0 淡白色 内 N8.0 淡白色 断 N8.0 淡白色 0.5mm以上の白色、黑色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第74回 437 四版 35 406 G180X	雨 壁 鋸 (4.5) ——	口縫部外面 ナデ 口縫部内面 ナデ	外 N7.0 淡白色 内 N7.0 淡白色 断 N7.0 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 燒	反転復元
第74回 438 四版 35 796 G19XK	雨 壁 鋸 (5.0) ——	口縫部外面 ナデ 口縫部内面 ナデ	外 N3.1 淡褐色 内 5Y8.1 淡白色 断 5Y8.1 淡白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 燒	——
第74回 439 四版 35 480 G19TH	瓦 鋸 (4.5) ——	口縫部外面 ナデ 体部外側 ハラケズリ 口縫部内面 ハケ	外 7.5Y8.1 淡白色 内 N6.0 淡褐色 断 7.5Y8.1 淡白色 0.5mm以上の砂粒を多く含む 燒	内面 雨目
第74回 440 四版 35 451 G19SC	瓦 鋸 (21.2) (2.7) ——	口縫部外面 ナデ 口縫部内面 ナデ	外 N6.0 淡褐色 内 N6.0 淡褐色 断 10Y8.1 淡白色 0.3mm以上の淡褐色砂粒を多く含む 燒	内面 雨付窓

登録番号	品種・園形 計測値	皮・形・調整	色調・粘土・焼成	備考
第75回 441 園版 35 416 G195 C	瓦 築 (28.7) (4.3) —	口縁部外側 ナゲ 口縁部内側 ヘラケズリ 口縁部内面 ナゲ	外 N4.0 灰色 内 N4.0 灰色 断 7.5Y8.1 灰白色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第75回 442 園版 35 796 G21AM	瓦 築 (34.0) (2.5) —	口縁部外側 ナゲ 口縁部内面 ナゲ	外 N6.0 灰色 内 N2.0 灰色 断 7.5Y8.1 灰白色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 内面 塗付着
第75回 443 園版 36 793 G195 L	青 瓦 (11.4) (1.9) —	前面 滑地	外 2.5G Y8.1 灰白色 内 2.5G Y8.1 灰白色 断 N8.0 灰白色 燒 硬	
第75回 444 園版 36 267 G185 MY	瓦 軒下瓦 高 (3.3) 長 (5.9) —	下各区 鋼青文 内区 鋼青文	外 2.5Y5.1 黄灰色 内 2.5Y5.1 黄灰色 断 1.0mm大の白色砂粒を含む 燒 中	
第76回 445 園版 36 478 G196 WG	瓦 軒丸瓦 高 (7.9) 幅 (6.4) 厚 (1.7)	内区 鋼文 外区 鋼文	外 N3.0 灰色 内 — 白色 断 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 細	

第2耕作面畦畔

登録番号	品種・園形 計測値	皮・形・調整	色調・粘土・焼成	備考
第77回 448 798 571 G18PA	土 瓦 築 (6.7) (1.1) (4.4) —	口縁部外側 ナゲ 内面 塗料のため調整不明	外 2.5Y8.3 淡黄色 内 7.5Y8.2 淡白色 断 7.5Y8.2 淡白色 0.5mm大の白色砂粒を含む V	反転復元 774-04
第77回 449 798 492 G19Q C	瓦 築 (6.4) 1.1 —	口縁部外側 ナゲ 底面 塗オサエ 内面 塗料のため調整不明	外 2.5Y5.1 黄灰色 内 2.5Y7.2 淡黄色 断 2.5Y6.1 黄灰色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 775-04
第77回 450 園版 — 371 G18PA	赤生土 瓦 築 (2.5) (2.6) —	塗料のため調整不明	外 2.5YR6.6 棕色 内 7.5YR7.6 棕色 断 10YR6.2 淡黃褐色 0.5mm大の白色、灰白色砂粒を含む 燒 細	774-04
第77回 451 園版 — 478 G19VII	瓦 築 — (2.1) <td>口縁部外側 ナゲ 口縁部内面 ナゲ</td> <td>外 N4.0 灰色 内 N4.0 灰色 断 10Y8.1 灰白色 1.0mm大の白色砂粒を含む 燒 中</td> <td>778-04</td>	口縁部外側 ナゲ 口縁部内面 ナゲ	外 N4.0 灰色 内 N4.0 灰色 断 10Y8.1 灰白色 1.0mm大の白色砂粒を含む 燒 中	778-04
第77回 452 園版 — 794 G19W J	瓦 瓶 (11.6) (2.5) —	口縁部外側 ナゲ 体部外面 塗オサエ 内面 ヘラミガキ	外 N3.0 暗灰色 内 10Y8.1 灰白色 断 10Y8.1 灰白色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 硬	反転復元 779-04
第77回 453 園版 — 795 G19W J	瓦 瓶 (10.4) (2.3) —	口縁部外側 塗オサエ 内面 塗料のため調整不明	外 10Y8.1 灰白色 内 10Y8.1 灰白色 断 10Y8.1 灰白色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元 779-04

第2耕作面耕土

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 烟 土 ・ 残 料	備 考
第7802 454 國坂 —— 353 G19W H	瓦 壁 (9.9) (2.5) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 指オサエ 内面 ヘラミガキ	外 N4.0 底色 内 7.5Y8.1 底白色 断 7.5Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 壁	反転復元
第7802 455 國坂 —— 360 G19W I	瓦 壁 (10.8) (2.1) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 指オサエ 内面 平手のため調整不明	外 N4.0 底色 内 N4.0 底色 断 10Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 壁	反転復元
第7802 456 國坂 36 700 G19W L	瓦 壁 (13.0) (3.5) —	口縁部外面 ナデ 底部外面 指オサエ 内面 ヘラミガキ	外 N4.0 底色 内 N4.0 底色 断 2.5G Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 壁	反転復元
第7802 457 國坂 36 744 G21D M	瓦 壁 (1.7) (3.7) —	底部外面 指オサエ 底面外面 指アリエの後ナデ 内面 ヘラミガキ	外 N6.0 底色 内 N5.0 底色 断 N8.0 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 壁	反転復元
第7802 458 國坂 36 346 G19V I	瓦 壁 (10.8) (2.0) —	口縁部外面 ナデ 底部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	外 7.5Y7.1 底白色 内 N7.0 底白色 断 7.5Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第7802 459 國坂 —— 769 G24B P	瓦 壁 (10.4) (1.8) —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 口縁部内面 ナデ 底面内面 ヘラミガキ	外 N4.0 底色 内 N3.0 墓床色 断 7.5Y8.1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第7802 460 國坂 36 753 G24A N	瓦 壁 (7.4) 1.6 —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 内面 ナデ	外 N3.0 底色 内 N4.0 底色 断 N6.0 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第7802 461 國坂 —— 321 G19P B	瓦 壁 (12.0) (1.6) —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 内面 ナデ	外 10Y8.1 底白色 内 10Y8.1 底白色 断 10Y8.1 底白色 0.2mm以上の砂粒を含む 壁	反転復元
第7802 462 國坂 —— 330 G19R E	土 壁 壁 (6.9) 0.9 —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 口縁部内面 ナデ 底面内面 指オサエ	外 7.5Y R8.3 底白色 内 10Y R8.3 底白色 断 7.5Y R8.3 底白色 0.5mm以上の褐色砂粒を含む 壁 中	反転復元
第7802 463 國坂 —— 324 G19P B	土 壁 壁 (6.4) 1.2 —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 内面 ナデ	外 10Y R7.2 に5%・黄褐色 内 10Y R5.3 低黄褐色 断 10Y R7.2 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元
第7802 464 國坂 36 745 G24E P	土 壁 壁 (6.7) 1.2 —	口縁部外面 ナデ 底面 指オサエ 内面 ナデ	外 2.5Y4.2 軸灰黃色 内 10Y R6.6 明黃褐色 断 2.5Y5.1 黄灰色 0.5mm以上の白色、黒色砂粒を多く含む 壁	瓦転復元
第7802 465 國坂 36 741 G24C L	土 壁 壁 (7.4) 1.8 —	口縁部外面 ナデ 口縁部内面 ナデ	外 10R5.6 砂色 内 10Y R5.8 底黃褐色 断 2.5Y7.2 底黄色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 壁 中	反転復元

登録番号 生土地地区	基準・基形 計測値	成 形・調 整	色 調・地 土・洗 土	備 考
第7902 466 国鉄 — 310 G18P X	土 壁 番 底面 (7.7) 内面 1.2 —	口縁部外側 ナゲ 底面 ホタテエ 内面 撥糞のため調整不明	外 2.5Y4/1 黄灰色 内 2.5Y5/2 黄褐色 断 2.5Y6/3 黄褐色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬	反転復元
第7902 467 国鉄 35 360 G19W I	土 壁 番 底面 (7.4) 内面 1.2 —	口縁部外側 ナゲ 底面 ホタテエ 内面 ナゲ	外 2.5Y5/2 底白色 内 2.5Y5/2 底白色 断 2.5Y5/2 底白色 0.2mm以上の灰色砂粒を含む 中	反転復元
第7902 468 国鉄 — 738 G24AM	瓦 帽 羽 築 (16.5) —	口縁部外側 ナゲ 体部外側 ヘラケズリ 口縁部内面 ナゲ 体部内面 ハケ	外 7.5Y6/1 底白色 内 5Y4/1 底白色 断 7.5Y6/1 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元 外端 傷付着
第7902 469 国鉄 37 308 G18Q Y	瓦 帽 羽 築 (21.5) —	口縁部外側 ナゲ 口縁部内面 ナゲ	外 N3/0 黄灰色 内 2.5G Y4/1 鹿オリーブ灰色 断 5G Y4/1 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬 中	反転復元
第7902 470 国鉄 37 763 G25DN	瓦 帽 羽 築 (26.2) —	口縁部外側 ナゲ 体部外側 ヘラケズリ 口縁部内面 ナゲ 体部内面 ハケ	外 N3/0 黄灰色 内 7.5Y4/1 底白色 断 7.5Y4/1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元 外端 傷付着
第7902 471 国鉄 37 756 G24EO	瓦 帽 羽 築 (26.4) —	口縁部外側 ナゲ 体部外側 ヘラケズリ 内面 ナゲ	外 NS/0 底白色 内 10YR1/1 底白色 断 10YR1/1 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬	反転復元 外端 傷付着
第7902 472 国鉄 37 655 G19WL	瓦 帽 羽 築 (5.2) —	口縁部外側 ナゲ 内面 撥糞のため調整不明	外 5Y2/2 オリーブ黒色 内 5Y8/1 底白色 断 5Y8/1 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	反転復元 外端 傷付着
第7902 473 国鉄 37 695 G19XK	土 壁 番 羽 築 (5.8) —	口縁部外側 ナゲ 内面 撥糞のため調整不明	外 10YR8/3 底黃褐色 内 7.5YR8/4 底黃褐色 断 7.5YR7/6 棕色 2.0mm以上の白色砂粒を多く含む 硬 中	
第7902 474 国鉄 37 752 G24EN	屋 恵 番 羽 築 (3.3) —	外側 ナゲ 内面 ナゲ	外 5B4/1 鹿灰色 内 10B G4/1 鹿灰色 断 10B G4/1 鹿灰色 0.5mm以上の白色砂粒を多く含む 硬	
第7902 475 国鉄 — 358 G19WH	屋 恵 番 羽 築 (3.8) —	外側 ナゲ 内面 ナゲ	外 N8/0 底白色 内 N8/0 底白色 断 N8/0 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬	
第7902 476 国鉄 — 638 G19WK	屋 恵 番 羽 築 (3.4) —	外側 ナゲ 内面 ナゲ	外 10Y7/1 底白色 内 10Y8/1 底白色 断 10Y8/1 底白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 硬	
第7902 477 国鉄 — 745 G24EP	瓦 番 羽 築 (3.6) —	体部外側 ヘラケズリ 内面 撥糞のため調整不明	外 N3/0 黄灰色 内 N3/0 底色 断 5Y8/2 底白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 軟	内面 傷付着

登録番号 出土地点	器種・器形 計測値	底形・調整	色調・削土・焼成	備考
第79回 478 358 G19WH	瓦 鉢 (4.5)	裏剥のため調整不明	外 内 断 0.5mm人の白色砂粒を含む 燒	内面 厚目 内面 塗付蓋
第79回 479 359 G24L	瓦 鉢 (3.9)	口縁部外面 ナデ 外部外面 ハラケズリ 口縁部内面 ナデ	外 内 断 0.2mm大の白色砂粒を多く含む 燒	内面 厚目
第79回 480 360 G18MY	瓦 鉢 (3.5)	口縁部外面 ナデ 外部外面 ハラケズリ 口縁部内面 ナデ	外 内 断 0.2mm大の白色砂粒を多く含む 燒	
第79回 481 361 G18MV	圓 壺 鉢 (22.5) (3.9)	口縁部外面 ナデ 内面 厚剥のため調整不明	外 内 断 0.5mm人の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第79回 482 362 G21D P	瓦 鉢 (30.9) (4.7)	口縁部外面 ナデ 外部外面 ハケ 口縁部内面 ナデ、ハケ	外 内 断 0.2mm大の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元 内面 厚目
第79回 483 363 G19WH	瓦 鉢 (1.5) (4.8)	体部外面 ハラケズリ 底面 ハラケズリ 内面 ナデ	外 内 断 2.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第79回 484 364 G19UG	瓦 鉢 (1.7) (6.0)	体部外面 ハラケズリ 底面 ハラケズリ 内面 厚剥のため調整不明	外 内 断 2.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元 内面 厚目
第80回 485 365 G24EO	土 壺 鉢 (28.5) (3.8)	外側 ナデ 内面 ナデ	外 内 断 2.0mm大の白色砂粒を含む 燒	反転復元 内面 塗付蓋
第80回 486 366 G19FB	瓦 鉢 (31.6) (4.2)	口縁部外面 ナデ 体部外面 ナタキ 口縁部内面 ナデ	外 内 断 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒	反転復元
第80回 487 367 G24BP	瓦 鉢 (31.8) (4.7)	口縁部外面 ナデ 体部外面 ナタキ 口縁部内面 ナデ	外 内 断 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第80回 488 368 G19XL	瓦 鉢 (14.8) (2.5)	口縁部外面 ナデ 内面 厚剥のため調整不明	外 内 断 0.2mm人の白色砂粒を多く含む 燒	反転復元
第80回 489 369 G19WK	質 地 杯 壺 (14.6) (3.6)	口縁部外面 反転ナデ 天井部 カメ 内面 反転ナデ	外 内 断 0.2mm人の白色砂粒を若干含む 燒	反転復元

登録番号	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 士 ・ 物 成	備 考
第80回 90 因版 — 700 G19WL	白 瓶 直 (10.9) (2.2) —		外 2.5G Y8.1 淡白色 内 2.5G Y8.1 淡白色 断 10G Y8.1 明瞭淡色 燒 — 硬	反転底元 口ハゲ
第80回 91 因版 38 763 G24DN	陶 瓶 小 梱 (6.2) (1.8) —	外面 凹輪ナデ 底面 同軸ホクリ 内部 接地	外 7.5YB 1 淡白色 内 5YR 4/4 にぶい赤褐色 断 7.5YB 1 淡白色 燒 — 硬	反転底元 美濃・棚戸系鉄輪
第80回 92 因版 36 348 G19TD	陶 瓶 直 (0.7) (6.2) —	内外面 抗物	外 7.5Y7.3 淡黄色 内 7.5Y6.3 オリーブ黄色 断 10Y8.2 淡白色 燒 — 硬	反転底元 山花紋 美濃・棚戸系灰釉
第80回 93 因版 38 316 G19RY	青 瓶 直 (13.0) (5.0) —	内外面 抗物	外 5Y6.4 オリーブ黄色 内 5Y6.4 オリーブ黄色 断 2.5Y8.1 淡白色 燒 — 硬	反転底元 外 面 灰紋
第80回 94 因版 36 747 G24FP	土 置 品 土 瓶 參良 (5.9) 白 1.7 —	手づくね	外 7.5YR2.3 にぶい褐色 内 7.5YR2.2 淡白色 断 2.0mm 大の白色、赤色砂粒を多く含む 燒 中	
第80回 95 因版 37 232 G19QC	瓦 平 瓦 長 (8.2) 白 (8.9) 厚 2.7	内外面 ハナレ筋	外 2.5YS 1 黒灰色 内 2.5Y7.1 淡白色 断 1.0mm 大の白色、黒色砂粒を含む 燒 中	
第80回 96 因版 36 324 G19PB	瓦 軒丸瓦 高 (5.2) —	厚板のため調整不可	外 N4.0 淡色 内 白色 断 0.5mm 大の白色砂粒を含む 燒 中	外区 稲文 内区 巴文

整地層

登録番号	器種・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 士 ・ 物 成	備 考
第83回 300 因版 37 657 G19Y 1	瓦 瓶 直 (28.4) (3.8) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 ヘラケズリ 口縁部内面 ハケ	外 N6.0 淡色 内 7.5Y4.1 淡色 断 10Y8.1 淡白色 0.5mm 大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転底元
第83回 301 因版 37 705 G24DO	瓦 瓶 直 (28.8) (4.5) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 ヘラケズリ 口縁部内面 ハケ	外 N4.0 淡色 内 N8.0 淡白色 断 N8.0 淡白色 0.5mm 大の白色砂粒を含む 燒 中	反転底元
第83回 302 因版 37 715 G24DN	瓦 瓶 直 (5.1) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 ヘラケズリ 口縁部内面 ハケ	外 N3.0 暗灰色 内 N3.0 暗灰色 断 1.5Y8.2 淡白色 0.5mm 大の白色砂粒を多く含む 燒 中	内面 純目
第83回 303 因版 — 723 G24GP	瓦 瓶 (4.6) —	口縁部外面 ナデ 体部外面 ヘラケズリ	外 7.5Y7.1 淡白色 内 10Y7.1 淡白色 断 10Y7.1 淡白色 0.5mm 大の白色砂粒を多く含む 燒 硬	内面 純目

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成形・調整	色調・胎土・焼成	備考
第83回 504 四版 — 300 G19VG	瓦 鋸 鉢 — — (6.4)	口縁部外面 ナデ 全体外面 ヘラケズリ 口縁部内面 ハケ	外 N5.0 底色 内 N4.0 底色 断 N8.0 底白色 0.5mm大の白色砂粒を多く含む 燒 硬	内面 磨り
第83回 505 四版 — 723 G25GP	瓦 鋸 鉢 — (4.1)	口縁部外面 ヨコナギ その他 製耗のため調整不明	外 7.5Y4/1 底色 内 2.5Y6/2 底黄色 断 10YR6/2 底黄褐色 1.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒 硬	
第83回 506 四版 37 680 G19AN	陶 鉢 鉢 — (4.2) (10.0)	体部外面 ヘラケズリ 底面 ヘラケズリ 底部内面 ナデ	外 2.5YR7/6 棕色 内 N7.0 底白色 断 2.5YR7/6 棕色 5.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒 硬	反転復元 内面 磨り 側面
第83回 507 四版 37 706 G24AL	陶 杯 鉢 — (4.5) (13.7)	体部外面 ナデ 体部内面 ナデ	外 N4.0 底色 内 N8.0 底白色 断 N8.0 底白色 0.5mm大の白色砂粒を含む 燒 中	反転復元
第83回 508 四版 — 733 G24DR	土 釜 器 皿 — (6.8) (1.4)	口縁部内面、外面 ナデ 底面 ナオサニ 底部内面 ナオサニ	外 7.5YR7/4 にぶい褐色 内 10YR8/3 黄褐色 断 7.5YR7/4 にぶい褐色 0.2mm大の白色砂粒を多く含む 燒 中	反転復元
第83回 509 四版 — 649 G19YM	土 釜 器 皿 — (6.9) (1.1)	口縁部外面、底オサニ 底面 ナオサニ 底部内面 ナデ	外 7.5YR7/3 にぶい褐色 内 10YR8/3 浅黄褐色 断 10YR8/3 浅黄褐色 0.5mm大の白色砂粒を若干含む 燒 中	反転復元
第83回 510 四版 38 286 G19TE	青 陶 器 皿 (12.8) (4.3) —	内外面 漆繪	外 5Y4/2 底オリーブ色 内 5Y4/2 底オリーブ色 断 10R6/1 底灰色 燒 硬	反転復元
第83回 511 四版 — 671 G24CN	白 陶 器 皿 (1.2) (2.6)	体部外面 刷毛ナゲ 内面 漆繪	外 7.5Y8/1 底白色 内 2.5Y8/4 底黄色 断 7.5Y8/1 底白色 燒 硬	
第83回 512 四版 — 659 G24DM	瓦 平瓦 瓦 (19.0) (7.3) 厚 (2.5)	瓦面 ナワタキ 瓦面 本目正模	凸 N8.0 反色 凹 N5.0 底色 断 N6.0 底色 2.0mm大の白色砂粒を多く含む 燒 硬	

第3耕作面耕上

登録番号 出土地区	器種・器形 計測値	成形・調整	色調・胎土・焼成	備考
第84回 513 四版 38 255 G19OB	青 陶 皿 — — (3.8)	内外面 刷毛	外 7.5GY7/1 明緑反色 内 7.5GY7/1 明緑反色 断 N8.0 底白色 燒 硬	
第84回 514 四版 — 125 G19SF	土 陶 器 皿 (9.0) (1.0) —	口縁部外面 ナデ 底面 ナオサニ 内面 調耗のため調整不明	外 2.5Y8/3 淡黄色 内 2.5Y8/3 淡黄色 断 10YR7/6 明黄褐色 1.0mm大の黑色砂粒を含む 燒 中	反転復元

登録番号 出土地区	種類・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 脂 土 ・ 燃 成	備 考
第84区 515 出典 — 200 G19XC	陶 器 罐 — (2.1) (4.4)	体部外面下部 施釉 底部外面下半 ヘラケズリ 内部 施釉	外 10YR7/2 に赤い黄褐色 内 10Y7/1 赤白色 断 10YR8/2 赤白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 施	反転復元 粉青沙器
第84区 516 出典 38 300 G19VF	灰 陶 器 罐 — (1.2) (5.0)	体部外面 ヘラケズリ 底部 施釉 内部 施釉	外 7.5Y8/1 赤白色 内 7.5Y7/3 淡黄色 断 7.5Y8/1 赤白色 0.2mm以上の白色砂粒を含む 施	

第4耕作面耕土

登録番号 出土地区	種類・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 脂 土 ・ 燃 成	備 考
第85区 517 出典 38 181 G18QX	白 器 皿 — (14.6) (1.8)	内外面 施釉	外 N8.0 赤白色 内 N8.0 赤白色 断 N8.0 赤白色 — 硬	反転復元
第85区 518 出典 38 244 G19TH	陶 器 罐 — (1.1) (3.2)	外面 ヘラケズリ 内部 施釉	外 5YR7/4 に赤い褐色 内 5YH1.7/1 黒色 断 7.5Y8/1 赤白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 施	美濃・鶴井系統
第85区 519 出典 38 176 不明	黑 器 器 鉢 — (2.6)	口縁部外側 ナデ 口縁部内側 ナデ	外 N7.0 赤白色 内 N6.0 黒色 断 N6.0 黒色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 施	

第5耕作面耕土

登録番号 出土地区	種類・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 脂 土 ・ 燃 成	備 考
第87区 521 出典 38 169 G19WF	陶 器 器 杯 盆 — (13.6) (3.0)	外面 口軽ナデ 内部 口軽ナデ	外 N6.0 赤色 内 10Y8/1 赤白色 断 10Y8/1 赤白色 0.2mm以上の白色砂粒を多く含む 施	反転復元
第87区 522 出典 38 136 G19RB	陶 器 — (3.0)	口縁部外側 ナデ 口縁部内側 ナデ	外 10R4/6 赤色 内 10R5/6 赤色 断 2.5YR7/4 淡赤褐色 1.0mm以上の白色砂粒を多く含む 施	
第87区 523 出典 38 569 G19WL	瓦 器 盆 — (4.2)	口縁部外側 ナデ 口縁部内側 ナデ	外 10Y7/1 赤白色 内 N3.0 暗赤色 断 5Y8/2 赤白色 0.5mm以上の白色砂粒を含む 施	内面 順目
第87区 524 出典 38 570 G21AJ	瓦 器 器 盆 盆 — (10.3) (2.0) (1.2)	外面 施釉 内部 施釉	外 10Y6/3 オリーブ赤色 内 7.5Y7/2 淡白色 断 10Y8/1 赤白色 — 硬	反転復元 美濃・鶴井系統
第87区 525 出典 38 617 G24DM	陶 器 器 — (4.0)	体部外側 取り出しヘラケズリ 体部内側 取り出し	外 5YH5/4 に赤い赤褐色 内 5YR7/4 に赤い褐色 断 5YR7/4 に赤い褐色 2.0mm以上の白色砂粒を含む 施	反転復元

登録番号	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第87回 526 固版 38 199 G18OX	青 紺 基 （ 2.1 ）	内外面 施粘	外： 10YR8/1 底白色 内： 10YR8/1 底白色 断： 5YR8/2 底白色 燃： 硬	

第6 耕作面耕土

登録番号	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第88回 527 固版 38 087 G19PA	桑 村 國 （ 10.7 ） （ 3.15 ） —	内外面 施粘	外： 2.5G Y8/1 底白色 内： 10G Y8/1 明緑灰色 断： 10Y8/1 底白色 燃： 硬	反転復元
第88回 528 固版 38 088 G19XG	白 紺 國 （ 1.1 ） （ 4.1 ）	外側 刮出し高台 内面 施粘	外： 10Y8/1 底白色 内： 10G Y8/1 明緑灰色 断： 10Y8/1 底白色 燃： 硬	反転復元

網紋包含層

登録番号	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第99回 567 固版 — 715 G24QY	網 紋 土 器 深 紋 （ 5.4 ） （ 8.2 ）	外： ナメ方向の条痕 内： ナデ	外： 7.5YR4/2 底褐色 内： 10YR5/2 底黄褐色 断： 7.5YR3/1 黒褐色 燃： 片岩性、砂粒を含む 燃： 中	反転復元
第99回 568 固版 48 580 G24MU	網 紋 土 器 深 紋 （ 3.7 ） （ 8.6 ）	摩耗のため調整不明	外： 10YR7/4 底灰褐色 内： 2.5Y4/1 底灰褐色 断： 2.5Y4/1 底灰褐色 燃： 砂粒を多く含む 燃： 中	反転復元

877-OR

登録番号	基盤・基形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 地 土 ・ 燃 成	備 考
第99回 569 固版 48 716 G24-IIQ	網 紋 土 器 深 紋 （ 3.4 ） （ 12.7 ）	摩耗のため調整不明	外： 2.5YR8/2 底白色 内： 7.5YR7/6 緑色 断： 7.5Y4/2 底褐色 燃： 3mm大の白色斑及び砂粒を含む 燃： 中	反転復元
第99回 570 固版 48 641 G24-IIQ	你 生 土 器 高 底 （ 8.1 ）	脚部外： ヘラミガキ 脚部内： ゴコナデ	外： 5YR8/1 底白色 内： 7.5YR8/2 底白色 断： 10YR6/8 棕褐色 燃： 白色砂粒を含む 燃： 中	
第99回 571 固版 48 682 G24-IIQ	你 生 土 器 — （ 6.5 ） 4.9	外： タタキ目 内： 板状工具によるナデ	外： 10YR6/2 底黄褐色 内： 10YR5/2 底黄褐色 断： 10YR7/2 にぶい黄褐色 燃： 7mm大の白色斑及び砂粒を含む 燃： 中	一部復元

登録番号 出土地区	種類・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 士 ・ 残 灰	備 考
第99回 572 因版 48 650 G24-HQ	井生土 器 蓋 — (5.7) (12.0)	摩耗のため調整不明	外: 7.5Y R8.2 黄白色 内: 7.5Y R1.7/1 黒色 断: 10Y R4.1 黄灰色 筋: 6 mm の白色線及び砂粒を含む 底: 中	反転復元

1313-O S

登録番号 出土地区	種類・器形 計測値	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 土 士 ・ 残 灰	備 考
第99回 573 因版 48 657 G24-HQ	井生土 器 蓋 — (9.2) (3.8)	外: ヘラミガキ 内: ヨコナダ	外: 7.5Y R8.2 黄白色 内: 7.5Y R7.2 明褐色 断: 2.5Y R7.4 黄赤褐色 筋: 3 mm の白色線及び砂粒を含む 底: 中	反転復元

866-O D出土石器

	登録番号 出土地区	種類	規長 規幅	最大厚 重 量	材質	備考
第1228 24 因版 39	720 G19TH	石 砕	24.8 38.7	4.1 1.1	ナスカイト	
第1228 25 因版 39	720 G19TH	二次調整のある 剝 片	22.1 35.7	4.6 3.0	ナスカイト	
529 因版 39	720 G19TH	二次調整のある 剝 片	17.0 32.2	10.8 5.4	ナスカイト	
530 因版 39	1031 G19TH	剝 片	32.2 18.4	4.6 3.5	ナスカイト	
531 因版 39	1002 G19TH	剝 片	23.6 39.9	5.0 5.6	ナスカイト	
532 因版 39	907 G19TH	二次調整のある 剝 片	26.3 22.0	8.5 5.5	ナスカイト	
533 因版 39	1089 G19TH	二次調整のある 剝 片	31.5 36.5	9.2 12.1	ナスカイト	
534 因版 40	1089 G19TH	二次調整のある 剝 片	37.3 28.8	10.4 11.8	ナスカイト	
535 因版 40	720 G19TH	剝 片	45.8 34.8	19.3 14.6	ナスカイト	原縁面を残す
536 因版 40	722 G18SG	剝 片	27.7 30.7	4.7 3.6	ナスカイト	
537 因版 40	722 G18SG	剝 片	22.5 16.3	11.7 5.7	ナスカイト	
538 因版 40	1002 G19TH	剝 片	15.0 34.9	12.9 6.0	ナスカイト	
539 因版 40	1002 G19TH	剝 片	16.6 39.6	11.1 7.0	ナスカイト	
540 因版 40	907 G19TH	剝 片	26.0 15.0	4.1 1.5	ナスカイト	
541 因版 40	1030 G19TH	剝 片	24.2 22.1	9.5 2.8	ナスカイト	原縁面を残す
542 因版 40	720 G19TH	剝 片	22.1 19.2	4.1 0.8	ナスカイト	

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
543 圓底 40	1149 G19TH	刮削片	15.3 25.1	4.8 1.9	サヌカイト	
544 圓底 40	720 G19TH	刮削片	12.2 19.0	3.3 1.2	サヌカイト	
545 圓底 40	222 G18SG	刮削片	7.3 18.2	4.1 0.5	サヌカイト	

867-O D出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第17回 36 圓底 41	1175 G19RE	石鏃	47.1 25.6	4.0 2.8	サヌカイト	
第17回 40 圓底 41	1003 G19QD	石鏃	32.4 19.1	3.8 1.5	サヌカイト	
第17回 41 圓底 41	900 G19RE	石鏃	16.8 10.4	7.2 1.0	サヌカイト	
546 圓底 41	913 G19RE	二次調整のある 刮削片	34.9 18.9	4.2 2.6		

880-O O出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第19回 42 圓底 41	906 G19U1	石鏃	39.2 21.2	4.8 2.4	サヌカイト	

878-O S出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第25回 54 圓底 41	1056 G19-TO	石石	177.0 75.0	92.0 1798.7	砂岩	

787-O R出土石器・自然遺物

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第46回 238 圓底 42	838 G18NY	石鏃	44.7 16.2	4.7 2.1	サヌカイト	
第46回 240 圓底 42	377 G19PB	刮削片	38.7 45.7	10.3 19.4	サヌカイト	
第46回 241 圓底 42	1177	石鏃	65.1 41.7	32.2 78.8	サヌカイト	
第46回 242 圓底 42	976 G18MY	石鏃	42.8 12.8	5.8 3.4	サヌカイト	
第47回 243 圓底 42	806 G19TD	石石	171.0 153.0	47.0 1907.8	砂岩	東層2・3層

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第45回 244 園版 42	881 G19 P A	砥石	150.0 110.0	97.0 1553.9	砂岩	4層
第45回 245 園版 43	1174 G19 P B	砥石	260.0 130.0	107.0 4730	砂岩	
566 園版 47		種子	25.1 18.1	14.8 2.0		

1300—OR出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第66回 295 園版 44	999 G19W I	スクレーパー	72.2 56.2	12.4 44.3	サスカイト	4層
第66回 297 園版 44	1126 G24	スクレーパー	43.7 12.6	4.9 2.9	サスカイト	4層
第66回 306 園版 44	986 G24D N	石斧	86.8 77.9	15.1 53.1	サスカイト	4層
547 園版 43	881 G24	刮片	48.4 32.9	6.5 19.3	サスカイト	1層 (877-05)
548 園版 43	865 G24	刮片	34.4 24.8	4.2 3.1	サスカイト	1層 (877-05)
549 園版 43	866 G24	刮片	22.4 21.1	4.7 20.5	サスカイト	1層 (877-05)
560 園版 44	1138 G24 B O	二次調整のある 刮片	32.9 17.8	4.4 2.6	サスカイト	4層
561 園版 45	1126 G24	刮片	37.8 44.3	15.3 26.0	サスカイト	4層

第1耕作面耕土 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第76回 446 園版 45	414 G18 G Y	スクレーパー	98.4 47.6	14.9 69.0	サスカイト	
第76回 447 園版 46	544 G19 X G	スクレーパー	54.4 37.2	12.8 34.0	サスカイト	

第2耕作面耕土 出土石器・金属製品

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第80回 497 園版 47	778 G18 M Y	鍛錠	141.0 66.0	17.0 106.4	鉄	
第81回 498 園版 47	1180 G19 W K	鍛金具	31.0 45.0	1.5 6.6	鉄	
第82回 499 園版 48	341 G19 V F	スクレーパー	46.0 43.8	13.5 19.4	サスカイト	

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
562 圓版 48	385 G19TH	二次裏面のある 鉄 片	42.1 55.1	12.3 20.6	サスカイト	

整地層 出土金属製品

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
563 圓版 47	1179 G24A J	銅 鉢	径22.0	1.3 1.6	銅	「船形玉」

285—O S 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第86回 520 圓版 45	335 G19T I	巴 石	222.0 129.5	91.2 3902.3	砂岩	

第5耕作面耕上 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
563 圓版 46	386 G24D Q	スクレーパー	33.8 34.5	7.1 5.2	サスカイト	
564 圓版 47	616 G24AM	石 製 品	46.5 53.8	6.3 2.9	不明	

第1～3層 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 584 圓版 49	281 G25O B	石 砕	26.7 13.0	3.6 1.1	サスカイト	
第104回 591 圓版 49	525 G24J S	石 砕	20.9 14.4	3.6 0.8	サスカイト	
第107回 602 圓版 49	623 G24Q D	石 砕	26.0 18.4	5.9 2.5	サスカイト	
第106回 599 圓版 51	533 G25R E	スクレーパー	122.6 57.0	13.7 110.1	サスカイト	
第107回 604 圓版 51	704 G25P C	石 砕	110.9 31.0	16.2 77.5	サスカイト	
第104回 575 圓版 49	562 G25Q C	石 砕	18.9 11.7	4.1 0.6	サスカイト	
第105回 584 圓版 50	609 G24O X	スクレーパー	38.6 25.5	11.7 9.8	サスカイト	
第105回 595 圓版 50	612 G24T T	スクレーパー	84.8 36.2	11.1 41.1	サスカイト	
第107回 600 圓版 50	594 G24G T	スクレーパー	48.0 43.2	6.5 16.7	サスカイト	

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第107回 600 図版 —	22 G25QD	石器	39.3 29.9	6.6 8.3	片割	

その他 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 387 図版 48	384	石器	39.6 16.6	2.9 1.1	サスカイト	
第107回 601 図版 51	720	石器	35.5 26.7	49.1 534.9	砂岩	

1420—OO出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 581 図版 ⑨	713 G24N X	石器	19.4 15.3	4.4 0.9	サスカイト	

1407—OR出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 585 図版 49	490 G24P Y	石器	25.1 14.1	3.4 0.9	サスカイト	

1410—OR出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 596 図版 49	590 G25P B	石器	15.4 14.8	3.4 0.8	サスカイト	
第104回 590 図版 49	700 G25P B	石器	23.9 20.0	5.6 2.6	サスカイト	

繩紋包含層 出土石器

	登録番号 出土地区	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
第104回 574 図版 49	706 G24P X	石器	20.1 11.4	2.4 0.5	サスカイト	
第104回 576 図版 49	606 G25A A	石器	20.1 18.3	3.5 0.7	サスカイト	
第104回 577 図版 49	600 G25S D	石器	20.5 17.5	3.1 1.0	サスカイト	
第104回 578 図版 49	708 G25P A	石器	16.0 18.5	3.5 1.0	サスカイト	
第104回 579 図版 49	702 G24P Y	石器	14.7 12.8	3.0 0.4	サスカイト	

	登録番号 出土地区	種類	現長 幅	最大厚 度	材質	備考
第104回 580 國版 49	705 G21PX	石 磨	21.9 17.3	4.8 1.4	サスカイト	
第104回 582 國版 49	627 G25SC	石 磨	23.1 15.1	3.2 0.9	サスカイト	
第104回 583 國版 49	698 G24QY	石 磨	16.1 13.4	2.5 0.5	サスカイト	
第104回 588 國版 49	704 G25RA	石 磨	30.7 20.9	7.8 3.4	サスカイト	
第104回 589 國版 49	510 G25PA	石 磨	30.2 23.4	4.7 4.6	ワスカイト	
第105回 392 國版 50	600 G24KV	尖頭器	66.4 32.9	13.1 27.0	サスカイト	
第105回 393 國版 49	703 G24NX	石 磨	35.3 27.6	4.8 4.4	サスカイト	
第105回 396 國版 50	571 G2MY	スクレーパー	73.8 42.9	11.1 35.0	サスカイト	
第106回 397 國版 50	576 G24NW	スクレーパー	74.5 29.4	14.1 30.3	サスカイト	
第106回 398 國版 50	707 G24MU	スクレーパー	61.6 32.2	9.5 29.2	サスカイト	



図 版



遺跡周辺



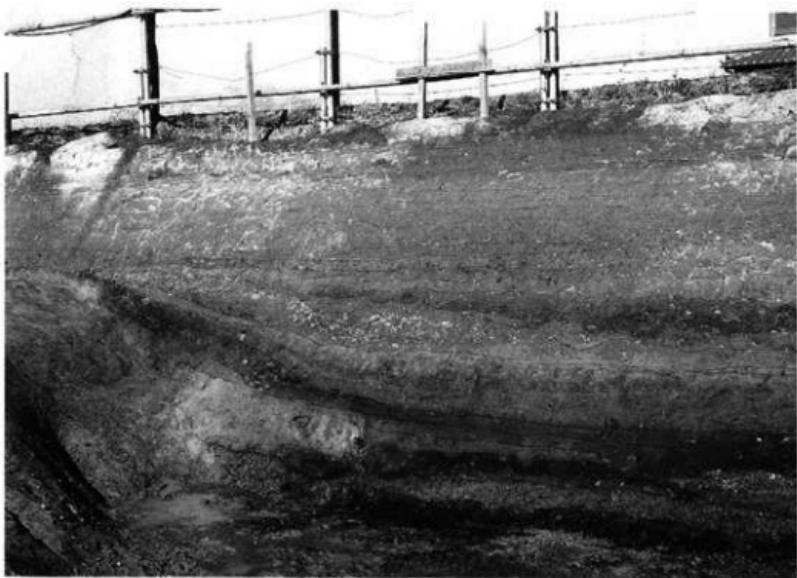
a. 第1次調査区全景（西から）



b. 第1次調査区全景（東から）



a. 調査前風景



b. 基本土層断面（東壁）



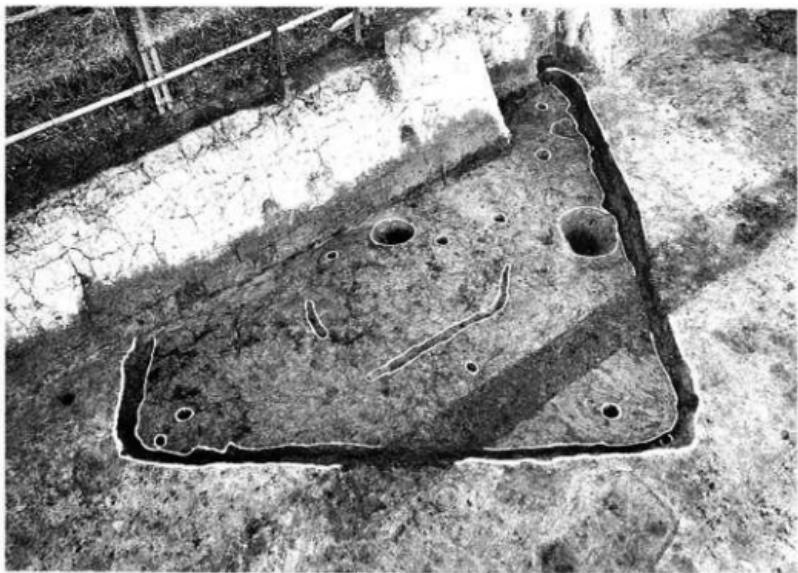
弥生時代遺構面全景（北から）



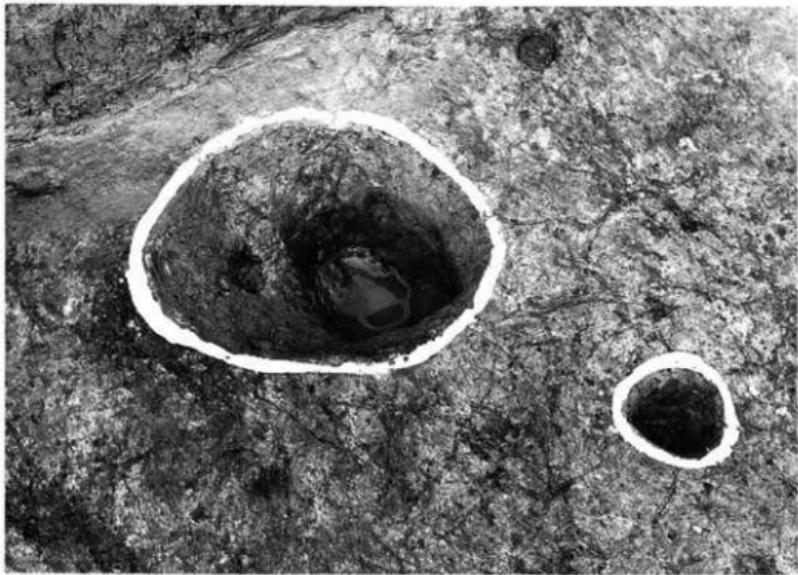
a. 866-O D 遺物・炭化材出土状況



b. 866-O D 手培形土器出土状況



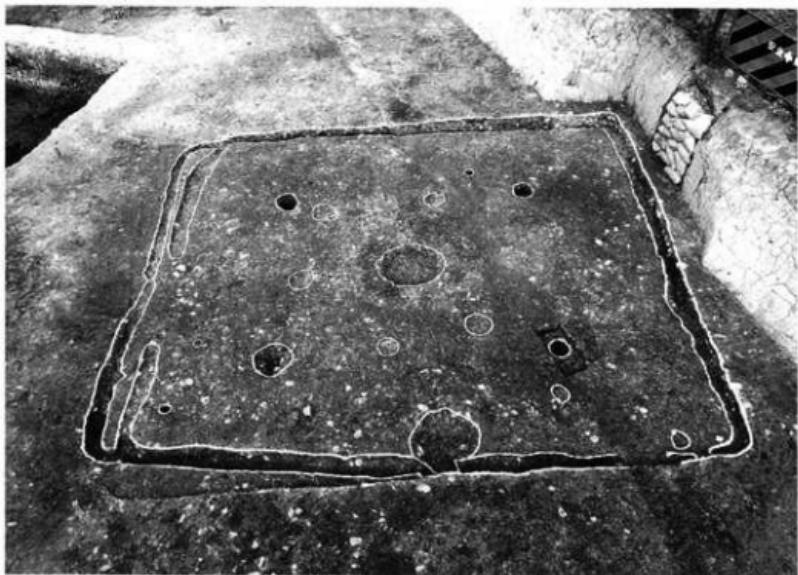
a. 866-O D 全景



b. 866-O D 柱穴 (894-O P)



a. 866-OD 土坑 (883-OO)



b. 867-OD 全景



a. 867-O-D 炭化材出土状況



b. 867-O-D 炭化材出土状況（細部）



a. 867-O D 爐 (885-O O)



b. 867-O D 土坑 (893-O O)